

第一号

吉林 本省 1月2日後着

当館敦化警察官派遣所ハ松田部長外巡查十四名ヲ以テ一月一日開設セリ蛟河派遣所ハ開設準備中過般兵匪ノ掠奪ヲ受ケ尚付近ノ匪賊カ我派遣所ノ開設ヲ狙ヒ居ルトノ情報アリ事態内偵中ナルカ遠カラス開設ノ見込夫レ迄ハ敦化ノ人員ヲ十五名トナシ置ク積リナリ

支、北平、奉天、長春、閭島、朝鮮総督へ転電セリ

428 昭和7年1月6日

在安東米沢領事より
犬養外務大臣宛

警察官派出所巡查引揚げ後における安奉沿線一帯の状況について

機密第七号

昭和七年一月六日

在 安 東

領 事 米 沢 菊 二(印)

外務大臣 犬 養 毅 殿

警察官派出所巡查引揚げ後ノ状況ニ関スル件

右報告申進ス

本信写送付先 公使 北平 奉天

429 昭和7年1月6日 在安東米沢領事より
犬養外務大臣宛

安奉沿線警備の充実について

普通第八号

昭和七年一月六日

在 安 東

領 事 米 沢 菊 二(印)

外務大臣 犬 養 毅 殿

安奉沿線警備ノ充実ニ関スル件

安奉沿線ニ於ケル匪賊ノ横行跋扈ハ屢報ノ通ノ状況ニシテ鳳凰城其ノ他中間駅ノ襲撃電柱ノ切り倒シ電線ノ切断民家ノ放火等累戻至ラサルナク之カ警戒及防衛ノ為警察官ノ増員ト共ニ兵器ノ充実ハ刻々其ノ必要ヲ増シツツアリタル次第ナル処今般関東庁ヨリ酒井警部以下警官三十名ノ来援ヲ得ルコトトナリ一行ハ三日来安根拠地ヲ鶏冠山ニ置キ安東警察署ト呼応シ適宜部下ヲ各所ニ移動応援セシメ遊撃隊ト

鴨緑江下流地方一帯ニ於ケル匪賊ノ跳梁ニ依リ一名乃至二名ノ巡查ニ巡捕一名ヲ配置セルニ過キサル各地警察官派出所ノ危険増大セルニ鑑ミ渾水泡大東溝接梨樹及大孤山駐在巡查ニ一先ッ安東へ引揚ヲ命シタル次第ハ客年十二月二十四日拙電ノ通ナル処其ノ後同方面ニ於テハ一般支那人ハ移住鮮人ヲ蔑視スルコト甚シク昼間公然鮮人宅ヲ訪レ農具其ノ他目星シキ家具類等ヲ手当リ次第ニ持去リ之ヲ阻止スレハ直ニ隣人ヲ集メ打擲暴行ヲ加フル外商租地等ニ付テモ種種不利ナル難問題ヲ持出ス等横暴ヲ極メ一般移住鮮人ハ甚シク困惑シ居ル趣ニシテ過般当館ニ出頭セル朝鮮人会安西支部長ヨリ我官憲ノ保護ノ一日モ速カナランコトヲ熱望スル旨縷々陳情ノ次第アリタリ

右ハ事情誠ニ尤ノ義ナルモ各派出所ニ対シ警察官ノ増派ヲ為スニ非サル限り今直ニ引揚巡查ヲ帰還セシムルコト不可能ノ実情ナル処安奉沿線一帯ニ於ケル匪賊ノ跋扈昨今殊ニ甚シキモノアルニ鑑ミ此ノ方面警備ノ為当分前記増派ハ到底困難ト認メラレ旁々差当リハ匪賊襲来等ノ際軍隊又ハ警察隊ニ依ル討伐ノ外日常ニ於ケル現地保護ハ見込ナキ状態ニ在リ

シテ活動ヲ開始スルニ至レルト共ニ他方新兵器ノ入手方ニ付満鉄ニ於テ軍司令部トノ間ニ斡旋ノ結果迫撃砲歩兵砲機関銃等計七門及軍用トラック一台ノ融通ヲ受クルコトナリ一日到着必要ノ箇所ニ配置ヲ了シタルヲ以テ沿線警備ハ漸ク一部充実ヲ見ルニ至レリ

右報告申進ス

本信写送付先 公使 北平 奉天

2 東北地方各地の政情

430 昭和6年9月23日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

当地自衛団の同盟罷業について

奉天 9月23日後発
本省 9月24日前着

第七二六号

(一七七〇文書)
往電第六六八号ニ関シ

六百名ノ自衛団ハ二十二日午後ニ至リ突然食糧欠乏給料不渡等ヲ理由トシテ同盟罷業ヲナシ自衛警察局長李毅(瀋陽県長)モ亦病氣辭職シタルヲ以テ我憲兵当局ニ於テハ早速

瀋陽市商会役員馮景異ヲ後任局長ニ任命シ食糧ハ即時糧秣廠ヲ没収シテ供給スル外給料ハ追テ適当ノ方法ヲ講シ支給方保証ヲ与フル条件ヲ以テ新ニ自衛団巡警ヲ募集セシメツツアルモ只今迄ノ処応募者ナシ

431 昭和6年9月25日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

蒙古地方の自治計画に関する蒙古青年党首領の談話について

奉天 9月25日後発
本省 9月26日前着

第七六七号(暗)

昭和三年秋呼倫貝爾独立ヲ計リテ失敗セル蒙古青年党首領郭道甫二十四日当館ニ来訪シ今回ノ事変ヲ機トシ再ヒ同地方ノ自治ヲ図ル為青年団ノ出迎アリ之カ為自分ハ二十五日当地出發帰郷スル処自分ハ必スシモ独立ヲ欲スルモノニアラサルモ現在ノ国民政府ハ表面奉スル所ノ三民主義ヲ事実上我等蒙古人ニ許ササル為之ニ対シ自治ヲ計ラントスルモノナリ此計画ニ対シ自分ハ日本ヨリ何等具体的援助ヲ受ケントスルモノニアラサルモ同情ヲ賜ハラントヲ希望スル

部外ニ絶対極秘)

惟フニ今日ノ儘時日ヲ空費スルニ於テハ諸種ノ状勢上我立場益々困難トナルヘキハ勿論滿州各地治安紛糾シ滿鉄沿線以外ノ邦人全部引揚ノ已ムナキニ至ル虞アリ勿論右新井来談中ニハ疑問ノ余地アルモ張景惠ハ從來真面目ニ日本ト提携ヲ考ヘ居ル事情モアリ且右案カ現下ノ難局ヲ收拾スル唯一ノ方法ナリト思考セラルルニ付テハ怒濤ノ如キ反日感情ヲ押切り右案ヲ遂行スルコトハ相当困難ナルヘキモ兎モ角我方トシテハ少クトモ右ニ対シ好意的中立ヲ保ツコト然ルヘキヤニ考フ右ニ対スル本官ノ心得何分ノ儀御回示アリタシ

追テ本件ノ真相ヲ確ムヘク張景惠ニ面談シ度キモ目下緊急ノ場合相互ニ其暇無ク且新井ノ言ニ依レハ張ハ暫ク本官トノ会见ヲ延期シ度キ旨希望シ居ル趣ナルニ付右聞込ノ儘請訓ス

奉天へ転電セリ

433 昭和6年9月26日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

奉天における地方維持委員会の組織について

モノナリ云々ト語レリ
哈爾濱ヨリ齊齊哈爾、滿州里ニ転電セリ

432 昭和6年9月25日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

東四省の政務掌握に関する張景惠の決意について

ハルビン 9月25日後発
本省 9月25日後着

第二二三号(至急)

張景惠ハ二十四日帰来シタルカ同人ト二十年來ノ關係アル新井宗春ノ来談ニ依レハ張ハ東四省カ今日ノ如ク首腦者ナキ儘経過スルニ於テハ日本勞農ノ勢力範圍益々混乱シ收拾スヘカラサル状態ニ陥ルヘキヲ恐レ自ラ其責ニ任スル為先ツ当地ニ於テ自ラ全責任ヲ負ヒテ特區内ノ諸政ヲ行フコトヲ決意シ既ニ昨日來当地各方面ノ要人ト協議済ナル上洮南ノ鎮守使張海鵬等トノ連絡モアル趣ナリ右特區ノ処置一段落ノ後民選ノ形ニ於テ奉天ニ乗込ミ東四省ノ政務ヲ把持セントスル堅キ決心ヲ以テ進行中ナル趣ナルカ右ニハ軍部ニ於テモ前記新井ヲ通シテ關係シツアル模様ナリ(此ノ点

第七七七号

奉天 9月26日後発
本省 9月26日後着

往電第七五六号ニ関シ

地方維持委員会ハ我市長ニ於テ委員ヲ任命スル形式ヲ採ルニ於テハ一般支那人ニ対スル委員ノ立場ヲ困難ナラシムル事情ニ鑑ミ特ニ支那人有力者カ自発的ニ右委員会ヲ組織セル形ト為シタル次第ナリトノコトニ付御含ミアリタシ在支公使、南京、北平、天津、青島、在滿州各領事へ転電セリ

434 昭和6年9月26日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

吉林省、ハルビンの独立宣言に関する情報について

奉天 9月26日後発
本省 9月27日後着

第七八一号(暗、極秘)

情報ニ依レハ予テ関東州ニ引退中ノ清朝ノ遺臣羅振玉ハ某方面ノ慫慂ニ依リ二十三日当地ヲ經テ吉林ニ赴キ旧知ノ間

柄ナル前参謀長熙洽及前財政厅长榮厚等ヲ説キ吉林省政府ヲ国民政府ヨリ独立セシムル事トシ二十八日頃宣言書ヲ發表スル事トナレルカ哈爾賓ニ於テモ張景惠主トナリ同シク二十八日頃国民政府トノ關係離脱ヲ宣言スル計画アル由ナリ真偽不明ナルモ不取敢

支、南京、北平、吉林、哈爾賓へ転電セリ

435 昭和6年9月26日 在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

奉天省城内外警備のため保安隊・商団の募集について

奉天 9月26日後発
本省 9月27日後着

第七八四号

往電第七二六号所報我憲兵隊直屬ノ自衛団約七百名全部ニ対シ我軍ハ二十七日小銃ヲ交付スルニ決シタルカ我軍ハ更ニ二十六日地方治安維持会ノ組織ニ基キ省城内外警備ノ為別ニ保安隊一千名ノ募集方ヲ承認シ保安隊長ニ荒木五郎ヲ副隊長ニ元省会公安局特察長常守陳ヲ任命スル予定ナル処追テ右兩者ハ合併セラルヘキ模様ナリ尚事件前ハ巡警約四

437 昭和6年9月26日 在ハルビン大橋総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

ハルビンにおける東三省政權樹立の策動について

ハルビン 9月26日後発
本省 9月27日後着

第二五一号（暗）

当地ニ於テハ党部ノ三巨頭周守一、臧啓芳、徐セントウハ張學良ト通謀シテ東三省政權ヲ当地ニ於テ樹立セント策動シツツアルヤノ風説アル処新井ノ来談ニ依レハ張景惠ハ決シテ左様ノコトヲセシメサルヘキ旨言明シ居タル趣ナリ

支、北平、奉天へ転電セリ

438 昭和6年9月27日 在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

吉林臨時省政府の成立について

吉林 9月27日後発
本省 9月28日前着

第一〇八号
（七三文書）
往電第一〇〇号ニ関シ

千ヲ以テ治安ヲ維持シ来リタル關係上右自衛団及保安隊ニテハ警備手不足ナルヲ以テ瀋陽市商民ハ我軍ノ了解ヲ得テ商団二千四百人ノ募集ヲ企テ既ニ規則書ヲ發表セリ

哈爾賓ヨリ齊齊哈爾、満州里、間島、鉄嶺、長春ヨリ管下各分館へ夫々転報ヲ請フ

支、北平、南京、天津、青島、在満州各領事ニ転電セリ

436 昭和6年9月26日 在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

吉林における独立計画について

奉天 9月26日後発
本省 9月27日後着

第七八五号（暗、極秘）

往電第七八一号吉林ニ於ケル計画ハ熙洽及榮厚等カ旗人ナルト同地カ清朝発祥ノ地ナルトヲ利用シ清朝復辟ヲ目的トシ近ク羅振玉ハ宣統皇帝ヲ説ク為天津ニ出發スル管ナルカ右計画ハ哈爾賓ニ於ケル張景惠ノ策動ト全然別個ノモノニシテ其間何等連絡ナキ趣ナリ

本電往電第七八一号ト共ニ天津へ転電セリ
転電先冒頭往電ノ通

其後熙参謀長ハ軍指導ノ下ニ新政府ノ組織ニ着手セルカ二十六日臨時吉林省政府成立セリ最高官署ノ名称ヲ吉林省長官公署トシ熙参謀長ハ各団体ノ支持ニ依リ其長官トナリ（参謀長ノ職名ハ自然消滅）其下ニ軍政民政兩庁ヲ直屬セシメ他ニ実業、建設、教育、財政ノ各庁及全省警務処ヲ從來ノ儘ニ存続セシム目下人選確定セル者左ノ如シ

一、軍政厅长ニ郭恩霖（日本陸大卒業元陸軍訓練処参謀長）
二、教育財政実業ノ各厅长及警務処長ハ從來ノ通り
民政建設兩厅长ハ尚人選中尚長春市政籌備処長ハ張燕卿（張之洞ノ息ニシテ從來辺防軍公署秘書）延吉市政籌備処長ニ延吉県知事啓彬夫々任命發表セラル

長春ヨリ哈爾賓へ転報アリタシ
長春、奉天、北平、支、南京、間島、朝鮮総督、関東長官へ転電セリ

439 昭和6年9月27日 在ハルビン大橋総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

張景惠の治安維持会組織計画について

ハルビン 9月27日後発
本省 9月28日前着

第二五六号（至急、極秘）

奉天宛電第二二〇号ニ関シ

二十六日最近共産党ノ策動目立チ来リ且二十五日夜ノ爆弾事件ニ共産党関係アルカ如ク伝ヘラレタルニ付右取締方申入レノ為張景恵ニ会見シタル際張ハ特別区ニ治安維持会ヲ組織シ自ラ其会長トナリ責任ヲ以テ特区内ノ秩序維持ニ当ル事ニ決定シ一兩日中ニ宣言ヲ発スヘキ旨語リタルニ付秩序ノ維持ハ甚タ結構ナルモ此ノ際學良及南京ヨリ独立スルカ如キ形式ニ出ツル事ハ国際関係上面白カラサル旨勧告シ置ケリ

奉天、吉林へ転電セリ

440 昭和6年9月28日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天地方維持会の組織充実について

奉天 9月28日後発
本省 9月28日後着

第七九四号（暗）

土肥原ノ森岡ニ語ル処ニ依レハ今回奉天城治安維持ノ為組織セラレタル地方維持会ヲ指導シテ漸次行政ノ中心機関タ

ランメ市長モ追テ其公選ニ依リ相当ノ支那人ヲ任命セシムル予定ナルト共ニ現ニ我憲兵隊ノ指導下ニ在ル自衛団モ近ク右治安維持会ニ引継キ保安隊ノ名称ニ統一シ相当數ノ警察ヲ組織セシムルニ決シ今日迄ニ其用トシテ小銃一千挺ヲ交付セリト云フ

支、北平、南京、天津、在満州各領事ニ転電セリ

441 昭和6年9月28日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

東省特別区治安維持会成立の布告について

ハルビン
本省 9月28日前着

第二五八号

往電第二五六号ニ関シ

特別区長官張景恵ノ名ニテ二十七日付書翰ヲ以テ治安維持会成立ノ旨当地各国領事宛通告シ来ルト共ニ同文ノ布告ヲ出セル処其全文左ノ通

本長官奉天ヨリ帰来シ深ク在哈各友邦僑民ノ安全及地方治安維持ノ必要ヲ感シ全区治安問題ニ関シ連日各機關各団体會議ヲ招集シ且慎重考慮シタル処全会一致ヲ以テ即日特区

自治維持会ノ組織ヲ決定シ本長官ヲ会長ニ推シタリ一切ノ政務及治安維持ノ事宜ハ本会ニ於テ一切ノ責任ヲ負ツテ主事弁理ス凡ソ本埠各国居留商民ヲシテ努メテ各々生業ニ安ンシ聊カモ恐怖及損害アラシメス

支、北平、南京、奉天、齊齊哈爾、満州里、長春、吉林へ
転電セリ

442 昭和6年9月28日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

治安維持会成立後の張景恵の動向について

ハルビン 9月28日後発
本省 9月29日前着

第二六三号（極秘、暗）

往電第二五八号ニ関シ

治安維持会組織発表後モ予メ各方面ノ同意ヲ得居ル上從來ノ組織ヲ其儘トシ居ル加減カ何等動揺ノ色ナク極メテ平靜ナルカ今後張景恵ニ於テ如何ナル態度ニ出ツルヤ想像ヲ許シ難ク二十六日本官ト会見ノ際本官ノ問ヒニ對シ東三省全權ノ收拾ニハ張作相ヲ推シ度キ考ヘナリト答ヘ居タリ

尚新井ニ對シテハ此ノ際当地ニ滞在スルコトハ各方面ノ誤

解ヲ招ク虞アルニ付至急当地ヲ立チ去ルヘキ旨ヲ勧告シタル結果今夕出發南下スルコトナレリ

公使、北平、奉天、吉林へ転電セリ

443 昭和6年9月29日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天における宗教団体の救済活動について

奉天 9月29日後発
本省 9月29日後着

第八〇八号（暗）

当地中国在理教、紅卍字会、紅十字、道德研究会等ノ宗教団体ハ貧民救済ノ為四民維持会ヲ組織シ關朝聖ヲ會長トシテ寄付金ノ募集ニ着手シ又日支基督教信者ハ中日基督教信者連合救済会ヲ組織シ我カ軍用「パン」ヲ貧民ニ頒布シ居レリ

支へ転電セリ

444 昭和6年9月29日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

伍堂満鉄理事の来奉並に官銀号開店に関する
意見について

第八一四号（暗）

二十七日江口副総裁来奉シ軍司令官ト会見ノ際必要ニ応シ満鉄社員ヲ御用ニ立ツルコトヲ辞セスト語リ更ニ金融機関恢復ノ件ニ談及シ伍堂満鉄理事ヲ来奉セシメ軍部ノ諮問ニ応セシムルコトニ話纏リタル旨ヲ語レルカ本件ハ二十八日朝軍司令官ヨリ本官ニ対シテモ同様ノ話アリタルニ付本官ハ伍堂氏ノ如キ金融専門家ヲ招致シ善処セシムルハ頗ル機宜ニ適スルヲ以テ万事同理事ノ意向ヲ尊重シ出来得ル丈早ク官銀号及辺業銀行等ヲ開店セシムルコトヲ要スル旨述ヘ置キタリ

右ノ次第二ニテ伍堂理事ハ二十九日朝当地着直ニ軍司令部ニ於テ參謀長其他ノ係官ト会見ノ後同夜当館ニ來訪シ司令部ニ於ケル談話ヲ報告シタルカ同理事ハ軍部係官ノ質問ニ對シ官銀号ハ省政府ノ機関ナルヲ以テ省政府ノ存在セサル場合ニ之ヲ開キ得ルヤ疑問ナキ能ハス但シ官銀号ノ開店セサル結果預金者ニ迷惑ヲ及ホシ又兌換ニ応セサル結果錢莊ノ營業ヲ困難ナラシムル事情アルヲ以テ其他^(二)メ至急開店スル

奉天 9月29日後発
本省 9月30日前着

第二二二号

本省 9月29日後着

二十九日稽延吉県長本官ヲ來訪左ノ通内話セリ御参考迄
一、奉天省政府及辺防軍司令官公署ハ錦州ニ移リ政務ヲ開始セル旨通報アリタリ

二、在北平張學良ヨリ二十七日付ヲ以テ万一日本軍出動ヲ見タル場合ハ一切無抵抗主義ヲ以テ終始シ日本居留民ノ保護ハ遺漏ナキヲ期スヘシ今回事件ノ交渉ハ総テ中央ニ於テ之ニ当ル方針ナル旨來電ニ接セリ

三、本日突然自分ヲ延吉市政籌備処長ニ（脱？）電報ニ接シタルヲ以テ張書翰ニ此事ヲ話シタル処至極結構ナリト答ヘタルモ自分トシテハ甚タ心苦シキ立場ニアリ云々
公使、奉天、北平、間島、吉林、琿春、百草溝、頭道溝ニ暗送セリ

446 昭和6年9月29日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

吉林臨時省政府の人事について

吉林 9月29日前発
本省 9月29日前着

必要アル場合ニハ差当リ先ツ内容調査ノ上ニ非サレハ開店セシムルコト困難ナルカ軍ニ於テハ既ニ官銀号ノ内容ヲ調査済ナリヤト尋ネタルニ軍ハ未タ内容ヲ調査セス単ニ之ヲ保管スルニ止メアルモ市政公署ノ經費支出ノ必要上市政公署關係ノ費用トシテ商務總會代表者立会ノ上引出サシメタルノミニシテ他ニハ何等手ヲ付ケタルコトナシトノ回答アリ

依テ同理事ハ三十日朝安東ヨリ帰着スル中国銀行総理張公権等ト市面回復ニ関シ意見交換ノ上更ニ何分ノ進言ヲナスヘキ旨ヲ述ヘ置キタル由ナリ
支、南京、北平、吉林、哈爾濱、長春、天津、齊齊哈爾ヘ転電セリ

哈爾濱ヨリ齊齊哈爾ヘ転電アリタシ

445 昭和6年9月29日 在局子街田中分館主任より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天省政府および辺防軍司令官公署の錦州移転その他張學良の無抵抗主義に関する延吉県長の内話について

局子街 9月29日後発

第一一一号（暗）

往電第一〇八号ニ関シ

吉林臨時省政府ハ二十六日付各法団ノ決議ニ基キ成立ノ旨發表シ且既ニ（脱）通告シタルカ其後人選ノ確定シタルモノ左ノ通

- 一、民政庁長ニ孫其昌（前建設庁長）
- 二、建設庁長ニ富春田（前高等法院長）
- 三、高等法院長ニ孫 隱（元省長代理）
- 四、長春県長馬仲援ハ長官公署ノ秘書トナリ其後任ニ趙汝楫（前東北軍公署秘書）延吉県知事代理ニ張樹珊（吉林省教育会副会長）

軍事当局ニ於テ秘密ト為シ居ルモ臨時政府要人ノ人選ハ一軍ノ承認ヲ經居ルモノナリ
長春ヨリ哈爾濱ヘ転電アリタシ
長春、奉天、北平、南京、支、間島、関東長官ヘ転電セリ

447 昭和6年9月29日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

羅振玉吉林來訪の真否について

第一一二号（暗）

奉天発閣下宛電報第七八一号ニ関シ
羅振玉ノ件ニ付支那側ヲ探リ見タルモ来吉ノ事実未タ判明
セス尚二十八日来吉ノ東京朝日記者ハ右事実ヲ探リ居レリ
奉天ヨリ哈爾濱ヘ転電アリタシ
支、南京、北平、奉天ヘ転電セリ

448 昭和6年9月29日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張景恵の東三省政府組織に対するソ連の画策
について

ハルビン 9月29日後発
本省 9月29日後着

第二六七号（極秘、暗）

二十八日吉林熙參謀長独立ヲ宣言シタル旨当地ニ情報伝ハ
リタルカ当地蘇連総領事館ハ目下何カト多忙ヲ極メ居リ恐
ラク時局殊ニ張景恵ノ往電第二五八号ノ宣言ニ関シ本国政
府ト照復中ナリト思考セラルル処本官ノ推察ニテハ南京政

東省特別区治安維持会の成立に関する張景恵
の通告について

公信第一〇八六号（機密）

東省特別区治安維持会ノ成立ニ関スル

張景恵ノ通告ニ関スル件

本件ニ関シテハ大要電報致シ置キタル通ナル処右通告原文
写別紙ノ通報告ス

本信写送付先 在中華民國公使、北平首席、奉天、上海、

吉林、南京、長春、齊齊哈爾、満州里各

総領事領事

（別紙）

東省特別区行政長官公署公函 字第六〇九六号

逕啓者本長官由遼回哈深感於保護駐哈各友邦領館僑民之安
全及維持地方治安之必要對於全区治安問題連日召集各機關
各团体會議加以縝密之考慮与研究衆志僉同決定即日組設東
省特別区治安維持会並經公推本長官為會長所有一切政務及
治安事宜統由本会主持并理担負一切責任凡在本埠各國僑居
商民務使各安生業不使稍有恐怖及損害本会即於九月二十七
日正式宣布成立会址設在長官公署除分函及布告外相應函請

吉林 9月29日前発
本省 9月29日前着

府ハ蘇連ト通謀シ目下醞釀シ居ル東三省獨立運動ニ對抗シ
蘇連ノ「バック」ニ依リ張景恵ヲ押シ退ケ当地ニ東三省政
府組織ヲ画策スルコトナキヲ保シ難シト思考ス
支、露、北平、奉天、南京、広東、吉林ニ転電セリ

449 昭和6年9月29日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張學良、張作相を東北边防軍總司令に任命シ
司令部を錦州に移転するとの情報について

ハルビン 9月29日後発
本省 9月29日後着

第二七〇号

確カナル情報ニ依レハ最近張學良ヨリ当地張景恵ニ対シ張
作相ヲ東北边防軍總司令ニ任命シ司令部ヲ錦州ニ移スヘキ
旨電報アリタルニ対シ張景恵ハ何等返電ヲ発セサリシ趣ナ
リ

公使、北平、奉天、南京、吉林、広東ニ転電セリ

450 昭和6年9月29日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛

貴領事査照並希転知

貴國僑哈商民一体知照嗣後務各安心業業不必驚恐本会對於
全区治安務以十二分之力負責竭力維持此可為

貴領事鄭重申明者也此致

駐哈爾濱日本総領事

張景恵

中華民國二十年九月二十七日

451 昭和6年9月30日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

東北の独立、宣統帝の復辟に関する袁金鎧の
談話について

奉天 9月30日後発
本省 10月1日前着

第八一七号

二十九日袁金鎧ハ滯奉中ノ濟南日報立石ニ左ノ通内話セル
趣ナリ東北ハ中国ノ内争ニ引込マルコトヲ避クル為國民
政府ト分離シ民政ヲ行ヒタキ考ヲ有シ出来得ル限り斡旋ハ
為スヘキモ自ラ其局ニ当ルコトハ適任ニアラス臧式毅ニ望
ヲ囑シ居ルモ種々ノ事情アリ実現困難ナルカ如シ宣統帝ノ

復辟ヲ唱フル者アリ自分モ個人的感情トシテハ賛成ナルモ
事態ハ之ヲ許サスト思考ス

転電先 公使、南京、北平、天津、青島、吉林、哈爾賓

452 昭和6年9月30日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

瀋陽県長公署、税捐局の業務開始について

奉天 9月30日後発
本省 10月1日前着

第八一九号

事件以来閉鎖シ居リタル瀋陽県長公署ハ我軍ノ諒解ヲ得テ
三十日午後三時ヨリ事務ヲ開始セリ県長ハ事件前ノ県長李
毅ナリ

尚十月一日ヨリ地方維持会監督ノ下ニ税捐局ヲ復活シ徴税
ヲ開始スルニ決セリ

哈爾賓ヨリ齊齊哈爾、満州里へ、間島、長春、鉄嶺ヨリ管
下各分館へ転報アリタシ、新民、通化、海竜へ暗送セリ、
公使、北平、南京、漢口、天津、広東、済南、青島、在満
各領事へ転電セリ

於テハ政府ヨリ未タ何等ノ通報ニ接シ居ラサル旨ヲ答へ置
キタリ右御含迄

公使、南京、北平、哈爾賓へ転電セリ

454 昭和6年9月30日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

吉林政局変動に関するハルビン公報の記事に
ついて

ハルビン 9月30日前発
本省 9月30日後着

第二七五号（暗）

吉林政局変動ニ関シ本日ノ当地哈爾賓公報ハ吉林電トシテ
当地公安局ハ日本司令坪井大佐ノ脅威ニ依リ所謂安民布告
ヲ公布シ同大佐ノ指揮下ニ城内ノ治安ヲ維持シ居レリ又軍
民両署ハ改組シテ長官公署ト為シ参謀長熙治ヲ長官ニ任命
シ其下ニ民政軍務ノ両庁ヲ分設シ一切ヲ弁理スル由ナリ云

ナル記事ヲ掲載セリ何等御参考迄
奉天、吉林へ転電セリ

453 昭和6年9月30日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天における独立政府樹立問題等に関するア
メリカ総領事との会談について

奉天 9月30日後発
本省 10月1日前着

第八二六号

三十日当地米国総領事「マイヤース」ハ本官ト会談ノ砌当
地ニ独立政府樹立セラルトノ噂アリ右ノ真否如何又張学良
ハ錦州ニ東北政府ヲ移転セリト伝ヘラルル処日本側ハ事件
ノ解決ニ関シ張学良ノ政府ト折衝セラルル積リナリヤト尋
ネタルニ付本官ハ独立政府ノ樹立等ニ関シテハ種々ノ新聞
報道伝ハリ居ルモ未タ何等具体化シタルモノニハ非サルヘ
ク日本政府ハ東北政權ノ推移又ハ樹立ニ関シテハ一切干涉
スル事ナク全ク之ヲ支那人間ニ於ケル自然ノ動キニ委セツ
ツアルモノナル処唯差当リ当地ニ於テハ軍ノ撤兵ヲ実行ス
ル必要上地方ノ公安維持ノ機関ノミハ支那人ノ手ニ依リテ
出来得ル丈ケ速ニ成立スル事ヲ希望シツツアリ又今回ノ事
変ノ善後処置ニ関シ張学良ト折衝スルヤ否ヤノ点ハ本官ニ

455 昭和6年10月1日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

吉林省臨時政府長官に就任せる熙治との会談
について

吉林 10月1日後発
本省 10月1日後着

第一一六号

三十日熙治ハ吉林省長官就任式ヲ挙ケタル後來訪シ今後宜
シク願フ旨挨拶セリ本官ハ本官ト新政府トカ如何ナル関係
ヲ保ツヘキヤ明白ナラサルモ挨拶ノ趣了承セル旨ヲ答へ置
キタリ尚本官ノ問ニ対シ熙治ハ（一）臨時政府ハ未タ独立ヲ特ニ
宣言シタル訳ニハアラス今後宣言スヘキヤ否ヤ考量中ナル
カ事実上ハ独立ナリ（二）前省政府ノ負ヘル義務ハ一切新政府
ニ於テ踏襲スル旨答へタリ

尚熙ハ長官就任式ニ於テ大要左記趣旨ノ宣言書ヲ発シタリ
本長官時勢ノ変遷ニ依リ本日正式ニ就任ス吉林ハ余カ第二
ノ故郷ニシテ民生ノ困苦憔悴ノ状ハ余ノ深ク察スル処ナリ
先ツ隣邦トノ誼ヲ治メテ親善ノ趣旨ニ副ハンコトヲ願ヒ対
内施政ノ綱要ハ私心ヲ有セス私利ヲ計ラス専ラ民意ニ服従

シ言路ヲ開キカメテ弊政ヲ去リ匪賊ヲ肅清シ苛税ヲ除キ凡
百ノ政令善美ヲ尽サンコトヲ期ス願クハ天日共ニ加護アラ
ンコトヲ
奉天ヨリ哈爾濱へ転電アリタシ
長春、奉天、南京、支、北平、間島、関東長官、朝鮮総督
へ転電セリ

456 昭和6年10月1日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

吉林省臨時政府主要職員について

吉林 10月1日後発
本省 10月2日前着

第一一七号（暗）

往電第一〇〇号及往電第一一一号ニ関シ
（七三文書）

其後臨時政府要職ノ人選ニ付模様替アリ今日迄ニ確定セル
モノ左ノ通り

財政庁長 孫其昌

実業庁長 張燕卿

民政庁長 王 惕（前永吉県長）

長官公署秘書長 潘鶚年（前省政府秘書長）

埠公安局長行方ヲ晦マシタル為五百ニ余ル巡警ノ行動ニ対

スル責任者ヲ失ヒ之カ統率ニ困難ヲ感スルニ至リタル結果
商總會其他自治団体ニ於テ何等カノ措置ヲ講スルノ必要ヲ
認め数日来寄々協議ノ処今般軍部了解ノ下ニ奉天ノ例ニ倣
ヒ安東治安維持委員会ヲ組織スルコトニ議纏リ委員トシテ
県長王介公実業銀行王岳東商務会長孫榮明及徐鉄珊ノ四名
（水上公安局長欒雲圭ノ引入レ方考慮中）既ニ決定シ本日
中ニ成立ノ筈ナルカ今後尚各種団体ヨリ別ニ若干名加入ノ
見込ナル旨内話セリ

尚今朝不取敢公安局長代理トシテ商總會ヨリ公安局第一分
局長ヲ推挙セル趣ナリ

支、北平、奉天、長春、牛莊、遼陽、鉄嶺へ転電シ、吉
林、哈爾濱へ暗送セリ

458 昭和6年10月2日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

吉林交渉署参事官施履本に対する懷柔につい

て

吉林 10月2日後発
本省 10月3日前着

吉海鐵路総弁 艾迺芳（吉海鐵路総弁）
官銀号総弁 劉燭棻（交渉署秘書）

教育庁長 李錫恩（前吉林大学副校長）

長春市政籌備処長 金璧東

吉林市政籌備処長 程科甲（天図鉄道総弁）

敦化県長 劉興沛（哈爾濱特派員公署第一科長）

延吉県長 姜恩之（前樺甸県長）

永吉県長 関榮森（前永吉県公安局長）

右ノ外ハ前記往電ノ通り

奉天ヨリ哈爾濱へ転電アリタシ

長春、奉天、間島、南京、支、北平、関東長官、朝鮮総督
へ転電セリ

457 昭和6年10月1日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛（電報）

安東治安維持委员会の成立と委員について

安東 10月1日後発
本省 10月1日後着

第一五〇号

本一日徐鉄珊本官ヲ来訪シ我軍ノ安東保障占領ト共ニ張商

第一二二号（暗、極秘）

本官発奉天宛電報

第二〇号

本官発大臣宛電報第一一四号ニ関シ

施履本ハ家族及交渉署員同伴二日午後六時發長春ニ向ヒタ
リ大連經由一先ツ北平カ天津ニ落着ク由語レルカ本人ハ事
変以來熙洽ノ相談相手トナリ大臣宛拙電第一〇〇号ノ（一）ニ
基ク新政府組織ノ顛末モ熟知シ居リ之ヲ南方ニ放ツハ生証
拠ヲ提供スル如キモノニテ我方ニトリ全ク不利ナル結果ヲ
招致スヘク寧ロ本人ヲ懷柔シ口止メヲ為スコト得策ト思考
セラルルニ付テハ何トカ御工夫煩シ度シ尚施履本カ長春ヨ
リ南下ノ時間ハ長春領事ヨリ通報ヲ受ケラルル様致シタシ
哈爾濱へ転電アリタシ

大臣、長春、間島、北平、支、南京へ転電セリ

459 昭和6年10月2日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛（電報）

治安維持委员会組織に関する安東県県長等の
談話について

安東 10月2日後発

本省 10月3日前着

第一五一号(暗)

往電第一五〇号ニ関シ

本二日王鼎長新任公安局長代理楊秉衡紹介旁来訪シタルニ付治安維持委員会ノ組織並ニ鼎長ノ右委員会加入ノ噂真偽如何ヲ尋ネタルニ鼎長ハ市民有力者間ニ寄々協議中ノ模様ナルモ自分トシテハ官憲ノ加入ハ如何カト考ヘ未タ何等意思表示ヲナシ居ラスト答ヘ之カ去就ニ当惑シ居ル旨ヲ漏セリ依テ更ニ徐鉄珊ニ質シタルニ鼎長ニ於テ加入ヲ好マサル為委員会ハ未タ成立セス但シ一般ノ希望ニ依リ何トカシテ鼎長ヲ引入レ一兩日中ニ組織ノ見込ナル旨答ヘタリ察スルニ徐鉄珊及王岳東等ノ策動アルカ如シ

支、北平、奉天、長春、牛莊、遼陽、鉄嶺へ転電シ哈爾賓、吉林へ暗送セリ

460

昭和6年10月2日

塚本関東長官より
若槻(礼次郎)総理大臣、幣原外務大臣宛

袁金鎧、趙欣伯等の新政権樹立画策について

関機高支第一一五六四号(極秘)

昭和六年十月二日

云フ

本件ニ関シ趙欣伯ノ内意ヲ窺フニ始メ袁金鎧等ハ帝政実施ニ対シ一般ヨリ新人ト目サレ居ル趙欣伯カ果シテ賛意ヲ表スルヤ否ヤニ付多大ノ疑問ヲ抱キ居リタル様子ナリシモ趙欣伯カ新政権ノ樹立ハ国家ノ安寧ト国民ノ幸福トヲ根本トセサルヘカラス此ノ意味ニ於テ現下ノ東北省トシテハ帝政ニ如クモノナシト意見ヲ述ヘタル為メ袁金鎧等ニ於テモ俄カニ帝政断行ヲ決意シタルモノナリト而シテ憲法ノ根本趣旨トシテハ

一、帝政ヲ採用スルコト

二、事実上日本ト相提携スルモ表面上ハ飽迄国家トシテノ形体ヲ維持スルコト

「併合前ノ朝鮮ニ於ケル統監府ノ如キモノハ置カス日本トモ互ニ公使或ハ大使ヲ交換派遣ス」

三、議會政治ヲ採ルモ一切政党ヲ認メス

ト云フニアルカ本日審議ノ結果如何ニ変更セラルルヤ未定ナリ

只自分(趙欣伯)ハ中国人トシテハ此レ以上ノ譲歩ヲナシ国家トシテノ形体ヲ毀損シ後世売国奴トシテ汚名ヲ貽スコ

関東長官 塚本 清治(印)

男爵 若槻 礼次郎殿

外務大臣 男爵 幣原 喜重郎殿

袁金鎧趙欣伯等ノ東北新政権樹立画策

今回事件後ニ於ケル東北新政府カ如何ナル形式ニ依テ樹立セラレ又何人カ首腦者中心人物タルカニ付テハ一般ニ注視シ居ル処ニシテ今ヤ各派各様ニ自派ノ擁立策動ニ暗中飛躍ヲ試ミ其ノ間邦人浪人連介在シテ張學良一家ノ没落ト共ニ後継政権ノ建設ヘト努メツアルカ過般赴平張學良ニ会見日本側ニ対スル諒解運動ノ必要ヲ力説シタル東北法學研究会長法學博士趙欣伯ハ地方維持委員会袁金鎧等ト相謀リ此ノ際東北新政権ノ樹立ノ捷徑トシテ宣統帝又ハ肅親王、恭親王等ヲ擁立シテ復辟ヲ実行シ其ノ形式ヲ帝政トスルカ乃至ハ共和政体トスルカニ付数日来関係者協議中ナルカ一昨三十日迄ノ協議ニ於テハ殆ト共和政体ヲ採用スルコトニ意見略々一致シ同意見ヲ基礎トシテ一旦憲法ヲ起草シタルカ其後俄カニ帝制ヲ布ク事カ現在ニ於ケル時局收拾上最モ合法有利ナリトノ意見有力トナリ既ニ起草シタル憲法案ヲ改訂スルノ必要生シ本月五日其ノ審議ニ着手スル筈ナリト

トハ欲セサル処ナリト語り尚国旗ハ旧清国国旗(黃地ニ青竜)ヲ採用スル筈ナリト云フ

二、張學良罪惡誌編纂計画

奉天特務機關付花谷少佐ハ本日午前十一時趙欣伯ヲ私邸ニ訪問シ此ノ際張學良批政ヲ内外ニ發表宣伝スル計画ナリトテ趙欣伯ニ対シ張學良ノ罪惡誌編纂方ヲ依頼シテ辞去セリ

461

昭和6年10月3日

在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

奉天地方委員会による新政権樹立計画の挫折について

奉天 10月3日後発
本省 10月3日後着

第八四九号(極秘)

往電第八四八号ニ関シ

当地地方委員会ハ現在ノ如ク我市政公署ノ補助機関タルカ如キ立場ニ置カルルコトハ一般市民ニ対シテモ体裁悪ク又經費ヲ市政公署側ヨリ受クルコトハ日本側ノ傀儡タル譏ヲ免レストシテ自ラ調達シ来レルモ財政難ニ陥レル等ノ事情ニ依リ主トシテ關朝璽ノ發意ニ基キ思切リ此際日本軍部ノ

了解ヲ得テ同会ヲ基礎トシテ東北四省及内外蒙古ヲ含ム獨立共和国ヲ建設シ其名ヲ中華共和国ト定メントノ内議アリタル趣ノ処我軍部ニ於テ了解ヲ与ヘサル一方最近錦州ニ成立シタル張學良系ノ東北政府成立ニ伴ヒ地方維持委員會幹部等ニ宛テ頻リニ脅迫状舞込ム趣ニテ急ニ怯氣ヲ催シ右新政權樹立計画ヲ中止セル模様ナリ（部外極秘）

支、北平、天津ニ転電セリ

462 昭和6年10月3日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

袁金鎧の奉天民会長に対する時局談話について

奉天 10月3日後発
本省 10月3日後着

第八五〇号（暗）

袁金鎧ハ野口民会長ニ対シ左ノ通話レル由

一、東三省ノ時局ヲ收拾スルニハ張學良ヲ第一適任者トシ張作相ニ臧式殺之ニ次ク処軍側ハ學良、作相ヲ排シ臧ヲモ軟禁シ居ル現状ニテハ他ニ人物ヲ欠キ局面打開ノ途ナシ

袁金鎧を首班とする遼寧自治政府組織の風説
の事実無根について

奉天 10月3日後発
本省 10月4日後着

第八五七号（暗、極秘）

三日当地一部日本人間ニ袁金鎧ヲ首脳トスル遼寧自治政府ノ組織決定セリトノ風説伝ハリ内地方面ニモ通信セラレタル趣ノ処右ハ全然事実無根ニシテ袁ノ如キハ某有力日本人ニ対シスル出鱈目ノ評判ハ甚タ迷惑ナリト語りタル趣ナリ

右誤電ノ原因ハ我新聞記者ニ於テ昨二日土肥原大佐カ地方維持会委員丁鑑修ヲ呼出シ速ニ財政実業両庁ヲ開ク様勧告セシニ対シ丁ハ事重大ナレハ篤ト幹部ト協議ノ上何分ノ回答ヲ為スヘシトテ引取りタル事実ヲ聞込ミ之ニ想像ヲ加ヘテ新政權ノ樹立ニ結ヒ付ケ事実ラシク宣伝スルニ至リタルモノカト察セラル

尚袁金鎧丁鑑修等ハ右土肥原ノ要求ニ対シ日本軍将来ノ方針ニ関スル見通シ付カス且今回錦州ニ張學良ノ指金ニ依ル遼寧省政府成立セルヤヲ聞キ単ニ奉天城治安維持機關ニ過キサル地方維持会カ財政実業両庁ノ如キ重要ナル行政機關

二、自分（袁）ハ地方紳士トシテノ発言及斡旋ハ辞セサルモ日本軍ノ主張ヲ行フ意向ヲ有セス

万一強要セハ逃ケ出スノミ地方維持会ハ無政府状態ノ現状ヲ暫定的ニ安定セシムル過渡的弁法ニ過キサレハ此ノ意味ニテ自分モ之ニ関係シ居ルノミ

三、吉林其他獨立セルヤノ噂アルモ右ハ過渡的の方便ニ過キス錦州ニ政府アラハ事実上獨立ハ出来サル可シ無頼漢ナラハ兎ニ角知識階級ニハ獨立ヲ考フルカ如キ愚者ナカルヘシ

四、闕朝璽ハ資格ハ高く又久シク不遇ニ在ルモ自分ヨリモ良ク不心得ナキ様勸メ置キタルニ付妄動スルカ如キコトナカルヘシ

五、宣統帝ノ復辟説ハ張作霖ノ如キ有力者カ政治上ノ主義ヨリ之ヲ実行スル場合ナレハ兎ニ角実力ナキ者カ感情等ヨリ種々取沙汰スルモ何等ノ意義ヲ有セス宣統帝モ自分カ反対スル限り出慮スルコトナシト思ハル云々

支、北平、天津、哈爾濱、吉林、長春、南京へ転電セリ

463 昭和6年10月3日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

ヲ開始スルカ如キハ事情不可能ナリトノ意見ヲ有スル模様ナリ（部外極秘）

支、北平、南京、天津及在滿各領事へ転電セリ

464 昭和6年10月3日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

特別区における治安維持会の活動および黒竜江省の政局について

ハルビン 10月3日前発
本省 10月3日後着

第二八六号（暗、極秘）

特別区路警処副処長于鏡濤（張景惠ノ腹心トシテ目下最モ活躍シ居ル人物）ノ二日館員ニ内話セル中重要ナルモノノ左ノ通り

一、当地方治安ヲ充実スル為ニ千人ヨリ成ル警備隊ヲ新設スルコトニ決シ既ニ人員募集其他手配ヲ了セリ于ハ右警備隊ノ隊長トナリ将来ハ張景惠ノ手兵トシテ之ヲ利用スヘシ

一、吉林及長春ヨリ逃レタル軍隊ハ張作舟（張作相ノ弟）等統率シテ五常寧安等ニ集中セラレアル処作舟ハ張景惠

ト連絡ノ為数日前来ハセリ張景恵ハ吉林軍操縦ノ便宜上之等敗走軍ノ軍費ヲ自分（于）ノ手ヲ経テ支給スヘク計畫シ居レリ

一、黒竜江省ハ万福麟不在ニテ目下首脳者ナキニ付張景恵ヨリ使者ヲ出シテ連絡取り付ケ中ナルカ茲数日中ニハ黒竜江ノ政局モ何等カノ發展ヲ見ルコトナルヘシ

一、張作相ヨリ張景恵ノ治安維持会設置ニ対シ極メテ弱キ字句ヲ用ヒテ忠告シ来タリ又作相自身数日中ニ来哈スヘシト電報シ越セルモ作相ノ来哈ハ実現出来サルモノト観測セラレ当地方ハ依然張景恵ノ独裁ニテ一切ノ政務ヲ行ヒ居レリ

一、治安維持会ハ各機關各民衆団体ヨリ出セル代表三十余名ヨリ成リ毎週水土両日ニ例会ヲ開クモノニシテ去ル三十日ノ第一回会議ニテ警備隊ノ設置金融維持弁法ノ兩項ヲ議決セリ

支、北平、奉天、南京、吉林、広東、齊齊哈爾、満州里へ
転電セリ

465 昭和6年10月3日 塚本閣東長官より
幣原外務大臣宛

四十年）ノ談ニ依レハ盟主バブチャブ第二子甘珠爾札布ハ九月二十七日大連方面ヨリ来奉同旅社ニ一泊シ弟正珠爾札布等一行ト同行客月二十八日鄭家屯ニ向ケ出発セルモノニテ留日留鮮中支那学生等約三十名ノ学生モ二、三日中ニハ何レモ帰国シ本運動ニ参加スル手筈ナリト語リ居ルカ更ニ聞ク処ニ依レハ本運動ニハ我軍指導員アリ既ニ某方面ヨリ小銃三千挺機関銃二十挺野砲二門ヲ入手彰武県ヨリ通遼一帯ニ亘リ活動ヲ開始シ林西ノ蒙古軍ト合休開魯ニ集合同所ニ於テ独立宣言ヲ発シ北上ノ段取りニシテ各旗長蒙古王族ニ対シテハ充分ノ連絡打合セヲ完了シ居レリト云フ

二、客月二十三日大連ヨリ赴奉シ同地大和ホテルニ投宿翌二十四日赴吉、同月三十日帰奉大和ホテルニ投宿一日午後十時四十分発列車ニテ大連經由便船天潮丸ニテ天津ニ向フヘク奉天ヲ出発シタル天津爛漫胡同四十八番地居住劉尺山事劉驥業ハ大和ホテル投宿中前奉天満鉄公所長鎌田弥助並ニ奉天事務所長木村理事等ノ来訪ヲ受ケタル外関東軍司令部付陸軍歩兵中佐金子定一及「セミヨノフ」將軍顧問高塚武雄等ト会見シタル模様ニテ本名赴吉ノ用

蒙古王族、張宗昌その他の政治策動について

公信関機高支第一七一〇二号（極秘）

時局ニ関スル政治策動

一、客月二十八日奉天ヲ出発シタル「バブチャブ」三男正珠爾札布ハ同月三十日午後十時三十分着列車ニテ再び奉天ニ引返し同地弥生町万国旅社ニ投宿シ一日午前八時頃来訪シタル二名ノ邦人（氏名判明セス）外ニ華人一名ト約半時密談ノ上外出シ午後三時三十分当駅発列車ニテ鄭家屯方面ニ向ケ出発シタルカ出発ニ際シ明三日午後一時着奉ノ予定ナル朝鮮留學生徳古来ナル者宛信書一通ヲ万国旅社ボーイニ託シ「徳古来来奉投宿ノ筈ナルヲ以テ之ヲ手交サレ度」ト依頼シ立去リタルカ右徳古来ニ相当スルモノト認メラルモノヨリ二日午前十時頃万国旅社氣付ニテ田中正事正珠爾札布宛「ナンダイモンナイ」電報局発信ニ係ル「アスゴゴージツクトク」ナル電報到着シ居レリ

尚同旅社ニ引続滞在中ナル正珠爾札布一味商埠地東蒙書局（図什業國王等経営）ノ漢文翻譯員葛勒各波爾来（当

務ニ付目下赴吉中ナル阿部忠夫ノ連絡者伊丹安太郎並ニ前記高塚武雄等ノ語ル処ニ依レハ本名ハ宣統帝擁立派ニテ帝ノ使命ヲ帶ヒ南満州各地ニ於ケル一般情勢ヲ視察ノ目的ニ来奉セルモノニシテ過般赴吉シタルハ客月二十八日独立ヲ宣言シタル吉林軍參謀長熙治ノ意向ヲ徴スル為ニシテ本名ハ帰津ノ上奉天地方ノ情況ヲ述ヘ宣統帝ノ決意ヲ促ス筈ナリト

三、滯奉中ナリシ張宗昌秘書黃錫齡ハ張宗昌ヨリ招電ニ接シタリトテ一日午後十時四十五分奉天駅発帰旅シタルカ元雲南省長張魯泉ノ奉天ニ於ケル動靜ニ関シ関係者タル元張宗昌部下李寿山（駅前第一棧資本主）ヨリ極秘ナリトテ洩ス所ニ依レハ張魯泉ハ客月三十日帰旅ニ先チ袁金鎧ヲ訪問シ張宗昌ハ満州新政權樹立ノ場合ハ袁金鎧ニ政權ヲ与ヘ自ラハ兵權ヲ掌握セントスル底意ヲ以テ袁金鎧ノ諒解運動ノ為メナルヘシト認メラル

尚商埠地独逸人経営利達公司經理（商会委員）辺彩亭ハ張魯泉ノ旧知ニシテ張魯泉ハ辺彩亭ヲモ訪問シテ張宗昌擁立運動ヲ依頼シタル事実アリ即チ辺ヲシテ省城全商民ヲ代表セシメ付屬地内華人ハ付屬地商務会副会長李玉樞

ヲシテ代表セシメントスル腹案ナルカ如ク李玉樞ハ同依頼ニ依リ已ニ九月三十日午後一時頃三宅參謀長ヲ訪問擁立運動ニ付諒解ヲ求メタリ云々右ニ付李玉樞カ絶対極秘ナリトテ洩ス所ニ依レハ自分ハ張魯泉ノ依頼モアリ一面予テ張宗昌ノ人物ヲモ承知シ居ルヲ以テ客月三十日午後一時頃辺彩亭ト共ニ華人通訳一名ヲ從ヘ軍司令官ヲ訪問シ參謀長代理トシテ会见セラレタルカ自分ヨリ是非商民ノ意ヲ汲ミ張宗昌ノ再起ヲ援助相成度ト陳情シタルニ參謀長ハ直ニ司令官ニ傳達シ參考ニ資スヘントノ回答アリタリ黃錫齡ハ之カ為メ自分等カ張宗昌擁立運動ニ奔走シ居ル事実状況報告ノ為メ帰旅シタル次第ナリ云々

四、満州新政権樹立ニ関シ趙欣伯ノ手許ニ於テ起草中ナリシ憲法案ハ別紙ノ通りナルカ其ノ後帝政実施ノ意見多キヲ加ヘタル為メ同草案ヲ改訂スルコトナリ関係者協議中ノ処本月一日午後日本政府カ駐日支那公使ニ對シ「満州ニ於ケル中国政權樹立策動ニ對シ日本文武官カ何等ノ慫慂又ハ指示ヲ与フルコトヲ嚴禁シ邦人ノ此種策動ニ干与スルコトヲ取締ツツアリ」トノ声明ヲ為シタリトノ報道ヲ得タル為メ袁金鎧等ハ或ハ張學良ノ帰奉ヲ見

第八六二号（暗）

本省 10月4日後着

闕朝璽ハ三日夜野口ニ對シ「時局ノ收拾ニハ政務委員會ノ如キ臨時機關ヲ必要トスル様考ヘ居タルモ錦州ニ省政府設置セラレタル以來地方各機關ハ自然之ニ隸屬スルニ至ルヘク袁金鎧等モ単ニ省城ノミノ問題ナレハ臨時維持會ノ現状ニテ充分ナリトテ消極的トナリタレハ要スレハ日本側ニ於テ先ツ袁金鎧等ノ頭腦ヨリ變ヘシムルノ外ナカルヘシ」云云ト内話セル趣ナリ

公使、北平、天津、長春、哈爾濱、吉林、南京ニ転電セリ

467 昭和6年10月4日

在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

満州独立運動の中心人物張景惠らの思想的背景について

景について

第二八九号（暗）

ハルビン 10月4日後発
本省 10月4日後着

所謂満州独立運動ハ野心家ノ策動輻湊シテ今後如何ニ發展スヘキヤ不明ナル処右運動ノ中心トモ云フヘキ張景惠等旧

ルニ至ルヤモ難測トノ懸念ヨリ俄ニ怯氣付キ憲法案審議モ遂ニ其ノ儘ニ終リタル模様ナルカ（趙欣伯談）袁金鎧等ノ計画通り宣統帝ノ擁立実施シタル場合文治方面ニハ当然袁金鎧其ノ衝ニ當リ寧ロ宣統帝ハ表面ノ建設者トシテ其ノ名ヲ存スルニ止メ実權ハ袁金鎧ニ於テ掌握スルニ至ルヘシト觀測セラレ居ルカ軍政方面ニハ何人ヲ推スカガ疑問ニシテ地方自治委員會委員闕朝璽ハ野心満々タルモ袁金鎧ト相容レス別ニ四民維持會ヲ組織シテ之カ會長トナリ別ニ適當ノ人物ヲ推シテ自ラ其ノ実權ヲ握ラントノ腹案ナルカ如ク自然袁金鎧ト對立ノ形勢ニアルカ其ノ間張宗昌一派ノ策動ハ比較的宣統帝及袁金鎧等一派ニ好感ヲ有スル張宗昌ヲシテ軍政方面ヲ担任セシメントスルノ情勢ヲ誘致シツツアリト云フ

466

昭和6年10月4日

在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天地方維持委員會委員闕朝璽の時局收拾に
関する内話について

奉天 10月4日後発

派ノ思想的背景ヲ窺フニ

(一) 彼等ハ日露戦争ノ経緯及日本ノ実力ヲ熟知シ居ル為日本ノ在満權益ヲ不当ナルモノト認メ居ラス且日本トシテ国運ヲ賭スルモ右權益ヲ放棄シ得サル事情ヲ諒解シ從テ日本トノ經濟上ノ共存共榮ヲ欲シ居リ從テ學良カ南京及英米等ノ力ヲ借りテ日本ヲ牽制セントスルカ如キコトノ無謀ナルコトヲ予テヨリ主張シ居タリ

(二) 彼等ハ何レモ眼界狭キ満州人タル為満州ヲナルヘク満州人ノ満州タラシメントスル一種ノ民族的乃至「プロビシシヤリズム」ヲ懷抱シテ保境安民主義ニ傾キ學良カ満州ヲモ支那本部ノ純然タル一部トセントスル傾向ニ對シ強キ反感ヲ有シ居ルカ如ク依テ今後広東派等カ万一武力ノ付随セサル唐紹儀等ヲ派シ頭カラ支配セントスルカ如キ態度ニ出ツル場合ニハ種々ノ故障ヲ生スヘク

(三) 彼等ハ蘇連ノ東方進出及支那ノ赤化ニ對シ極端ナル恐怖ト憎惡ヲ感シ居リ之カ對抗上ニモ日本ノ援助ヲ期待シ居ルカ如ク從テ蘇連ノ制度ニ依リタル党部ノ如キモノニ對シテハ反感ヲ有スルカ如シ

右三点ハ南京広東合併後ニ於テ恐ラク中央政府ノ中枢トナ

ルヘキ汪精衛等ヲシテ夫レトナク予メ諒解セシメ置クコト
 適当ナラサト思考ス
 公使、北平、奉天、広東、南京ニ転電セリ

468 昭和6年10月4日 中谷関東庁警務局長より
 永井外務次官宛（電報）

奉天における地方維持委員会の内部対立状況
 について

関東庁 10月4日後発
 本省 10月4日後着

コ第四一三号（平）

奉天ニ於ケル地方維持委員会ハ設立日尚浅キニ早クモ袁金
 鎧、關朝璽間ノ反目漸次濃厚化シ一面種々ナル脅迫投書頻
 頻トシテ配達セラレ尚上海方面ヨリ同委員ヲ売国奴視シ之
 ニ誅戮ヲ加ヘヨ等ノ「ラジオ」放送アリ為ニ各委員等恐怖
 ニ襲ハレツツアル矢先過日憲兵隊ニ於テハ呼出ニ応シ不安
 裡ニ出頭シタル袁金鎧ニ対シ自警局員一千名ノ増員方ヲ促
 ス等袁金鎧ハ全ク進退ニ窮シ市政公署守田衛生課長ニ対シ
 辭意ヲ洩シタル由ナルカ尚關朝璽ヲ首班トスル四民維持会
 ハ表面政治的運動不干涉ヲ標榜シ居ルモ熾シニ袁金鎧反対

旧式ナリ

三、九月二十九日ハラハ、ウルシユン河方面ヨリ二十八名
 ノ喇嘛海拉爾ヘ逃ケ来レリ
 其原因ハハロアルシヤン方面ヘ外蒙古兵来リ達頼喇嘛ヲ
 拉致セルニ依ルモノニシテ該方面ノ「ブリヤアド」ハ烏
 珠穆沁方面ヘ退避セリ外蒙兵ノ東進ハ時局柄注意ヲ要ス
 北平、天津、朝鮮、上海、哈市スミ

470 昭和6年10月5日 幣原外務大臣より
 在奉天林総領事宛（電報）

遼寧省主席臧式毅の所在取調について

本省 10月5日後発

第二四六号（暗）

満州事変一件

在米大使発本大臣宛電報第二七七号ニ関シ
 臧式毅ノ所在御取調電報アリタシ

471 昭和6年10月6日 在奉天林総領事より
 幣原外務大臣宛（電報）

今次事変に関する湯玉麟の態度について

ノ気運醸成ニ努メツツアリテ或ハ維持委員会ノ前途ヲ悲観
 シ居ル向アリ

469 昭和6年10月5日 三宅関東軍参謀長より
 二宮参謀次長宛（電報）

ハイル方面蒙古人の動向について

10月5日後6時20分発
 10月5日後8時10分着

関第六四三号（其一、二）

海拉爾服部通信要旨

一、海拉爾方面蒙古人ハ独立ノ希望ヲ有スルモ運動ヲ起セ
 ハ必ラスヤ赤軍ノ出動アル可ク日本軍北滿ニ来ル場合モ
 亦同様ナリ結局日本ノ強大ナル援助ヲ得ルカ然ラサレハ
 日本軍カ同地方ニ前進シ来ルニ非レハ独立ハ不可能ナリ
 ト悲観シ意気昂ラス目下「メルセ」頻リニ宣伝シアル
 モ実現ノ望少シ而シテ赤軍進入ノ場合班禅喇嘛ハ烏珠穆
 沁カ或ハ日本領事ノ援助ニテ哈市、奉天方面ニ避難スヘ
 ク考ヘ居レリ

二、蒙古政庁ノ有スル兵力ハ歩兵百三十、騎兵百、其他ノ
 種族ハ各百乃至二百ノ兵ヲ有スルニ過キス兵器亦極メテ

第八七三号（極秘）

奉天 10月6日後発
 本省 10月6日後着

六日赤峰ヨリ来奉セル同地滿鉄駐在員辻口（湯玉麟ヨリ在
 奉天湯公館保全ノ用務ヲ委嘱セラル）カ館員ニ内話スル処
 ニ依レハ湯玉麟ハ十月一日辻口ニ対シ

過般石友三反乱ノ折本庄司令官ハ自分（湯）ノ許ニ高原誠
 一郎（奉天骨董商）ヲ派遣シ遠カラス張学良ヲ満州ヨリ驅
 逐セサルヘカサル事トナルモ知レサルニ付テハ今日ヨリ
 予メ其準備ヲナシ置カレタシト申越シタルニ付自分ヨリ準
 備トハ如何ナル事ナリヤト反問シタルニ高原ハ貴下ハ軍人
 出身ニモアリ之タケ申上クレハ御了解アルヘシト答ヘタリ
 旁自分（湯）トシテハ遠カラス満州ニ於テ日支間ニ何等不
 祥事件ノ発生アルヘシト予感シ居タリ尚今次事変ニ関シテ
 ハ未タ張学良ヨリ何等申越シナキ処飯令有之トスルモ自分
 ハ相手ニセサル考ヘナリ云々ト述ヘタル趣ナリ（部外極
 秘）

472 昭和6年10月6日 在奉天林総領事より
 幣原外務大臣宛（電報）

臧式毅の所在について

奉天 10月6日後発
本省 10月6日後着

第八七六号

貴電第二四六号ニ関シ

臧式毅ハ従前ヨリ人格者トシテ日本側ニモ知人多キ為万一ノ間違アルヘキヲ懸念シ本人同意ノ下ニ九月二十二日以来商埠地三経路鮑文樾公館ニ於テ保護ノ状況ニアリ掛リ付ケノ医者等ノ出入ヲモ許シ家族ニ於テモ軍側ノ取扱ニ感謝シ居ル由

支、北平、鉄嶺へ転電セリ

473 昭和6年10月6日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

臧式毅保護の理由について

奉天 10月6日後発
本省 10月6日後着

第八七七号(暗、極秘)

往電第八七六号臧式毅ノ件ハ軍部側ニ於テ旧政權ヲ認メサルノ建前ヨリ同人ト外国トノ連絡ヲ断ツノ趣旨ニ出ツルモ

ノナリ(部外秘)

474 昭和6年10月6日 ※在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

コロンバイル地方の独立運動に関する情報について

ハルビン 10月6日前発
本省 10月7日前着

第二九七号(暗)

満州里発本官宛電報

合第一一号

本官発大臣宛電報

第二一号

十月二日付機密公信第三七九号ニ関シ

郭道甫ノ帰海後呼倫貝爾青年党ノ独立運動ハ頓ニ活氣ヲ呈シタルヤノ観アリ既ニ各所ニ於テ秘密會議ヲ開キ居ル由ナル処当館海拉爾諜報者ノ報告ニ依レハ右呼倫貝爾独立運動ハ二派ニ分レ其一派ノ首領ハ郭道甫ニシテ郭ハ帰海後今次ノ独立運動ハ外蒙共和国トノ併合ヲ目的トスルモノニアラスシテ全蒙古民族自決ノ目的達成ノ為ナリト漏シタルヤニ

475 昭和6年10月6日 三宅閣東軍参謀長より
二宮参謀次長宛(電報)

関東軍司令官の東北一般人士に告げる布告文について

10月6日前8時10分発
10月6日前9時50分着

関参第六〇二号

軍務第一六四号返

関参第五八七号ノ布告文左ノ如シ

布告

日支両国ノ共存共栄ト東北民衆ノ福祉増進トヲ顧念スル日本軍司令官ハ普ク東北一般人士ニ告ク、今回日支両軍ノ衝突タルヤ日本軍ハ暴虐無道ナル東北軍憲ノ挑戦ニ応シ全ク自衛ノ手段ニ出テタルモノニシテ、事変發生ノ禍根ハ一ニ国際正義ヲ弁ヘサル東北軍憲者流ノ専横ニ端ヲ発ス彼等ハ民衆ヲ抑圧シ苛政ヲ施キ収斂之レ勉メ然モ日本ノ正当ナル權益ヲ侵害蹂躪セントシ其欲スル所単ニ私利私慾ト權勢ノ拡張トニ過キス是実ニ東北三千万ノ民生ヲ愚ニシ日支国交ヲ害スルモノニシテ天意ニ背反スルモノナリ。事既ニ茲ニ

至ル日本軍ノ敵トスル所ハ暴戾ナル東北軍憲一味ノ者ニ在リ而シテ其期スル所ハ断然彼等ヲ排撃シテ正義人道ヲ擁護シ、民衆ヲ救ヒ其ノ生ヲ厚クシ福利ヲ増進スルニ存ス。民衆ハ宜シク日本軍ノ保護ニ信頼シ農工商賈各々其ノ堵ニ安シシ夫々其ノ業ニ勉勵シ以テ永遠ニ東北繁榮ノ基礎ヲ確立スヘク努力センコトヲ望ム

昭和六年十月

大日本軍司令官 本庄 繁

476

昭和6年10月6日 三宅関東軍参謀長より
杉山陸軍次官宛（電報）

旧東三省政府排除に関する関東軍司令部声明
文発表について

10月6日午前8時10分発
10月6日午前9時55分着

関参六〇三号

左記

北大宮駐屯歩兵第七旅ハ旅長王以哲ノ率ヒル張學良直系中ノ最精鋭部隊トシテ其威名東北四省ニ振ヒタリ然ルニ九月

万民衆ノタメ共存共栄ノ樂土ヲ速ニ実現センコトハ衷心熱望シテ已マサル所ニシテ道義ノ上ヨリ之ヲ見ル時ハ速ニ之カ統一ヲ促進スルハ蓋シ我皇國カ善隣ノ誼ヲ發揮スヘキ緊要ノ救済策ナリト信シアリ是レ東洋永遠ノ平和ヲ確立スヘキ方策ニシテ中外ニ施シテ敢テ悖ラサル皇道タリ正義ヲ愛スル世界万国カ三千万民衆ノ幸福ヲ増進スルタメ之ヲ支持シ協力スルニ各ナラサルハ明カナル所ナルヘシ
尚ホ以上原文ハ一昨四日別送セリ

477

昭和6年10月6日 在奉天久保田武官より
小林海軍次官他宛（電報）

奉天における政財界各方面の状況について

奉天 10月6日午後8時0分発
10月6日午後9時53分着

第一番電

一、当地ノ情勢表面的平穩ナル如キモ付属地以外ニハ依然鼠賊ノ横行跡ヲ絶タス人心不安尚去ラズ

二、加之日ヲ経ルニ從ヒ我ノ不利ヲ目論ム支那一流ノ得意ナル各種側面的潛行運動次第起リ現ニ美名ヲ翳シ我欲迎裡ニ昨日北平ヨリ乗込メル支那紅十字会一団ハ直チニ

十八日夜暴挙ヲ行ヒ我軍ノ膺懲スル所トナルヤ敗退ノ各兵ハ逐次所在ニ集結シ勢威ノ回復ニ努ムルト共ニ到ル所集團シテ暴戾ヲ恣ニシ婦女ヲ辱カシメ金品ヲ掠取シ就中我同胞タル鮮人ヲ虐殺スルモノ続出シ殊ニ大甸子ノ如キニ在リテハ其兇手ニ斃レタルモノ百余ヲ下ラス我軍討伐ニ出動スレハ忽チ白旗ヲ掲ケ軍使ヲ差遣シテ直ニ降服ヲ装フ精銳無比ヲ以テ任スル第七旅ニシテ尚ホ且ツ鬼畜モ敢テセサルノ蜜行ヲ行フ爾余ノ素質劣悪ナル軍隊ノ敗残以テ匪ト化シ秩序破壊ノ限ヲ尽クセルハ毫末モ怪シムニ足ラサルナリ之ヲ文明國家ノ軍隊ト曰ヒ或ハ独立國家ノ国格ヲ備ヘタルモノト稱シ得ヘケンヤ借問ス之等ノ徒輩ヲ隸下トセル旧東三省政府ニ対シ同等ノ位置ニ立脚シテ國際正義ヲ論シ得ヘキヤ外交交渉ヲ談シ得ヘキヤ今ヤ政權樹立ノ運動各所ニ發生シ庶民等シク皇軍ノ威容ヲ謳歌スルモ旧頭首ヲ推戴セントスルノ風微塵モ無シ蓋シ積年軍閥職ノ横暴ニ憤激セルノ結果ニ他ナラサルナリ軍ハ政治外交ニ超然トシテ専ラ治安ヲ維持ニ任シ兵ヲ養ヒ靜觀ヲ持シアリ元ヨリ軍ニ依リ治安ヲ維持セラレアル奉天省城内ニ政權ヲ樹立シ或ハ秘力ニ個々ニ策謀スルカ如キハ断シテ之ヲ容認セス然レトモ滿蒙在住三千

避難勧誘ヲ宣伝シ（希望者ハ会負担ニテ北寧線無賃）故意ニ民心ヲ唆カシ為一部ニハ戦乱再起説サヘ起レリト敵ニ取締中
三、東三省通貨発行機関タル官銀号辺業ノ二大銀行尚開カレズ從テ通貨相場立タザル為主ナル商取引停止サレ市面苦境ニアリ

四、新政權樹立問題ハ奉天ニ関スル限り未タ一モ帰スルトコロナキモ各種商社競フテ其ノ資財ヲ宣伝スルモ統制ナク必要ナル資金ト実力ヲ欠ク時ノ経過ト共ニ排他的或ハ切崩シ運動モ伴フベク実現益々困難ヲ加フヘシト觀測スルモノ尠ナカラス

現ニ独立ヲ宣セル軍憲サヘ夫々元ノ親分株ト暗々連絡開始セルヤノ説モアリ 六日

（編注） 本電報は、小林海軍次官のほか「一、二遣、馬要、鎮要司令官、佐鎮参謀長、在支各地武官、十六驅逐隊司令」に發電せられた。

478

昭和6年10月6日 在ハルビン百武（晴吉）武官より
二宮参謀次長宛（電報）

蒙古独立運動に関する情報について

哈市第二二二号（秘）

上田報

メルセ等ハ蒙古政庁要人ト提携シ目下支那ノ羈絆ヲ脱セン
ト計画シアリ之カ為内蒙古及日本ノ意向ヲ確メル為都統及
班禪ハ六日奉天ニ向ヒ出発ノ筈ナリ
関東スミ

10月6日後発
10月6日後着

479 昭和6年10月7日 在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

吉林省政府のハルビン設置に関する情報につ
て

北平 10月7日後発
本省 10月8日前着

第五〇七号（暗）

七日ノ各紙ハ張作相（四日来平）ハ張學良等ト商議ノ結果
吉林省政府ヲ哈爾賓ニ設置スルコトナリ且ツ委員中吉林
ニ於テ日本軍ニ監視セラレ居ルモノハ代理ヲ派スルコトト
シ作相モ近ク同地ニ赴クヘシト報シ居レルカ他方諜報ニ依

フ尚黒竜江ノ軍隊ハ関内ニ出動セル二個旅ヲ除キ黒河（馬
旅長）札蘭屯（張旅長）満州里（程旅長）呼蘭（呉旅長）
海拉爾（蘇旅長）ノ五旅ナルカ黒河、札蘭屯、満州里ノ三
旅ハ全部完全ニ又呼蘭ノ一旅ハ約半数張海鵬ニ味方スル事
ニ決セリト云フ
支、北平、吉林、哈爾賓、齊齊哈爾ヘ転電セリ

481 昭和6年10月7日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

吉林省臨時政府の前途に対する疑問について

吉林 10月7日後発
本省 10月8日前着

第二三二号（暗）

吉林臨時省政府ハ我軍ノ指示ニ依リ省城ニ於ケル当面ノ治
安ヲ維持シ居リ又地方官及地方軍憲ノ統制力完全ニ行ハル
レハ政權ヲ維持シ行ケルモノト思ハルルモ一面軍撤退後ノ
臨時政府ノ運命ヲ疑ハシムル材料鮮カラス主ナルモノ左ノ
如シ

(一) 熙長官ハ我軍ノ手前已ムヲ得ス臨時政府ヲ造リタルモ
ノニシテ作相トノ関係ヲ考慮スル為何処迄モ遣リ通ス覚

レハ六日ノ首脳部會議ニ於テハ一面右移転ノ準備ヲナス
同時ニ熙治ノ態度ヲ探査シ其結果ニ依リ最後ノ決定ヲナス
コトナレル由
支、南京、奉天、哈爾賓、天津ヘ転電セリ
奉天ヨリ吉林ヘ転報アリタシ

480 昭和6年10月7日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

洮南において独立を宣言した張海鵬の動静に
ついて

奉天 10月7日後発
本省 10月7日後着

第八九六号（至急）

確カナル情報ニ依レハ目下黒竜江省ハ万福麟不在ノ為其子
万国賓代理タル処今洮南ニ於テ独立ヲ宣言シタル張海鵬
（故黒竜督軍呉俊陞ノ部下）ハ満州事件以来旧呉俊陞系ノ
連中ニ動カサレ黒竜ノ政權ヲ其手ニ収ムル計画ヲ抱キ策動
ノ結果既ニ在黒竜現有軍隊ノ内三分ノ二以上ヲ味方ニ引付
ケ得タルヲ以テ来ル九日頃ヲ期シ洮南発齊齊哈爾ニ乗込ミ
「クーデター」ヲ断行スル筈ニテ成功ノ見込確実ナリト云

悟ヲ欠ク

(一) 臨時政府各機関ノ人選ハ運動及情実ニ左右セラレ鮮カ
ラス脱線振リヲ示シ居ル為失脚者ハ勿論一般ノ人心早ク
モ新政府ヨリ離反シツアリ

(二) 作相及其部下ノ所謂奉天派ノ天下ニ不滿ナル吉林有力
者間ニハ予テヨリ吉林人ノ吉林ナル思想醗酵シ居タル処
満鉄峰烟ノ情報ニ依レハ彼等ハ日本軍ノ来吉ニ依リ奉天
派カ一掃セラレ吉林人ノ吉（林）ノ氣運至レルモノト為シ
寄々凝議シ居タルニ軍カ熙ヲ擁立シ結局新政府ノ顔触ハ
殆ト從來ノ奉天派人物ノ位置ヲ置換ヘタルニ過キサル為
不滿ニ堪ヘス引続キ極秘裡ニ何等カ計画中ニシテ機會ヲ
窺ヒツツアルカ如シ（中心人物ハ元全省警務処長趙憲章
前吉林籌備処長劉樹春吉林工業會長趙虹軒其他元ノ国会
及省議會員等二十数名ノ由ニテ趙虹軒ハ峰烟ヲ通シ本官
ニ密書ヲ寄セ軍トノ疏通ヲ依頼シ来レルモ本官ノ地位上
依頼ニ応シ兼ヌル旨返事セシメ置キタリ）

(四) 新政府ハ新ニ警備司令ナル軍職ヲ設ケテ各地ノ鎮守使
ヲ之ニ任命シ又地方軍憲ヨリ夫々服従ノ表示アリタリト
称シ居ルモ情報ニ依レハ各地ノ旅及団中向背疑ハシキ者

多ク殊ニ樺甸街道ニ逃レ居ル吉林軍（往電第一二四号参照）ハ軍需品及軍費豊富ニシテ作相ノ衛隊長馮占海（第六八二团长）ヲ中心トシ熙長官ノ懷柔ニ応セス新政府打倒ノ機会ヲ窺ヒツツアリ

奉天ヨリ哈爾濱へ転電アリタシ

長春、奉天、間島、北平、支、南京へ転電セリ

482 昭和6年10月7日 ※在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

コロンバイル地方の独立運動に関する情報について

ハルビン 10月7日後発
本省 10月8日後着

第三〇八号（暗）

満州里発本官宛電報

合第一二号

本官発大臣宛電報

第二三号

情報ニ依レハ呼倫貝爾ノ独立運動計画ハ去ル一日以来郭道甫ヲ中心トスル一派ニ於テ海拉爾蒙古政庁官吏等参加シテ

二十八日在郷軍人陸軍大尉若月太郎ト何等カ打合セタル形跡アリ其内容不明ナルモ復辟運動関係者トノ打合乃至情勢視察ト看做サレ居レリ尤モ本人ハ墓参ノ為ト称シ約十日間滯奉大和「ホテル」ニ投宿ノ予定ナリト称シ居レリ

484 昭和6年10月8日 在上海村井（倉松）総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

日本軍より内蒙古首領への武器供給に関する情報について

上海 10月8日後発
本省 10月8日後着

第六一四号（平）

八日ノ当地各新聞ハ七日北平発「ルーター」電トシテ張學良司令部ニ於テ接受セル公電ニ依レハ日本軍ハ内蒙首領ニ武器ヲ供給スル為十月二日武器弾薬ヲ五列車ニ満載シ日本兵擁護ノ下ニ伊古蘇ニ到リ鉄道職員ヲ一室ニ拘禁シ夜間停車場ノ燈火ヲ消シ蒙古人ハ之ヲ百輛余ノ馬車ニ積換ヘ内蒙古ニ運ヒ去レリ翌日又同様武器弾薬カ洮南付近ノ一小駅ニ輸送セラレ同所ヨリ大河駐屯中ノ千余名ノ蒙古兵ニ引渡サレタルカ右軍隊ハ三十人ノ日本留学蒙古青年ニ依リ統率セ

極秘裡ニ政庁内ニ於テ行ハレ居ル処昨六日ノ會議ニ於テ今回ノ運動ハ蒙古民族自決ヲ目的トシテ行フモノナルヲ以テ外蒙古共和国ト合併ヲ目的トスル「ボルドー」（進歩派蒙古人）一派トハ連絡ヲ絶ツコトニ決議セル由ナルカ右會議ノ席上班禪喇嘛ハ独立運動開始ハ自分ノ支那側ニ対スル立場ヲ考慮ニ入レ自分ノ出發後ニ行フ様懇請シタルモ政庁官吏連ハ独立熱盛ナル為喇嘛ノ言ニ耳ヲ傾ケス運動開始ヲ急キ居ルモノノ如シト謂フ

尚海拉爾ニ於テ郭ハ帰海前独立ニ関シ奉天ニ於テ日本軍ノ諒解ヲ得居ルトノ風評アル趣ナリ

哈爾濱ヨリ公使、大臣、北平、奉天へ転電アリタシ
支、北平、奉天、哈爾濱、齊齊哈爾へ転電セリ

483 昭和6年10月7日 塚本関東長官より
幣原外務大臣宛（電報）

恭親王の奉天行に関する情報について

旅順 10月7日後発
本省 10月7日後着

コ第四二〇号（暗）

恭親王ハ本朝九時大連発急行列車ニテ赴奉セリ本人ハ客月

ラレ居レリ又蒙古王侯数人ハ現ニ兵ヲ率ヒテ鄭家屯付近ニ在リ独立宣言ヲナシ鄭家屯ニ侵入ヲ策シ居ル処彼等モ日本人ヨリ小銃三千挺彈丸百万発山砲四門多数砲彈及飛行機二台ノ供給ヲ受ケタルカ右武器弾薬ハ日本軍カ奉天占領後兵工廠等ヨリ分捕リタルモノナリ云々ト報道シ居レリ
公使ニ転報シ北平、奉天、南京へ転電セリ

485 昭和6年10月(8)日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天地方維持委員会より各国領事宛通知について

奉天 10月8日後着
本省 10月8日後着

第九〇一号

当地地方維持委員会ハ奉天駐在各国領事宛十月六日付ヲ以テ左ノ通り通知セリ
同人（委員一同ヲ指ス）ハ省城近日ノ情形ニ鑑ミ臨時ノ措置トシテ規則ヲ定メ地方維持委員会ヲ組織セリ其目的ハ地方ノ治安及金融商業等ノ事項ニ対シ維持弁法ヲ講シ之ヲ実行スルニ在リテ既ニ民国二十年九月二十五日省城内旧実業

庁跡ニ於テ事務ヲ開始シ且ツ既ニ印鑑ヲ作り同日ヨリ使用セリ

転電先 公使、北平、南京

486 昭和6年10月(8)日 在局子街田中分館主任より
幣原外務大臣宛(電報)

局子街県長の新政権に対する態度について

局子街

本省 10月8日後着

合第一七号(暗)

本官発間島宛電報

第一五号

啓県長七日本官ヲ来訪シ最近在北平張作相ヨリ吉林省政府ハ満州事件ニ依リ一時政務執行ノ自由ヲ失ヒ居ルニ過キサレハ新政権ナルモノノ一切制令ハ奉スル勿レトノ訓令ニ接シタルカ当地方一般官民ハ今回ノ吉林新政権ナルモノハ暗ニ日本側ノ指導ニ依リ成立シタルモノト観測シ若シ自分ニシテ新地位タル市政籌備処長ニ就任スルコトヲ拒ムニ於テハ日本側力承知セス何等新事態ヲ惹起セスヤトノ懸念深ク頻リニ就任方勸告サレ居リ目下ノ処ニテハ兎ニ角一時何レ

487 昭和6年10月8日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

時局に関する吉林省長官熙洽の談話について

吉林 10月8日後発

本省 10月9日前着

第二三五号(暗)

八日熙長官ニ面会シタルニ熙ノ談話左ノ如シ

(一) 綏寧鎮守使張之江(寧安駐在)ハ独立シタルニ非ス同地方税捐局長等ヨリノ報告ニ依レハ張ハ若シ新政府ヨリ軍費ノ仕送り無キ場合ニハ省政府ニ送付スヘキ諸税金ヲ以テ軍費ニ当ツル必要アリトテ右送金ヲ同地方税局ニ対シ差止メタルモノナリ又延吉ノ吉興長春ノ李桂林ハ問題ナク唯哈爾濱ノ丁超ヘ電信通セス依蘭ノ李杜ヘハ使者ヲ出シタルモ未タ歸リ来ラス

(二) 張作相亡父ノ葬儀ヨリ最近帰吉セル者ノ話ニ依レハ作相ハ學良ヨリ東北辺防軍總司令ノ地位ヲ譲リ東北ノ時局ヲ委セル旨ノ話アリタル由ナルカ東三省ノ民意カ作相ノ出馬ヲ欲シ日本軍部ニシテ異存無クハ作相ハ或ハ時局解決ヲ引受クルヤモ知レス

ノ政権ニモ偏セサル臨機応変ノ態度ヲ以テ時局ニ善処シ行カントスル方針ニ傾キツアルモノ一方自分カ留日学生出身タル關係上親日派ト目サレ今回ノ新地位モ日本側ニ運動シテ獲得シタルモノナリトノ流言的非難モアリ旁自己ノ人格ヲ保ツ為ニモ此際最モ慎重ナル考慮ヲ要シ場合ニ依リテ新県長来ルモ事務引継キヲ拒マサル可カラサル立場ニアリトテ我方態度如何ニ依リ去就ヲ決セントスルモノノ如ク非公式ニ本官ノ意見ヲ求メタルヲ以テ支那側政権ノ推移ニ対スル我方ノ公正ナル態度ヲ縷々説明シ去就ハ支那側ノ自由ナリ但シ此種人事異動ノ為地方治安乱レ在留民ノ生命財産ニ危険ヲ及ホスカ如キ事態發生ニ対シテハ黙過シ難シト述ヘタル処地方治安維持ヲ第一義トシテ万事ニ善処スルコトニ同意シ新県長ノ来否決定ヲ待チ去就ヲ決スヘシト言ヘリ尚鎮守使吉興ハ熙洽ト親戚關係ナク何時ニテモ退職ヲ覚悟シ居リ先日連絡班長ヨリ現地位保障方申出アリタルニ対シテモ断リタル程ナリト洩ラセリ

奉天ヨリ公使、北平ニ転電ヲ請フ

大臣、奉天、吉林ニ転電シ、琿春、百草溝、頭道溝ニ暗送セリ

奉天ヨリ哈爾濱ヘ転電アリタシ

長春、奉天、支、北平、南京、間島ヘ転電セリ

488 昭和6年10月8日 在ハルビン百武武官より
二宮参謀次長宛(電報)

蒙古独立運動に関する情報について

10月8日前発
10月8日後着

哈第二二四号(秘)

上田報

一、メルセ、フーミンタイ、カクフンリンハ協同一致シアリテ蒙古政庁ト了解アルコト確ナリ
二、支那側ハ蒙古側ノ懷柔威嚇ニ努メアリ
三、目下ノ情勢ニテハ蘇邦ノ援助ニ依ル運動ハ望薄キモノト思ハル

関東済ミ

489 昭和6年10月8日 塚本関東長官より
幣原外務大臣宛

東北新政権樹立問題、吉林省臨時政府組織および蒙古独立運動等時局に関する政治策動の

情報について

公信関機高支第一一八三八号（極秘）

時局ニ関スル政治策動

- 一、市政公署顧問上田統同事吉田無堂元憲兵大尉甘粕正彦等主トナリ瀋陽地方維持委員会袁金鎧、東北法學研究会長趙欣伯等ト連絡シ東北新政權樹立ニ関スル指導ニ当リ居レリト云ヘルカ近日中撫順城内ニ於テ独立宣言ヲ発スルコトニ決定シ之カ主權者ニ関シテハ土肥原市長ヲ通シ軍部ノ諒解ヲ得タル上決定スヘシト彼等ハ唱ヘ居レリ
- 二、東北政權樹立問題ニ関シ趙欣伯ハ次ノ如ク語レリ
憲法草案ハ目下慎重審議中ニシテ何レ日本軍部及各界代表ノ諒解ノ下ニ決定スル筈ナルカ最近本件ニ関シ数多ノ邦人自分ヲ訪問シ意見ヲ求ムレトモ此ノ際所謂浪人独特ノ利權の言辭ニハ耳ヲ藉ス能ハス只誠意以テ時局ニ善処セムトスル覚悟ヲ有シ居ル次第ナリ云々
- 三、東北政權樹立ノ困難ナル事情ニ付四民維持委員会王維周ノ語ル処左ノ如シ
東北政權樹立ニ関シ地方維持委員会等ノ最モ憂慮スル処ハ若シ之カ実現ノ曉ハ必ス滿蒙問題ニ関シ日本ト折衝セ

者タルカ如キ説ヲ為スモノアルモ斯ルコトハ全然ナシ今更此ノ老軀ヲ提ケテ政治ノ要衝ニ当ルカ如キコトハ夢想タモセサル処ナリ仮リニ自分カ其ノ要職ニ就キタリトスルモ日本軍隊ノ撤退後ハ直ニ潰滅スルコト火ヲ睹ルヨリモ隙ニシテ斯ル姑息ナル考ハ更ニナシ然レトモ現状ヲ以テスルコトハ不安ニ堪ヘサルヲ以テ成ルヘク速カニ完全ナル機關ト統制アル指揮指導者ノ出現センコトヲ希望シテ止マサルモノナリ

五、甘珠爾札布一味ノ蒙古独立運動ニ参加スヘク左記八名ノ日本留学生ハ本月三日午後一時奉天着駅前瀋陽旅館ニ投宿シ中、徳古来、包海明ノ兩名ハ同日午後十一時奉天発列車ニテ鄭家屯ニ向ケ出発シ他ノ六名ハ命ヲ俟チテ行動スルコトトナリ居タルカ四日鄭家屯ニアル先発者ヨリ召電ニ接シ同日午後三時三十分奉天出發鄭家屯ニ向ヒタルカ旅館投宿中語ル処ニ抛レハ吾等ハ遇（脱）通信ヲ以テ秘密裡ニ蒙古独立運動ニ付打合中ナリシカ愈々機熟シ今回帰国シタルモノナリ尚日本内地ニハ二、三名ノ連絡者ヲ残シ其他ハ全部帰国シタリ尚平津及南京各地ニ同志三十余名アルモ彼等ハ支那官憲ノ監視ヲ受ケ行動ノ自由

サルヘカラス其ノ際日本側ノ要求通り調印スルカ如キコトトナレハ末代迄國賊ノ汚名ヲ遺スコトナルヲ以テ等シク苦痛トスル処ナリ袁金鎧ノ如キハ特ニ二十余年来張家一門ト關係アリ今回ノ事件突発ノ際苦悶懊惱遂ニ身ヲ以テ遁レムト決意シ其ノ旨張學良ニ訴ヘタル処張學良ヨリ密書ヲ寄セ其ノ苦衷ヲ察スルモ從來ノ交誼ヲ考ヘ今暫ク留マリ然ルヘク対日策ヲ講セラレタシトノ懇篤ナル依頼ニ接シ已ムナク思ヒヲ翻シ時局ニ関シ種々斡旋ノ勞ヲ執リツツアリ

一方關朝璽ノ出馬ハ容易ナルモ之カ名目立タス何等カノ方法ヲ講シ各団体ト連絡シ一致ノ推薦ニ依ル形式ヲ採ラハ悦ンテ起ツヘシトテ目下各方面ニ之カ運動中ナリ、然レトモ茲ニ尤モ障害トスルハ錦州ノ臨時遼寧政府ノ存在ナリ地方維持委員会ハ固ヨリ吉林政府及哈爾濱特別区ニ至ル迄何レモ張學良ノ掣肘ヲ受ケツツアル状態ニシテ今後之等ノ關係ハ益々密接トナリ東北新政權ノ樹立ハ益々困難ニ陥ルナラン云々

四、東北政權樹立ニ関シ地方維持委員会袁金鎧ノ言

東北新政府樹立ニ付世間種々ナル噂アリ或ハ自分カ首腦

ヲ失ヒ居レルヲ以テ我々一行中ノ者ヲ平津地方ニ派遣シ同志ヲ救出シ同道入蒙シ飽迄鞏固ナル結束ノ下ニ独立ヲ完成シ多年漢族ノ圧迫ヲ脱セムトスルモノナルモ只將來赤露ノ侵害ヲ恐ル、幸ヒ日本ノ援助モアリ成功疑ナキコトヲ信シ居レリ云々

長崎高商二年	徳古来	当二十六年
東京士官学校	包海明	当二十六年
日本大学法科	李友桐	当二十四年
日本大学政治科	徳樹元	当二十五年
東京士官学校	郭興元	当二十六年
東京上野美術学校	鄂遊五	当二十七年
東京府立第六中学	曹伯聖	当十八年
東京府立第六中学	李樹槐	当十六年

六、吉林独立ニ関シ哈爾濱特別区行政長官及同地首腦機關ノ態度ニ就キ某支那人ノ語ル処左ノ如シ

哈爾濱ハ特殊地域ニシテ行政長官以下護路軍首領等ハ張作相ヨリ何分ノ命令アル迄ハ新吉林省長官ノ命ニ服従シ難シ在哈各機關トモ從來通り些モ改革セサルコトヲ表明シ張作相ニ訓令ヲ仰キ事ヲ処理シ居レルカ本月二日行政

長官宛張學良ヨリ東三省一切ノ権限ヲ一任スルヲ以テ至急帰奉シ善後ヲ処理スヘシトノ電命ヲ受ケタルカ三日一応北平ニ赴キ學良ト熟談帰任ノ上善後処理ニ当ル趣ナリ依テ吉林省長官公署ヨリ哈爾濱各税捐局ニ徵収税金ノ送付方督促アリシモ張作相主席ノ命アル迄送金セサルコトニ決定シ居レリ云々

七、吉林独立宣言ト共ニ吉海鐵路局長ニハ艾迺芳ヲ任命シタルカ吉長、吉敦鐵路局長郭統潤ハ事件後北平ニ赴キタル儘帰來セズ彼ハ元來張作相派ナルヲ以テ熙長官ハ後任局長ニ肅憲奎ヲ任命セントシ其ノ就任方ヲ交渉シタリ肅憲奎ハ阿部忠夫ト共ニ吉林ニ赴キ居タルカ四日午後一時奉天ニ帰來シ阿部ノ語ル処ニ依レハ今回肅憲奎ノ吉長、吉敦鐵路局長就任交渉ニ接シ熙長官ニ面会之ヲ承諾シテ歸リタルカ滿鉄トハ密接ノ關係アリ依テ奉天事務所長木村理事其他來奉中ノ滿鉄關係方面ニハ諒解ヲ求メタルモ尚大連ニ赴キ滿鉄正副總裁ノ諒解ヲ求ムル管ナリ云々

八、臨時吉林省政府ノ組織

（九月二十九日盛京時報所載）

要 旨

第六条 公署ニ秘書長一人秘書若干名ヲ置ク

第七条 長官公署ノ下ニ左記ノ各庁処ヲ置ク

財政庁 建設庁 実業庁 教育庁 警務処

本省ノ右各庁処ニ屬セサル在來ノ機關ハ總テ長官公署ノ管轄トス

第八条 暫ク木質ノ官印ヲ刻用ス其文ハ「吉林省長官公署印」ノ八字トス

第九条 本大綱ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第十条 事宜ヲ尽ササル事項ハ隨時ニ之ヲ改定ス

官制任命

從來ノ委員制ハ停止シ官制ニ依ル任命下ノ如シ

任吉林省長官（原參謀長兼省委員） 熙 洽

任軍政庁長（原訓練処參謀長） 郭 恩 霖

任民政庁長（原建設庁長） 孫 其 昌

任秘書長（留 任） 潘 鶚 年

任財政庁長（留 任） 榮 厚

任建設庁長（原高等法院長） 富 春 田

任実業庁長（留 任） 馬 德 恩

任教育庁長（留 任） 王 世 選

吉林省主席代理熙洽ハ二十八日自ラ臨時吉林省長官ニ任シ吉林省ヲ以テ獨立行政區域トナシ軍政及司法ヲ統轄スヘキ旨ヲ布告シ主要職員ヲ任命セリ其ノ布告文組織大綱官制等左記ノ如シ

（一）二十六日正式ニ成立セル臨時政府ノ布告

時局ノ關係ニテ地方ノ治安ヲ謀ル為全省各法團各機關會議ノ議決ニ依リ暫ク吉林臨時省政府ヲ吉林省城ニ置キ民政軍政及司法監督ニ關スル一切ノ事項ヲ統轄ス長官ハ全責任ヲ負ヒ省政ヲ支持ス議決セル組織大綱ハ十ヶ条茲ニ全省民衆ニ布告ス

九月二十六日 長官 熙 洽

組織大綱

第一条 吉林臨時省政府ヲ吉林省城ニ設ク

第二条 臨時省政府ニハ長官一人ヲ置ク

第三条 長官ノ執務機關ハ吉林省長官公署ト名ツク

第四条 長官ハ全省ノ民政軍政及司法監督ヲ統轄スル全權ヲ有ス

第五条 長官公署内ニ民政軍政ノ兩庁ヲ置ク其ノ組織法ハ別ニ之ヲ定ム

任警務処長（留 任） 王 之 佑

任高等法院長（原省委員） 誠 允

任長春市政籌備処長（原軍秘書） 張 燕 卿

任延吉市政籌備処長（原延吉縣長） 啓 彬

任延吉縣長（原教育副會長） 張 樹 珊

任長春縣長（原長官秘書） 趙 汝 樸

任敦化縣長 劉 興 沛

任吉林公安局長（原軍署參謀処長） 趙 榮

任省政府顧問（原長春交涉員） 周 玉 柄

任省政府顧問（原延吉交涉員） 張 書 翰

任長官公署秘書（原長春縣長） 馬 仲 援

任同 （原軍署秘書長） 王 宝 善

備考

以上ノ任命ニテ著シク注意スヘキ事項ハ長春、延吉等ノ排日札付ノ交渉員ヲ排除シテ顧問トシタルコトナリ顧問ハ僅ニ顔ヲ立テシノミ恐ラクハ赴任セサルヘシ

490

昭和6年10月8日

塚本閔東長官より幣原外務大臣宛

新政權樹立等政治策動に関する情報について

公信関機高支第一一八三九号（極秘）

時局ニ関スル政治策論

一、撫順城内ニ於ケル独立宣言新政府樹立計画モ愈々最後ノ決定間際ニ於テ袁金鎧等ノ躊躇闕朝璽ノ野心策動等ニ依リ結局決定ヲ見ルニ至ラス保安隊長トシテ噂セラレ居タル荒木五郎（黄慕）甘粕正彦等ニ於テモ之等ノ問題ニ触ルルヲ避ケツツアリトノ聞込アリ依テ市政公署ニ於テモ今俄ニ軍閥ヲ以テ新政權ヲ樹立セシムルハ一般ノ誤解ヲ招ク虞アリトノ意見ニ傾キ地方維持委員会側ヨリノ相談ニ応シ寄々協議中ノ処差当リ地方維持委員会ノ下ニ匪賊警戒ヲ主トスル保安隊（隊員約六百名程度）ヲ設ケ之ヲ中心ニ漸次各県ニ同様自衛団ヲ組織セシメ地方維持委員会ト連絡ヲ図リ適当ノ時期ニ於テ之等各自衛団ヲ一団トスル新政府組織ノ氣運ヲ醸成セシメ徐ロニ滿州政權ノ樹立ヲ図ルコトヲ適当且合理的ナリトナスニ至リ復辟運動モ自カラ影ヲ薄ラクニ至リタリト唱ヘラレ居レリ

二、本月五日天津ヨリ来連シタル肅親王顧問川島浪速カ特秘ナリトテ語リタル処ニ依レハ自分ハ多年滿蒙対策上此処ニ独立帝政国家ノ建設ノ必要ヲ説キ各方面ニ窺カニ運

動シ来リタルモノナルカ未タ其ノ機熟セサリシ処今回ノ奉天事件ニ依リ機會ハ方ニ到来シタルモノトシ急遽東京ヲ出發シ本月一日朝鮮經由來滿洲上義雄ト蘇家屯ニ落合ヒ相伴ヒテ大連經由天津ニ赴キ宣統帝ニ面接ノ上本問題ニ対シ帝ノ意見ヲ徴シタル処帝ハ東洋永遠ノ和平ヲ図ル為ニハ如何ナル犠牲ヲモ辞セストノ決意ヲ示サレタルニ依リ諸般ノ打合ヲ為シテ大連ニ引返シタル次第ナルカ近日中奉天ニ赴キ關係方面ト打合ヲ為ス予定ナリ自分ノ計画ハ他ノ不良支那浪人等ノ売名的乃至利權的ノ策動ト趣ヲ異ニシ各方面トモ連絡アリ國策ヲ誤ルカ如キ輕率盲動ハナサス最後ノ國家奉仕トシテ極力目的貫徹ニ努ムヘキ考ヘナリ云々

三、目下遼陽ノ自宅ニ静養中ノ地方維持委員会副委員長于冲漢ハ近日中奉天ニ赴クコトナリ居レルカ今回ノ問題ニ対シ次ノ如ク語リタリ。時局解決ニ関シ有力ナル機關ハ袁金鎧一派ノ地方維持委員会及闕朝璽一派ノ四民臨時委員会ノ二ニシテ各其主義ヲ異ニシ居レルカ直ニ民治ヲ行ヒ東北民衆ノ幸福ヲ求メムトスルニハ絶対軍閥ヨリ離脱シタル政權ヲ樹立セサルヘカラス尚新聞紙上伝ハレル

袁一派ノ自治政府ナルモノモ此際政府ナル名称ヲ用ヒス委員会ノ名ヲ以テ事實独立セル民治ヲ行フヲ適當ナラムト信ス目下遼寧省政府ハ臨時錦州ニ設置サレ各県政府ニ

對シ通令ヲ發シ政務ヲ開始セリト聞ク於茲新委員会ハ協力一致シテ時局ニ善処シ且軍閥闕一派ヲ此ノ際排除スルノ要アルモノト信ス自分ハ近日中奉天ニ赴キ東北民衆ノ福利増進ノ為メニ努力スヘク用意シ居レル処ナリ斯克テ東北ニ完全ナル民治ヲ行ヒ真ノ日支親善ヲ期待シ居レル処ナリ云々

四、大連亡命中ノ張學成ハ四日午後三時三十分奉天着列車ニテ赴奉シ駅前天泰棧ニ投宿中ナルカ今回ノ事變ニ對シ左ノ如ク語リ居レリ

今日奉天地方稍々平靜ニ帰シタルヲ以テ赴奉シタルモノナルカ今日迄弱年張學良ノ專斷橫暴且部下亦弱年新派ノミニシテ自ラ顧ミル処ナク斯克テ日支双方ノ不幸事ヲ釀成セルハ洵ニ遺憾ニ堪ヘサル処ナリ學良ハ自ラ造リタル此ノ罪禍ヲ今更如何トモナシ能ハス必定第三者ニ東北ヲ讓リ日本ノ援助ヲ頼ミ東北ヲ收拾セサルヘカラス自分ハ學良ト意見ヲ異ニシ石友三ト提携シタルモ遂ニ敗戦シタ

ルハ慙愧ニ堪ヘサル処ナルカ及ハスナカラ日支兩國ノ為將又東北ノ時局收拾ノ為メ勞ヲ厭ハサルモノナリ云々

五、國民政府外交部情報係員李仲剛ハ曩ニ中央政府ノ命ヲ受ケ哈爾濱地方ノ狀況視察ニ赴キ五日午前八時着列車ニテ大連ニ歸來シ語ル処大要左ノ如シ

今回哈爾濱ニ於テ露國側各機關ノ幹部ト會見シ種々意見ノ交換ヲ為シタル処露國側ノ意向ハ目下ノ処今回ノ時局ヲ利用シテ出兵等ヲ為スカ如キ傾向ナキモ現在各地ノ空列車ヲ悉ク滿州里方面ニ集中シ居レルハ別ニ軍事行動ニ非ス万一日日本軍カ哈爾濱以北ニ出兵シタル際ニ備フル軍隊輸送用ノ下準備ナルモノノ如ク現在露國カ中国ニ對シ要求スル処ハ東支鐵道ノ懸案ヲ解決スルニ於テハ露支一致シテ日本ニ當ルヲ得策トスルヲ以テ此ノ際速ニ露支共ニ東支鐵道問題解決ニ當ルヘシ露國ハ日本ト異リ領土の野心ナシトノ意向ヲ有シ居レルカ從來露國ハ極メテ狡猾ナル國ナルヲ以テ余程警戒ヲ要スヘキナリ既ニ露國ハ今回ノ日本軍ノ行動ヲ利用シ巧妙ナル宣伝ニ依リ日支ノ離間策ニ努メツツアルコトヲ確認セリ其ノ効果偉大ニシテ彼等ノ手段実ニ驚クヘキモノアルヲ認メタリ

自分ハ時節柄日本当局ヨリ心ナキ疑惑ヲ受クルコトヲ避
ケ途中ニ下車スルコトナク往復トモ直行シ用務ヲ達シタ
ルモノナリ云々

491 昭和6年10月9日 ※在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

蒙古独立運動に関する情報について

奉天 10月9日後発
本省 10月10日前着

第九二〇号(暗)

鄭家屯発本官宛電報

郵第一五号

蒙古人ノ独立運動ニ関シ

七日博王旗ノ蒙古人「ナソソウリツチ」(当地ニ在ル我軍
ノ通訳)密カニ本官ニ語ル所ニ依レハ本月二日夜間日本ノ
装甲車ニテ長銃三千挺彈丸数万発ヲ輸送シ当地東方一裸
樹駅ニ於テ打合セタル蒙古部落大耕子ノ蒙古統領包善一ノ
手兵ニ引渡シタリ包ハ旧部下ノ所有銃器一千挺アルヲ以テ
都合四千挺トナリ既ニ糾合シタル蒙古壯丁三千人アルカ尚
続々募集中ナリ大耕子ニハ日本ノ退役軍人十名アリ「バブ

内容ヲ洩レ聞ク所ニ依レハ在吉林大迫大佐ハ吉林省政府ヲ
シテ間島地方ニ対シ或ル策動ヲ行ハシムル事トナリ其内容
ハ帰還ノ上相談スヘシトノ事ナリ御参考迄
長春ヨリ吉林ヘ転電アリタシ

493 昭和6年10月9日 在鉄嶺石塚領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

鉄嶺憲兵分遣隊長の諸要求に対する県長の内
話について

鉄嶺 10月9日前発
本省 10月9日前着

第六一号(暗)

本八日当地憲兵分遣隊長ハ午後二時鉄嶺県長ヲ同隊ニ招致
シ(一)城内ニ貼布シアル関東軍司令官ノ布告カ何者カニ依リ
剝奪セラレ居ル処県長ハ之ヲ風雨ノ為トノミ称シテ犯人逮
捕等ノ措置ヲ執ラサルハ誠意ヲ欠クモノニ非スヤ(二)鉄嶺城
内ニ排日秘密會議ヲ開催シ県政府員モ之ニ加入シ法院檢察
官長之ヲ主宰ストノ聞込アル処右真偽如何(三)錦州政府トノ
間ニ文書往復アラハ其内容ヲ知タシト述ヘ(四)ニ対シテハ至
急犯人ヲ逮捕シテ処罰セラレタシ(五)及(六)ニ付テハ県政府ニ

「チャップ」ノ医師「カンチユルチャップ」(日本士官学校
出身)ハ包ノ参謀格トシテ活動中ナリ今回ノ武器供給者ハ
本庄司令官ノ諒解ノ下ニ羽山少佐及林大佐(四平街憲兵隊
長)之ニ当リ独立運動ノ準備付キ次第通達經由西方内蒙古
ニ赴キ結局ハ察哈爾省ノ錫林郭勒ニ於テ独立スル計画ナレ
ハ鄭家屯通達方面ニ於テハ支那側カ攻撃セサル限り衝突ス
ル事無カルヘシ今回ノ行動ハ東蒙各王トモ賛成シ居ルカ軍
費ノ出所無キハ前途(脱)ナル欠陥ナリ云々
大臣、支、北平ヘ転電アリタシ

赤峰、張家口、哈爾濱、吉林、長春、齊齊哈爾ヘ暗送セリ

492 昭和6年10月9日 在間島岡田総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

軍側の間島地方における策動に関する情報に
ついて

間島 10月9日後発
本省 10月9日後着

第二二一号(暗、極秘)

当地連絡班長河野少佐ハ十月一日当地出發京城奉天吉林ニ
出張中ナルカ同少佐奉天發間島出張中ノ神田参謀宛電報ノ

赴キ文書ノ調査ヲスヘシト申渡シタル上憲兵分隊長ハ直ニ
守備隊中山大尉以下約三十名ト共ニ県長等ヲ同行シ県政府
ニ赴キ兵員ヲ三分シ公安局、地方法院及県政府ノ文書ヲ檢
査押収シ公安局ニ於テハ銃器彈藥ノ検査ヲモ実行セリ尚其
他税捐局、官銀号、電報電話局等各機關ヲモ検査セリ
右ニ関シテ県長ハ午後九時半本官ヲ来訪シ其經過ヲ説明シ
タル後中山大尉ハ県長ニ対シ(一)布告剝奪犯人ヲ逮捕嚴罰ス
ルコト(二)錦州政府ト絶縁シ今後錦州政府ヨリ公文等來ル場
合ニハ之ヲ軍側ニ通知スルコト(三)排日ハ嚴重取締ルヘキコ
ト(四)敗兵出沒状況ハ隨時遲滞ナク報告スヘキコト等ノ条件
ヲ申渡シ引揚ケタル旨付言セリ

更ニ県長ハ自分ハ事變發生以來誠意ヲ以テ総テヲ処理シ來
レルモ未タ軍側ノ誤解ヲ解ク能ハス常ニ疑惑ノ眼ヲ以テ見
ラレ居ルハ苦痛ナルヲ以テ一時領事館内ニ起居スルヲ許サ
ルルカ左ナクハ貴官ニ御願シ奉天ニ赴キ軍司令官ニ面謁シ
誠意ヲ披瀝シテ他意ナキヲ示シ尚且軍側ノ誤解ヲ解ク能ハ
サルニ於テハ此ノ際一思ヒニ銃殺セラルルカ優シナリト申
出テ極度ニ昂奮シ居ルニ付慰撫シテ一先ツ引揚ケシメタリ
支、北平、奉天、南京ニ転電シ、長春、安東ニ暗送セリ

494

昭和6年10月9日 児玉朝鮮軍参謀長より
二宮参謀次長宛（電報）

熙治政権を否認する張作相より延吉鎮守使
への密電について

10月9日後発
10月10日後着

朝参報第二一一号（秘至急）

一、六日哈市經由延吉鎮守使ノ受ケタル張作相ノ密電ニ依
レハ「改組政府ハ絶対ニ認ムヘカラス数日中ニハ哈市臨
時政府ヲ組織スルヲ以テ夫レ迄ハ熙治並長官公署ノ命令
ニハ絶対服従スヘカラス」ト而シテ鎮守使ハ之ヲ各方面
ニ転電セル形跡アリ
二、延吉鎮守使ハ部下ノ給与（月額約六万元）方ニ就キ考
慮中ニ在リタルカ七日東三省銀行分行ニ回付セル汪清県
四万六千元和竜県五万元ノ税捐ヲ差押ヘ各県長、税捐局
長並銀行經理ニ対シテハ省政府ニ対スル全責任ハ鎮守使
之ヲ受クヘキ旨ヲ誓約セリ

関東済ミ

いて

第一三八号（暗）

北平発閣下宛電報第五〇七号ニ関シ

吉林 10月10日後発
本省 10月11日前着

確ナル情報ニ依レハ三、四日前熙治及元省議會議長林鶴皋
（元省議會議員四十名ハ省政府ノ諮議ニ任セラレ居リ林ハ
旧議長トシテ彼等ヲ代表ス）ヨリ作相ニ使者ヲ派シ哈爾賓
ニ省政府ヲ設クル時ハ省民ハ去就ニ迷ヒ治安乱ルルニ付思
ヒ止マラレタキ旨申送リタル由ナリ
奉天ヨリ哈爾賓ヘ転電アリタシ
奉天、支、南京、天津ヘ転電セリ

497

昭和6年10月10日 ※在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

郭道甫・班禅喇嘛の奉天行及内蒙古独立運動
について

ハルビン 10月10日後発
本省 10月10日後着

第三二四号（暗）

495

昭和6年10月10日 在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

熙治・袁金鎧等と日本軍との満州に関する密
約説について

上海 10月10日後発
本省 10月10日後着

第六二七号（暗）

当地各漢字紙ハ九日発北平電報トシテ熙治袁金鎧等ハ満州
ニ於ケル日本軍トノ間ニ（一）満蒙ニ独立国ヲ建設ス（二）東三省
鉄道ハ凡ヘテ満鉄ノ経営ニ帰セシム（三）營口安東牛莊海城鄭
家屯長春ノ六地ヲ日本ニ割譲ス（四）鮮人ノ満州内地雜居ヲ
認ム（五）遼吉兩省ニハ軍隊ヲ置クヲ許サス単ニ一万人以下ノ
警察ヲ置キ警備ニ当ルコトヲ許ス云々ノ五項密約ヲ締結セ
リト報セリ御参考迄
公使ニ転報セリ、北平、奉天、南京ニ転電セリ

496

昭和6年10月10日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

ハルビンに省政府設置阻止に関する情報につ

満州里発本官宛電報

合第一六号

本官発大臣宛電報

第二七号

往電第二六号郭道甫ノ奉天行ハ同地ニ於テ開カルヘキ内蒙
古會議ニ出席スル為ナリト洩ラシタル由ニシテ同行者ハ
「チルチン」（蒙旗長）及郭林泰（蒙古政庁官吏）ナリ
又班禅ノ奉天行ハ誤ニシテ同人モ近ク海拉爾出発ノ予定ナ
ルモ其時日未タ決定セサル由ナリ

尚呼倫貝爾獨立運動ニ関シ蒙古政庁其要人ハ郭一行カ帰海
後開始スルヤ否ヤヲ決定スルコトナリ居レリト洩ラシタ
リト云フ

哈爾賓ヨリ大臣、公使、北平、奉天、南京ヘ転電アリタシ
支、北平、奉天、哈爾賓、南京、齊齊哈爾ヘ転電セリ

498

昭和6年10月10日 ※在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

張海鵬による黒竜江省独立計画について

ハルビン 10月10日後発
本省 10月10日後着

第三二五号（暗）

満州里発本官宛電報

合第一七号

本官発大臣宛電報

第二八号

張海鵬ノ独立計画ニ対シテハ往電第二五号ノ通当地方軍部
当局ニ於テハ絶対反対ヲ唱ヘ七日ニハ相当ノ量ノ食糧ヲ購
入セルヲ以テ万一ノ際ニ於ケル出動準備ナリト一般ニ噂セ
ラレ居ル処下級士官ニハ内々之ニ共鳴スルモノアリ現ニ海
拉爾駐屯ノ歩兵一二旅ノ一部ハ俸給不渡リヲ名トシテ七日
夜暴動ヲ企テタルモ上官ノ慰撫ニ依リ事ナキヲ得タル事実
等ニ照シ張ニシテ一度独立ノ旗幟ヲ明カニシテ黒竜江省内
ニ兵ヲ進ムル事トモナラハ当地方軍部ハ内部的ニ崩壊スル
危険性ヲ多分ニ有スルモノトシテ懸念スルモノ多ク殊ニ当
地広信公司等ノ金融業者ハ此点ヲ憂慮シ目下取引手控中ナ
リ

哈爾濱ヨリ大臣、公使、北平、奉天、南京へ転電アリタシ
支、北平、奉天、哈爾濱、南京、齐齐哈尔へ転電セリ

前提ヲナスモノニシテ従来ノ公安局ヲ遼寧獨立軍ト改称シ
タルハ行々五族陸軍ヲ以テ之ニ代ラシムル為ナリト称シ当
地自治会完成後ハ更ニ撫順ニ赴キ同様手段ヲ執ルヘキ旨申
シ居レリ

尚松岡ハ部下トシテ邦人四名支那人四名ヲ同道シ来レルカ
右ハ何レモ張宗昌ニ属スルモノナル由

右ニ関シ当地守備隊側ニ於テハ松岡ヲ援助シ居レルカ関東
軍側カ果シテ松岡ノ夢想スルカ如キ五族獨立国建設ヲ企図
シ居ルヤモ疑問ナルニ付テハ本件対策ニ付何分ノ儀至急御
回訓相成度シ

支、北平、南京、奉天、長春、安東へ転電セリ

500 昭和6年10月10日 在鉄嶺(石塚領事代理より
幣原外務大臣宛(電報))

鉄嶺における自治会設立運動について

鉄嶺 10月10日前発
本省 10月11日後着

第六四号（暗）

往電第六二二号ニ関シ

松岡ハ自治委員長ニハ旧来ノ軍閥系ノ県長ヲ絶対ニ排除シ

499

昭和6年10月10日

在鉄嶺(石塚領事代理より
幣原外務大臣宛(電報))

松岡勝彦の鉄嶺における遼寧省自治会設立運
動について

鉄嶺 10月10日前発
本省 10月10日前着

第六二二号（暗）

松岡勝彦(元鉄嶺電燈局長現在大連郊外土地株式会社取締
役)ナルモノ関東軍司令官ノ諒解ノ下ニ石光中将ノ指示ヲ
受ケ来鉄セリト称シ午後三時単身当地県長ヲ訪問シ軍側ノ
命令ニ依リ鉄嶺ニ市政ヲ施行セントスルモノナルニ付穩便
ニ県政一切ヲ引渡サレ度シト強要シ県長ノ承諾ノ下ニ右引
渡シヲ了シ従来ノ県政府ニ遼寧省自治会ナル門牌ヲ掲ケ更
ニ公安局ヲ遼寧獨立軍ト改称シ委員長ニハ県長ヲ副委員長
ニ公安局長ヲ当テ其他委員ニ支那側有力者十一名ヲ任命シ
五名ノ日本人顧問ヲ置キ之ヲ監督セシムルコトトシタル趣
ナル処松岡ノ談ニ依レハ右遼寧省自治会ハ事件以来沿線各
地ニ設置セラレタル自治会トハ全然異ナリ満州ニ於ケル邦
人鮮人滿人蒙古人露国人ヲ打ッテ一丸トスル五族獨立国ノ

県長秘書ニシテ若年無經驗ナル林樹杖ヲ日本人顧問ニハ当
地宣教師末広栄二(松岡ノ親友トシテ本件計画ニハ最初ヨ
リ関係セル者ノ如シ)ヲ推サムトスル聞込アリ右林ヲ推ス
コトニ関シテハ支那側商会ニ於テ極力反対シタル趣聞キ及
ヒタルニ付八日夜本官ハ当地日本側有力者ヲ召集シ松岡ノ
自治会ニ付概略説明シタル上松岡カ林ヲ委員長ニ推挙セム
トスル動機ハ旧軍閥系ヲ忌避スル考ヨリ出テタルニセヨ過
渡期ノ行政ヲ処理スル上ニ於テ林ハ良ク支那側民心ヲ悦服
セシムル才幹アル者ニ非ス且顧問一名ニテハ各般ノ行政事
務ヲ処理スル能ハサル所以ヲ力説シ一同ノ賛意ヲ求メ当地
商工会議所山田副会長ヲシテ右ノ次第ヲ松岡ニ申込マシム
ルト共ニ松岡ヲ当館ニ招致シ事情ヲ聴取シタル処松岡モ讓
歩シテ委員長ニハ旧県長ヲ副委員長ニハ旧公安局長ヲ推ス
コトニ同意シ且顧問ニハ大体五名ヲ設置スル考ナル旨申添
ヘタリ

右ハ数日来当地有力居留民間ニ醞釀シツツアル地方自治委
員会ノ組織ト大体ニ於テ合致スルモノノ如クナルニ付本官
ニ於テハ此際黙認スルコトトシ唯松岡カ企図シツツアル五
族陸軍編成ニ付テハ当地治安ニ関係スル処鮮カラサルヘキ

ニ鑑ミ当地守備隊側及警察ト協力シ右阻止方ニ付善処スル考ナリ

尚松岡ハ支那側紅卍字会員及在礼ノ属スル民衆ヲ中堅トシテ五族独立国ヲ建設セムトスル企図アルコト前電ノ通ナル処十日奉天ヨリ紅卍字在礼所属員数十名来鉄右代表五、六名当館ヲ訪問シ（本官ハ右代表ニ面接セス）旧軍閥ノ倒壊ニ関シ祝意ヲ表スル旨ヲ述ヘ辞去セルカ右一団ハ自治会ニ押シ寄せ自派ヨリ二名ヲ推挙シ委員ニ割込マシメ引揚タリトノ趣ナルニ付成行敵視中

尚松岡ハ本日撫順ニ赴キタル由本電起草後入手セル自治会議決ノ自治会規定別電第六五号ノ通

支、北平、南京、奉天へ転電シ、長春、安東へ暗送セリ

501 昭和6年10月10日 在鉄嶺石塚領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

鉄嶺における遼寧省自治会の規定、綱領等について

鉄嶺 10月10日後発
本省 10月11日前着

第六五号（略）

(ロ) 県執行委員会ニ自治局及人民自治軍ヲ設ク
(ハ) 時々連合シ代表大会ヲ開ク

八、執行委員会ノ責務

(イ) 大会ノ決定原則ニ従ヒ生存権ニ関スル一切ノ任務ヲ行使ス
(ロ) 自治軍ノ統帥

(ハ) 臨時ニ行政、財政、司法、保安ノ政務ヲ代行ス

(ニ) 政界召集事務

九、県自治局

(イ) 県自治局ハ執行委員ニ隷属ス

(ロ) 県自治局ハ臨時県請願一切ノ事項ヲ執行ス

(ハ) 県自治局ノ組織執務規定ハ執行委員会之ヲ定ム

(ニ) 自治局ニ行政部財政部司法部教育部警察部総務部鑑査部ヲ置ク

支、北平、奉天、南京へ転電シ安東、長春へ暗送セリ

502 昭和6年10月10日 児玉朝鮮軍参謀長より
杉山陸軍次官宛（電報）

吉林省独立に対する局子街各界の反対について

人民自治会規定

一、精神、至大無外

二、目的、合理組織ヲ創設シ人類ノ為ニ公平安定ノ生活ヲ計ル

三、方針、人民本位ニ地域単位ヲ以テ自動的ニ人民自治（治）会ヲ各地ニ組織シ人民ノ生存権ヲ行使ス

四、綱領

(イ) 人民会ニ生存権及相互生存権ノ承認ヲ保有ス

(ロ) 信教、言論ノ自由及対人類全体ノ責任ヲ保護ス

(ハ) 人民、自治参政権ヲ保護ス

(ニ) 人民ニ対シ即日悪政府悪勢力関係ヲ断絶スヘシ

五、組織

(イ) 本会ハ設置地域内居住人民ヲ以テ組織ス

(ロ) 九人ヲ以テ一小組トシ小組長名ヲ此組ノ名トス

(ハ) 九小組ヲ以テ一中組トシ中組長名ヲ其組ノ名トス

(ニ) 九中組ヲ以テ一大組トシ大組長名ヲ其組ノ名トス

六、自治政綱、民国以来ノ軍事的制度ヲ廃止シ中国ノ伝統的家族的制度ヲ復興ス

七、(イ) 県自治会ニ執行委員ヲ置ク

10月10日後発
10月10日後着

朝参報二二二号（秘）

局子街ニ於テハ籌備処及県政府ハ吉林省独立ノ正式入電ニ依リ九月三十日要所ニ此旨揭示タル所、局子街所在農工商連合会ハ大ニ憤慨シ是親日派ノ策動ニシテ中国人ノ真ノ意志ニアラスト為シ直ニ通電ヲ発スルト共ニ一般学生ヲ煽動シ反対運動ヲ起スヘク画策シ居レリ

503 昭和6年10月12日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

ハルビンに吉林省正式政府設立計画に関する

張作相の談話について

ハルビン 10月12日後発
本省 10月12日後着

第三二六号（暗）

十日ノ当地漢字紙ハ九日天津通信中作相ノ談話トシテ現吉林省政府ハ全然日本ノ傀儡ナルニ付断シテ之ヲ認メス正式政府ヲ当分ノ間哈爾濱ニ設立スヘシト報シタルカ右ニ関シ于鏡濤ノ館員ニ洩セル処ニ依レハ作相ハ数日前密使ヲシテ

右計画ヲ張景恵ニ洩スト共ニ訓練官李振声ヲ三、四日前密ニ当地ニ派シ作相系軍隊ノ団結ヲ計ラシメ居リ他方王警察管理処長及周教育庁長徐電信局長増地敵局長（以上三人何レモ党部委員）ノ学良直系ハ種々苦肉ノ策ヲ以テ反張景恵ノ陰謀ヲ運シツツアリトノ事ナリ

公使、北平、奉天、広東へ転電セリ

504 昭和6年10月12日 在ハルビン大橋総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

丁超の中東鐵路護路軍総司令就任について

ハルビン 10月12日後発
本省 10月13日後着

第三二七号（暗）

丁超九日付北平張作相ヨリノ電命ニ依リ本十二日当地ニ於テ中東鐵路護路軍総司令ニ就任セル処斯クシテ今後当地ニ東三省政權樹立ノ氣運漸次醞釀スルモノト思料ス

支、北平、奉天、吉林、長春、齊齊哈爾、満州里へ転電セリ

505 昭和6年10月12日 在安東米沢領事より 幣原外務大臣宛（電報）

奉天 10月13日後発
本省 10月13日後着

第九五五号（暗、極秘）

確カナル情報ニ依レハ市政公署ニ於テハ同署経費捻出ノ目的ヲ以テ阿片専売並彩票發行ヲ企図シ軍司令部ニ稟請セル処司令部ヨリ右ニ異存ナキモ之カ実施ニ当ツテハ予メ其規定ヲ明示シ司令部ノ認可ヲ受クヘク又右規定ハ領事館及警察署等ニ通報スヘキ旨通牒アリタル趣ナルカ阿片専売及彩票發行カ一般国際関係其他ヨリ見テ面白カラサルハ勿論右ハ十月二日付機密第七八一号送付ノ軍側計画ノ一端ヲ実現セントスルモノト云フヘク旁本件ハ中央軍部ヲシテ出先ノ行動ヲ阻止セシムル様至急御取計ヒ煩度シ尚当地ノ機微ナル事情ニ顧ミ軍部ニ対シテハ本電報告アリタルコト並前記公信ノ次第ハ絶対ニ知ラシメサル様特ニ御留意ヲ請フ

507 昭和6年10月13日 ※在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

蒙古独立運動に関する情報について

奉天 10月13日後発
本省 10月14日前着

安東治安維持委員会の設置について

安東 10月12日後着
本省

第一六〇号（暗）

往電第一六〇号及往電第一五五号ニ関シ

治安維持委員会ハ愈表面的ニ活動ヲ開始スルコトナリ十日正式ニ之カ組織ヲ公表シタルカ本十二日王県長（委員長）以下委員全部（六名）本官ヲ来訪シ右成立ノ次第ヲ叙シ其目的ニ付事変以来県公署商埠水上公安局等ニ分属セル治安維持ノ責任ヲ統一シ専ラ經濟通商ノ方面ニ力ヲ注ギ商民ノ利益ヲ保持増進スルニアリト述ヘ一部ニ伝ヘラルルカ如キ政治的目的ハ毫モ存セサルニ付本官ニ於テ指導ト援助ヲ惜マサランコトヲ希望スト付言セリ

支、北平、奉天へ転電シ哈爾濱、吉林、長春、牛莊、遼陽、鉄嶺へ暗送セリ

506 昭和6年10月13日 在奉天林総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

奉天市政公署のアヘン専売並びに彩票發行に 関シ中央軍部より阻止について

第九六三号（暗）

鄭家屯発本官宛電報

郵第一六号

一、蒙古独立運動ニ関シテハ既報セル処蒙古人側ノ情報ニ依レハ大耕子ノ包統領ハ千五百名ノ蒙古人壯丁ヲ悉ク武装セシメ騎馬隊ト為シ外ニ二十五台ノ馬車ニ軍需品ヲ満載シ一兩日中ニ通遼ニ赴ク筈日本軍ヨリハ一万挺迄武器ノ供給ヲ受クル内約アリト包並ニ幹部ノ家族四十余名ハ九日奉天ニ出發シタリ

二、通遼へ復歸セントスル居留民ヲ便乗セシメタル我裝甲車ハ当地ニアル歩兵五十名ヲ以テ九日通遼ニ向ヒタ刻兵ハ引返シタルカ同行者ノ談ニ依レハ通遼ハ蒙古軍來襲ヲ惧レ全市殆ト門戸ヲ閉チ軍警ノ影ヲ止メス恐怖ノ態ナリト尚右出動ニ加ハリシ若干ノ工兵隊ハ通遼駅ニ於ケル四洮、打通線路ノ連絡点ヲ爆弾ニテ完全ニ破壊シタルカ右破壊作業ハ軍司令部參謀太田大尉指揮シタルモノナリト三、菊竹満鉄公所長ノ談ニ依レハ我軍ハ洮南ノ張海鵬ヲ孤立セシムル為長銃五千挺ヲ融通シタルカ張ハ更ニ軍資金二十万円ノ援助ヲ申出タリ満鉄ハ今回ノ事変ニ軍事機密

費三百万円位提供ノ噂アルニ付実現ノ上ハ軍ハ右資金ニ
テ画策スルナラント

大臣、公使、北平へ転電アリタシ

哈爾賓、吉林、長春、齊齊哈爾へ暗送セリ

508 昭和6年10月14日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

奉天四民維持会の解散について

奉天

本省 10月14日前着

第九五九号

往電第八七四号ノ事情ニ関シ四民維持会ハ九日限り解散セ
リ

509 昭和6年10月14日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛

奉天市政公所新章程草案送付について

公信第八四〇号(普通)

「奉天市政公所新章程草案」送付ノ件

奉天市政公所新章程草案御参考迄別紙ノ通送付ス

本信写送付先 在支公使

(別紙)
(布告文)

現在時局平靜ニシテ秩序恢復シ市内一切ノ行政ハ之カ急速
進行ヲ計ラサルヘカラス本市長ハ市民ノ福利ヲ増加センカ
為ニ玆ニ別ニ奉天市政暫行章程ヲ規定シ佈告ノ日ヨリ施行
ス民国十二年八月公布ノ旧奉天市暫行章程ハ直ニ之カ効力
ヲ喪失ス爾民衆ハ本市長愛護ノ意ヲ体シ各々生業ニ安ンシ
警擾スルコトナカレ商埠局長ハ本市長之ヲ兼任シ商埠行政
ニ関シテハ依然旧章ニ由リ毫モ變更セス從來市政公所並商
埠局管理事項ニシテ省長及其他官署ニ呈請弁理シタルモノ
ハ此後ハ全部本公所ニ於テ事ヲ弁理ス未タ周知ニ便セサル
ヲ恐レ玆ニ特ニ佈告ス

奉天市政章程

第一条 奉天行政区域ハ省城大東区及瀋海路トス

但シ時勢ノ要求ニ応シ市長ハ之ヲ拡張スルコトアルヘシ

第二条 市行政ノ範圍ハ左記各項ヲ包括ス

1、市財政及市公債ニ関スル事項

2、市有財産ノ管理及処分ニ関スル事項

3、道路、溝渠、橋梁ノ建築及其他土木工工程ニ関スル事項

4、公衆衛生及公共事業ニ関スル事項

5、戸口及選挙ニ関スル事項

6、教育風紀及慈善事業ニ関スル事項

7、交通、電気、瓦斯、水道及其他公共事業ニ関スル事
項

8、保安警備ニ関スル事項

9、本章程ニ規定ナキモ從來慣習ニ依リ行ヒ来タリタル
事項

10、市長ニ於テ必要ト認ムル事項

第三条 奉天市ニ次ノ職員ヲ置ク

市長 一名

坐辦 二名

市長ハ全市ノ行政事項ヲ総理シ坐辦ハ市長ヲ補助シ全市
ノ行政事項ヲ計画施行ス

第四条 市政公所内ニ臨時次ノ各課ヲ置ク

一、総務課

二、財務課

三、工程課

四、衛生課

五、教育課

六、事業課

七、建築課

八、審務課

第五条 各課ニ次ノ職員ヲ置ク

1、課長一名乃至二名

2、課員若干名

課長ハ其課ノ事務ヲ管掌シ職員ハ其課内ノ事務ヲ分掌ス
職員ハ市長之ヲ任命ス

第六条 前記ノ外本所ニ技師一名技士若干名ヲ置ク

技師及技士ハ市長之ヲ任命ス

第七条 総務課ノ管掌事務次ノ如シ

1、文書及印章ノ保管ニ関スル事項

2、規程ノ制定統計報告ノ処理及其他編集並翻訳ニ関ス
ル事項

3、人事ニ関スル事項

4、戸口調査ニ関スル事項

5、庶務ニ関スル事項

第八条 財務課ノ管掌事務次ノ如シ

- 1、市税ノ徴収ニ関スル事項
 - 2、市有財産ノ管理ニ関スル事項
 - 3、市公債ノ弁理ニ関スル事項
 - 4、省庫補助金ノ収入及経理ニ関スル事項
 - 5、予算及決算ニ関スル事項
 - 6、元財政庁ノ徴税事務
 - 7、其他市財務ニ関スル事項
- 第九条 工程課ノ管掌事務次ノ如シ
- 1、道路、橋梁、溝渠ノ建築及修理ニ関スル事項
 - 2、街路樹ノ植付ニ関スル事項
 - 3、測量製図ニ関スル事項
 - 4、公園及公共建築物ノ建設造営ニ関スル事項
 - 5、其他市ノ工程ニ関スル事項
- 第十条 建築課ノ管掌事務次ノ如シ
- 1、市街計画ニ関スル事項
 - 2、私設建築ノ取締ニ関スル事項
 - 3、測量製図ニ関スル事項
- 第十一条 衛生課ノ管掌事務次ノ如シ
- 1、街路及共同便所ノ掃除ニ関スル事項

- 2、公設市場、屠場、野菜市場、劇場、旅館、妓楼及飲食店営業ノ取締ニ関スル事項
 - 3、各戸ノ便所ニ関スル事項
 - 4、公園取締及街路樹ノ保護ニ関スル事項
 - 5、検疫所及各種伝染病院及公設病院ノ設立並ニ管理ニ関スル事項
 - 6、医師及薬種商ノ取締ニ関スル事項
 - 7、其他公衆衛生ニ関スル事項
- 第十二条 教育課ノ管掌事務次ノ如シ
- 1、市立学校ノ管理ニ関スル事項
 - 2、市内私立各学校ノ監督ニ関スル事項
 - 3、図書館閱報処及講演所ノ管理ニ関スル事項
 - 4、市民ノ風紀ノ維持並ニ不正営業ノ禁止ニ関スル事項
 - 5、各種劇場及公衆娯楽場ノ取締ニ関スル事項
 - 6、市立慈善事業ノ経営ニ関スル事項
 - 7、其他市教育ニ関スル事項
- 第十三条 事業課ノ管掌事務次ノ如シ
- 1、電気（電燈工廠）、電車、水道、瓦斯及其他公共事業経営ニ関スル事項

- 2、個人経営ニ係ル公共事業ノ回収及管理ニ関スル事項
 - 3、其他公共的ノ各種事業ニ関スル事項
- 第十四条 警務課ノ管掌事務次ノ如シ
- 1、定期刊行物及印刷物ノ取締ニ関スル事項
 - 2、許可営業ニ関スル事項
 - 3、自動車馬車人力車及河船ノ取締ニ関スル事項
 - 4、保安警備ニ関スル事項

510 昭和6年10月15日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

満鉄沿線各地における治安維持会の成立について

第九七五号

奉天 本省 10月15日後着

満鉄沿線各地ニハ当地ノ例ニ倣ヒ治安維持会等ノ名称ヲ用ユル自治団体簇出シ既ニ成立シ若ハ進行中ノモノニ撫順、本溪湖、安東、鉄嶺、四平街、開原、公主嶺、遼陽、大石橋、瓦房店等ニシテ其多クハ邦人関係シ顧問等ノ名義ヲ用ヒ軍側トノ連絡ニ当リ居ル趣ナリ

支、南京、天津、北平、青島、長春、哈爾賓、吉林へ転電セリ

511 昭和6年10月15日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天地方維持会の下に財政庁開設について

奉天

本省 10月15日後着

第九七九号（暗）

袁金鎧ノ談ニ依レハ官銀号及辺業銀行ノ開業並瀋海鐵路ノ開通ニ関連シ成ルヘク速ニ地方維持会管理ノ下ニ財政庁ヲ開キタキ希望ナルモ庁長ニ適任者ナキ為行悩ミ居レルカ適任者ヲ物色次第実現スヘシトノコトナリ

支、北平、南京、天津、在満州各領事へ転電セリ

512 昭和6年10月15日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

ハルビン地方における張作相派の東三省政權樹立策動と張景惠との関係について

ハルビン 本省 10月15日後着

第三四二号（暗、至急、極秘）
貴電第八一号ニ関シ

当地ニ東三省政權樹立ニ関スル策動ハ今尚当地ニ蟠踞シ学良ノ再起ニ望ヲ掛ケ居ル周教育庁長徐電話局長増地畝局長ノ党部排日家及王特区警察管理局長（何レモ学良直系）ノ画策ナルカ如ク彼等ハ時局当初逸早く右意見ヲ北平ニ打電シタルカ（軍部ニテ傍受シタル由）其後学良ハ東三省ノ時局收拾ヲ作相ニ依頼シ作相ハ密使又ハ電信ヲ以テ北滿各勢力ニ対シ時局ハ自分ニ於テ收拾スヘキニ付新政權ニハ従ハサル様訓令シ（張景惠側近者ノ談）所謂後方攪乱ヲ為シタル為由來作相派ニテ固メ居ル当地方軍人連及学良派ハ忽チ作相出馬可能ヲ信シ作相熱然旺盛トナリ張景惠迄カ右傾向ニ促サレテ作相ヲ担キ出サント努ムルニ至リ（景惠ノ本官ニ対スル口吻ニ依レハ元々同人ハ自ラ出馬ノ意ナク東三省ニ於テ偉大ナル潜勢力ヲ有シ且無二ノ親友タル作相ヲ推サントスル意向ヲ有シ居リタル様子）

洮南張海鵬ノ出足カ一時急ニ鈍リタルハ親分景惠ノ右意向カ反映シタルモノト察セラレ又作相ノ当地乗込ノ記事北平新聞ニ表ハレタルモノカ為ナリト思考ス然ルニ景惠ハ我軍

トモ我方カ錦州事件ニ付世界輿論ノ攻撃ヲ受ケ居ルニ鑑ミ再ヒ当地ノ安全ナルコトノ見込付ケハ更ニ此種運動擡頭スヘシト思考ス但張海鵬ノ齊齊哈爾ノ乗込ハ当地景惠ノ睨ミヲ強カラシムヘク更ニ作相ノ返答カ好都合ナラハ景惠ノ勢力モ定マルコトナルヘキモ最近ニハ蔣介石カ何事カ当地ニ働キ掛ケ居ルヤノ流説モアリ前途全ク見据付カサル状態ナリ

支、北平、奉天、南京、吉林、広東ニ転電セリ

513 昭和6年10月16日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛（電報）

姜全我の安東公安局長就任の内情について

安東 10月16日前発
本省 10月16日後着

第一六四号（暗）

往電第一六一号ニ関シ

姜全我ハ十四日奉天ヨリ帰來シ事実上釈放ノ身トナリ愈々公安局長ニ就任ノ腹ヲ定メタル模様ナル所右決意迄ノ経緯トシテ当地満電支店長ニ極秘トシテ内話セル所ニ依レハ同人ハ奉天ニ於テ軍司令官ニ対シ釈放ノ上ハ故郷ニ帰臥シタ

部ノ作相反対意向ヲ知りテカ最近密使ヲ作相ニ派シ北滿ニ於ケル貴下ノ軍隊ヲ自分ニ任セヨ然ラハ将来決シテ貴下ノ為ニ悪イ様ニハ計ラハサルヘシトノ趣旨ヲ伝ヘシメ其返事次第ニテハ前記学良派（即チ排日派）ヲ一挙ニ葬ラントスル底意ヲ有スルニ似タリ他方作相ノ密使ハ当地支那街ニ潜伏シ吉林政府樹立ノ準備ヲ進メ又前記学良派ハ景惠ノ奉天ニ於ケル日本トノ關係ニ付惡宣傳ヲ流布スルト同時ニ其打倒ヲ画策シ景惠ノ地位ハ頗ル不安定ナルカ数日前作相ハ其直系丁超ニ対シ從來自己ノ兼職シ居タル護路軍司令ノ要職ヲ譲リ

(3) 尤モ軍側ノ間ヒニ対シ丁ハ南京命令ナラハ兎ニ角權限ナキ作相ノ命故有効ナラサルニ依リ臨時代理スル積リナリト巧ミニ弁明シ居タル由）以テ自己ノ北滿ニ於ケル名代トシテノ地位ヲ策カント努メ居ル模様ナリ是等事実ヲ綜合スルニ作相軍ハ我軍ノ当地乗込ミ不可能ト見テ漸次自派ノ勢力ヲ結成シ準備完成ノ上ハ実力ナキ景惠ヲ押退ケ何トカシテ当地ニ政權ヲ樹立セント画策シ居ルハ想像ニ難カラサル処ナルモ最近錦州爆撃ノ報ニ怯ヘタル作相ノ密使ハ当地ニ新政府設立モ危險ナル旨北平ニ電報シタリトノ情報アリ然レ

キ旨申出其諒解ヲ得タルカ後刻袁金鎧ニ会见ノ際右ノ趣ヲ語リタルニ袁ハ自分ハ独立運動ニ参加シ居レリトテ新聞ニ書立テラレ逮捕令迄出タル關係上表面政治運動ニ無關係ナル旨声明シタルモ実ハ張海鵬湯玉麟トモ連繫シ宣統帝ヲ擁立スル東北帝国ノ建設ニ専念シ居ル次第ナルニ付貴下ハ安東日支官民ノ推挙アルヲ幸ヒ東遼道ノ主權ヲ把握スル目的ノ下ニ少クトモ寬甸、桓仁、鳳城、岫巖、莊河等ノ諸県ノ税捐局收入ヲ自己ノ手ニ納ムル事ニ日本軍部ノ諒解ヲ得ヘク差当リ之カ素地ヲ作ルカ為公安局長ニ就任スルコト然ルヘシトテ慫慂大イニ努メ姜ハ遂ニ其意ニ從フニ至リタルモノナル趣ナリ尚右ノ内情ハ未タ姜ヨリ軍部ニ洩ラシアラサル由

在支公使、北平、奉天、哈爾濱、吉林へ転電シ、長春、牛莊、遼陽、鉄嶺へ暗送セリ

514 昭和6年10月17日 ※在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

海電における于芷山の独立宣言に関する情報
について

奉天 10月17日後発

第一〇〇九号（暗）

海竜発本官宛電報第二〇号

本省 10月17日後着

北山城子出張所員ノ報告ニ依レハ十五日午後奉天ヨリ平佐大尉（コウチュウ）並ニ栗本筑紫野二邦人外大阪毎日、満州日報、大連新聞、電報通信社等ノ記者ヲ加ヘ一行七名市中ニ来リ于鎮守使ニ会見後平佐ヨリ出張所員ニ対シ鎮守使ハ一週間内ニ学良ニ代リ保安総司令ニ就任シ独立ヲ宣言スヘク且一兩日中ニ關朝璽ヨリ右正式憑憑ヲ行フ筈ナリト語レル趣ナリ尚同人等ノ言ニ依レハ近ク奉天、吉林両地間ニ於テ日本軍五百名位交替移動ヲ行フヘク其ノ際ハ何レモ吉海、瀋海線ニ依リ北山城子ニ下車シ同地ニ於テ示威行軍ヲ為ス趣ナル処茲ハ却テ地方ニ悪影響ヲ残スヤニ思考セラル尚前段ニ関シテハ更ニ内容報告スヘキモ不取敢吉林ヘ暗送セリ

外務大臣、支、長春ヘ転報セリ

515 昭和6年10月17日 ※在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

鄭家屯付近における蒙古軍の動静について

にっい

奉天 10月19日後発
本省 10月19日後着

第二〇四〇号（暗）

凌印清ハ東北民衆自衛軍総司令ノ肩書ヲ用ヒ張家父子二十年ノ暴政ト其非行ヲ発キ又蔣介石カ賊子学良ニ政權ヲ与ヘタル不法ヲ挙ケ今回ノ日華衝突ハ学良ノ責任ナレハ之ヲ嚴罰シ三千万民ノ艱苦ヲ救フヘキニ拘ラス蔣介石ハ事件ヲ國際連盟ニ訴ヘ目前ノ危急ヲ救フ意無ク天津ニ逃レテ大言壯話ス吾人ハ自衛自救ノ為賊ノ与類ヲ掃蕩シ民衆ニ不利ナル暴政ヲ除キ保郷安民ノ実ヲ挙クル旨ノ宣言布告等ヲ発シ十九日錦州方面ニ赴キタル趣ナルカ学良ノ罪ヲ数ヘタル宣言ハ当地方ニ於テ始メテ発見セラレタルモノナリ右凌ハ之迄何等実力ヲ有セス嘗テ南京政府等ヨリ東北宜撫使ノ空名ヲ受ケ馬賊等ニハ相当顔ヲ知ラレ居ル人物ニシテ今回ノ出馬ハ遼西方面ノ馬賊ヲ操縦シ錦州政府攻撃ヲ目論ミ居ルモノト認メラレ注意ニ値ス

517 昭和6年10月19日

在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

第一〇二〇号（暗）

鄭家屯発本官宛電報

郵第一九号

奉天 10月17日前発
本省 10月18日前着

鄭家屯付近ニ於テ編成ノ蒙古軍千五百ハ総指揮包善一之ヲ率ヒ十二日頃通遼ニ向ケ出發シ途中蒙匪二枝隊三百ト合流シ十四日早朝通遼攻撃ヲ開始シ一旦一部ノ部隊市内ニ入りタルモ同地ノ支那兵六百ニ難ナク逆襲撃セラレ殆ト戦鬪力ヲ失ヒタル趣ナリ蒙軍ハ烏合ノ衆匪賊ニモ類シ到底再起ノ望ナク鄭通線錢家店付近ノ橋梁ヲ破壊シ交通ヲ断チ将来地方ノ秩序ヲ紊スノミナルヲ以テ我軍側ニ於テハ曩ニ供給ノ武器未使用ノ分千五百挺ヲ然ルヘキ方法ニテ回収シ場合ニ依リテハ討伐ヲモ辞セサル意向ナリト云フ

大臣、支、北平、南京ニ転電アリタシ

哈爾賓、吉林、長春、齊齊哈爾、赤峰、張家口ニ暗送セリ

516 昭和6年10月19日 ※在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

東北民衆自衛軍総司令凌印清の反張学良宣言

ハルビン地方白系露人の動向について

ハルビン 10月19日後発
本省 10月20日前着

第三七三号（暗）

当地方白系露人ハ時局ノ推移ニ対シテハ深甚ノ注意ヲ払ヒ居リ殊ニ最近張海鵬ノ対黒竜江政權態度ノ強化スルヤ愈其母国復興運動具體化ノ為千載一遇ノ好機到来セリトナシ其主要人物間ニ於テハ種々暗中飛躍ノ模様ナルカ諜報ニ依レハ這般当地露人「フアシスト」党ヲ中心トスル親友会ナル秘密結社組織セラレ目下其団員ハ既ニ四千人ニ達シ在洮南「セミヨノフ」ノ許ニ代表ヲ派シ密接ナル連絡ヲ取り居ルモノノ如シ

尚從來当館屢報ノ如ク当地方露人間ニ於ケル「セ」ノ人望ハ地ニ落チ居タルカ矢張り「セ」カ出身ノ關係上蒙古「ハルハ」地方王公間ニ有スル勢力ニ鑑ミ万一「セ」ニシテ拳兵ノ曉ニハ旧来ノ行懸乃至感情問題ヲ抛棄シ彼ノ許ニ馳セ參セントノ意氣込アリ且「セ」ハ目下張海鵬トノ間ニ張ノ成功後ニ於ケル共同作業上ノ默契アルモノト信セラレ張軍ノ行動ニ対シ異常ナル期待ヲ囑スル者多シ

公使、北平、奉天、吉林、長春、満州里ニ転電セリ

518 昭和6年10月20日 在遼陽山崎領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

遼陽地方における東北民衆自衛軍の動向について

遼陽 10月20日後発
本省 10月21日前着

第三一号（暗、至急）

(1) 二十日午前九時半東北民衆自衛軍顧問安達隆成同軍特務員
奥村佳一同シタ宮崎藤助ノ三名ハ自衛軍参謀張大光自衛軍
司令部秘書張伯衡孟堯一ノ三名ヲ同伴シ奉天ヨリ当地ニ来
着直接遼陽県長ヲ往訪シ自衛軍ノ目的遂行上県長ニ対シ
(一) 遼陽城内支那電報局ヨリ支那各地方宛自衛軍ノ独立宣
言文ヲ通電スルコト

(二) 一行ノ携帯シ来レル印刷物（東北民衆自衛軍総司令布
告第一号及右布告ニ関連スル宣伝文）数百枚ヲ頒布スル
コト

(三) 現任遼陽公安局長ヲ罷免シ一行ノ同伴シタル孟堯一ヲ
公安局長ニ任命スルコト

面へ進出ノ計画ナルカ結局山海関外全部ヲ自衛軍ノ手ニ
収メ斯クテ名実トモニ威力アル東北新政権ノ樹立ヲ目的ト
ス

(2) 然ルニ安達一行ノ行動ニ関シ当地憲兵分隊ヨリ在奉天軍部
ニ急報シ其指揮ヲ仰キタル結果軍参謀部ヨリ憲兵分隊ニ対
シ一行ノ計画ニ係ル独立通電、布告文ノ頒布阻止方並ニ一
行日支人六名ヲ至急憲兵分隊ニ招致シ満鉄沿線ヨリ退去セ
シムヘキ旨電話内命シ越セル趣ヲ以テ憲兵分隊ニ於テハ今
朝来県政府ニ居据リ居リタル一行全部ヲ其予定計画未遂前
同隊ニ引上ケ一応ノ取調ヲ為シタル趣ナルカ午後五時ニ至
リ憲兵隊ヨリ当館ニ対シ今日中ニ一行全部ヲ遼陽ヨリ退去
セシムルコトニ取計フヘキ旨通報シ越セリ何レニセヨ満鉄
沿線ヲ離レ行動スルコトニ関シ軍部ト默契アルモノノ如シ
鞍山警察署ニ調査セシメタル結果本二十日午前中倉岡大尉
ノ外日本人七名ハ自衛軍総司令凌印清ヲ同伴シ千山ニ下車
シ馬車ニテ騰鑿堡ヘ向ヒタル趣ナルカ其際支那人約五十名
ヲ連行セル趣ニシテ又相当武器ヲ千山駅ニ荷下シシタル事
実ヲ突止メ得タリ不取敢
支ヨリ南京、上海ヘ転報ヲ請フ

以上三項ヲ要求シ居レル旨県政府ヨリ当館ニ電話内報アリ
同時ニ県長トシテハ事変発生以来地方ノ治安ニ関シ極力我
方トノ協力ノ下ニ今日迄何等ノ事故無ク経過シ来レル折柄
斯ル突然ノ要求ヲ其儘認容スルニ於テハ地方ノ治安上一大
変動ヲ来スヘキコトヲ憂慮シ当館ニ対シ之カ措置振リヲ問
合セ来リタルニ付和田書記生ヲ県政府ニ派シ安達ニ面談セ
シメタル結果安達ノ語レル要領左ノ通

現在満州各地域ハ自治機関統出ノ姿ナルモ何レモ支那人自
体ニ武力ヲ具備セサル為張学良ニ代ルヘキ鞏固ナル政權ノ
樹立困難ナルニ鑑ミ今般凌印清ナル者「東北民衆自衛軍総
司令」ニ就任シ独立軍ヲ組織シ差当リ海城縣騰鑿堡（当館
管内千山駅ノ西南方約二〇支里ノ地点）ニ総司令部ヲ創設
スルコトニ手配ヲ了シ数日前ヨリ奉天ニ於テ支那人三百余
名ヲ募集シ一昨日来密ニ騰鑿堡ニ集結セシメ尚小銃三百挺
ヲ軍部ヨリ借用シテ同地ニ送致シ自衛軍参謀長金相鑑ナル
者モ現ニ同地ニ出向居リ而シテ今後自衛軍ノ隊員ハ前記奉
天ニ於テ募集セル支那人ニ武装セシメタルモノヲ基礎トシ
テ且付近ノ馬賊並ニ敗殘兵中ノ帰順者ヲ以テ組織シタル上
溝帮子其他各地ニ於ケル張学良配下ノ軍隊ヲ撃破シ錦州方

北平ヨリ青島、濟南、天津ヘ転電ヲ請フ
支、北平、奉天、牛莊ヘ転電シ、安東、鉄嶺、長春、哈爾
賓、吉林、間島ヘ暗送セリ

519 昭和6年10月21日 在遼陽山崎領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

東北民衆自衛軍に対し関東軍より軍需品貸与の情報について

遼陽 10月21日後発
本省 10月21日後着

第三二号（暗）

往電第三一号ニ関シ

(一) 安達一行六名ハ従者五同伴二十日午後七時当地発汽車
ニテ離遼千山ニ向ヘリ同地ヨリ目的地騰鑿堡ニ赴キ先発
隊ニ加ハリ軍部ノ默契ノ下ニ予定ノ行動ヲ開始スルモノ
ノ如ク尚自衛軍中相当多数ノ日本人カ関係シ指導の立場
ニ在ルコト既電ノ通

(二) 二十日午前四時奉天ヨリ軍需品ヲ搭載セル貨車一輛千
山駅ニ到着シ同駅長ハ軍ノ機密ナリトテ厳秘ニ付シ居リ
タルカ鞍山警察署ニ内偵セシメタル結果右ハ軍部ヨリ自

衛軍ニ貸与セルモノニシテ小銃三百挺ノ外機関銃若干挺
同彈藥其他ノ軍需（品ナルコト）判明セリ
公使ヨリ上海、南京へ転報アリタシ
北平ヨリ天津、濟南、青島へ転電アリタシ
支、北平、奉天、牛莊へ転電シ安東、鉄嶺、長春、哈爾
賓、吉林、間島へ暗送セリ

520 昭和6年10月22日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

治安維持会その他袁金鎧の時局に関する内話
について

奉天 10月22日後発
本省 10月23日前着

第一〇八二号（暗、部外極秘）

袁金鎧⁽¹⁾二十二日本官ヲ来訪シ腹藏ナク自分ノ意見並ニ態度
ニ付御話致シタシト前提シテ左ノ通内話セリ
事變ニ依リ張学良系ノ各要人ハ全部逃亡シ各官庁モ日本軍
ニ占領セラレ奉天城内匪賊出没人心恟々タリ依リテ臧式毅
ト共ニ治安恢復ニ関シ協議中偶々臧ハ日本軍ノ為ニ軟禁セ
ラレ自分一人取残サレタリ当時自分ハ大連又ハ北平方面ニ

相第三臧式毅ヲ呼ヒ戻シ新政權ヲ樹立セシムルコト最モ穩
当ト考フルモ日本軍部ノ意向ハ張学良系ノ人物ハ全部排斥
セラルルカ如キヲ以テ更ニ別人ヲ推戴スルノ外無カルヘキ
モ宣統帝擁立運動ノ如キハ結局日本軍カ実力ヲ以テ満州ヲ
第二ノ朝鮮ト為ストノ非難ヲ免レサルヘキヲ以テ宣統帝ニ
於テモ輕率ニ出馬セサルヘシ兎ニ角自分トシテハ出来得ル
限りハ日本軍ノ為ニ努力スヘキモ出来得サルコトハ之ヲ拒
絶スルノ外ナシ云々

本電軍部ニ対シ極秘取扱方特ニ御配慮ヲ請フ

521 昭和6年10月22日 在局子街田中分館主任より
幣原外務大臣宛（電報）

局子街地方各機關の時局に対する態度につ
いて

局子街 10月22日後発
本省 10月22日後着

第三〇号（暗）

貴地林省長帰還後ハ十月十五日付ヲ以テ当地各機關ニ対シ
省政府改組及長官就任ニ依リ釈明的訓令ヲ与ヘ十九日鎮守
使、籌備処長、県長等文武官首脳部会合新政府ニ対スル態

避難センカト考ヘタルモ自分カ去ルニ於テハ閱歷ニ於テ中
心トナルヘキ人物ナク人民塗炭ノ苦ミヲ受クルヲ惧レタル
ヲ以テ全ク犠牲的精神ニ於テ日本軍部ニ推サレテ治安維持
会ヲ主宰スル事トナレルカ當時金融維持ノ為官銀号及辺業
銀行開店ノ急務ヲ認メ軍部ニ請願シタルニ幸ニ許可セラレ
タルモ右ニ対シ忍フヘカラサル条件特ニ多数ノ日本人顧問
及諮議ノ参加ヲ強ヒラレタリ次テ財政庁ノ復活ハ徵稅方法
上已ムヲ得サルモノトスルモ實際上差当リ何等必要ナキ実
業庁迄回復ヲ強ヒラレタルノミナラス昨⁽²⁾今日日本軍ニ於テハ
治安維持会ヲ實際上ノ新政權ト認メ民政庁教育庁ノ如キモ
ノ迄復活ヲ要求シ殊ニ甚シキハ遼寧省内各県ヲ自治政府ニ
改変シ更ニ在滿支那各鉄道管理ノ為交通委員會ノ組織ヲモ
命セントシタルカ自分ノ主宰スル地方維持会ハ要スルニ奉
天城ノ治安維持ノ為設ケラレタル臨時ノ施設ニシテ決シテ
独立ヲ宣言シ又ハ新政權ヲ樹立シタルモノニアラサルヲ以
テ全省ニ亘ル行政乃至東北四省及河北省ニ關係アル交通委
員会ノ組織ヲ強ヒラルルカ如キハ到底承諾シ得サル処ナリ
然ルニ卑見ニ依レハ実力的ニ満州全体ヲ占領セラルレハ已
ムヲ得ストシ然ラサレハ新政權ニ関シ第一張学良第二張作

度協議ノ結果大勢上新政府ノ命令ニ服従スルモ精神的ニハ
依然中央政府ニ信頼シ國際連盟ノ採決ト形勢ノ推移ヲ靜待
スル事ト為レル趣ナリ
間島、奉天、吉林、百草溝、頭道溝、琿春へ転電セリ

522 昭和6年10月22日 三宅閣東軍參謀長より
杉山陸軍次官宛（電報）

奉天市長趙欣伯以下の新陣容について

10月22日後発
10月22日後着

関電第八一九号（秘）

奉天市制概ネ整頓人心平穩トナレルヲ以テ二十日市長以下
日本人ノ職員ヲ廃シ支那人ヲ以テ之ニ代ラシメタリ新職員
重要ナルモノ次ノ如シ
市長 趙欣伯、総務課長 陳敏、財務課長 高葆善、交際
課長 謝昶鑑、衛生課長 劉国増、顧問 中野琥逸、諮議
大迫幸男、後藤秀男

523 昭和6年10月23日 三宅閣東軍參謀長より
杉山陸軍次官宛（電報）

奉天地方維持会の遼寧省行政機構復活について

て

関参第八一五号^(注)（秘）

10月23日後発
10月23日後着

奉天地方維持大会ハ公共ノ秩序恢復ノ為メ差向キ必要ナル
遼寧省行政機関ヲ復活セシムル事トシ十月十九日財政庁
（長翁恩裕）同二十一日実業庁（長高鯨衡）法院（長趙欣
伯）ヲ夫々開設セリ

（編注） 本号電報は前文書よりも発電番号が若い、発電日付
は一日遅れとなっている。

524

昭和6年10月28日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

ハルビンにおける張作相一派の吉林政府設置
計画に関する情報について

ハルビン 10月28日前発
本省 10月28日後着

第三三三二号（暗）^(四三三カ)

于鏡濤及護路軍司令部員ヨリノ確報ニ依レハ李振声ヲ首脳
トスル当地潜伏中ノ張作相派ハ予テヨリ当地ニ吉林政府設

置ノ策動中錦州爆撃ノ為一時氣勢ヲ挫カレタルカ最近四週
ノ情勢彼等ニ有利トナリタル為俄然積極的トナリ印鑑等モ
用意シ二十六日正式ニ設置センコトヲ張景惠ニ要求セルモ
張ヨリ一蹴セラレ頓挫ヲ来セル趣ナリ尚齊齊哈爾方面ノ情
勢如何ニ依リテハ此種運動ハ今後旺トナルヘシト思考ス
支、北平、奉天、吉林、広東ヘ転電セリ

525

昭和6年10月28日 幣原外務大臣より
在パリ沢田事務局長、在米田出淵大使
宛（電報）

東北各地の政情について

本省 10月28日後発

暗合第一二〇三号

往電合第七〇四号ニ関シ

其ノ後ノ東北政情ヲ概観スルニ

一、我軍勢力下ニ於テハ新政權樹立ノ陰謀ヲ嚴禁シ居ル為
一時喧伝セラレタル宣統帝復辟或ハ共和国建設等ノ策動
モ次第ニ勢力失ヒ居リ目下奉天ヲ始メ南滿鐵道沿線各都
市（撫順、鉄嶺、本溪湖、安東、四平街、開原、公主嶺、

遼陽、大石橋、瓦房店）等ニハ自治的治安維持機関ノ簇
立ヲ見漸次成績ヲ上ケツツアリ殊ニ奉天ニ於テハ地方維
持委員会ノ下ニ財政庁（十月十七日開庁）実業庁（二十
一日開庁）ヲ設ケ又近ク臨時交通委員会組織ノ予定ナル
由（奉天市政公署モ二十日支那人市長趙欣伯就任シ土肥
原市長以下日本人職員全部辭職セリ）尚奉天以東瀋海鉄
道一帯ニ勢力ヲ有スル東遼鎮守使于芷山（海竜駐在）ハ
十七日山城鎮（Shan-cheng-chen）保安委員会ヲ組織シ
東遼道一帯ノ治安維持ニ任シツツアリ

二、吉林省ニ於テハ熙洽ノ臨時省政府ニ対シ張作相部下ノ
殘党殊ニ五常（Wu-chang）方面ノ張作舟（張作相ノ義
弟）等ハ作相等ト連絡ヲ取り反抗ノ氣勢ヲ示シツツアリ
シカ最近省政府ノ基礎安定ニ伴ヒ之等殘党モ漸次帰順ノ
模様ニテ今後左シテ政情動揺ヲ見ルコトナカルヘシト観
測セラル尤モ右省政府ハ暫行的自治機関ニ過キスシテ世
上或ハ熙洽等カ東北四省ノ独立乃至ハ宣統帝ノ擁立ニ関
係アルヤニ伝フルモノアルモ事実ニ非サルカ如シ

三、北滿地方ノ政情ハ最近著シク動揺ノ徴アリ即チ北滿ノ
中心哈爾賓ニ於テハ曩ニ治安維持会ヲ組織シタル張景惠

ニ対シ張作相旧部下ノ策動アルヤニテ張景惠ハ実力乏シ
ク相当苦シキ立場ニ立チ居ルモノノ如ク一方黒竜江省ニ
於テハ十月一日洮南ニ独立ヲ宣言セル張海鵬（洮遼鎮守
使）カ折柄同省政府主席万福麟ノ不在ニ乗シ省都齊齊哈
爾ニ向テ兵ヲ進メタルニ対シ万福麟（在北平）ハ黒河
（Hei-ho）警備司令馬占山ヲ江省臨時主席代理ニ任命
（十二日）シテ之ニ對抗セシメツツアリ右黒竜江省政權
カ何レニ帰属スルヤハ直チニ哈爾賓ノ張景惠（張海鵬ト
密接ナル関係アリ）ノ地位ニモ反響スヘク殊ニ馬占山側
ノ背後ニハ蘇連邦ノ手モ延ヒ居ルヤノ疑アリ同邦ノ東支
鐵道対策トモ関連シ今後北滿一帯ノ形勢特ニ注意ヲ要ス
ヘキモノアリ

四、一方張学良ハ依然錦州ノ遼寧省政府ヲ維持シツツアル
処（十月八日我軍飛行機ノ錦州爆撃事件後一時省政府ノ
山海関移転ヲ伝ヘラレタルコトアルモ右ハ事実ニ非ス尚
ホ北寧線一帯ニ於ケル敗殘兵及馬賊便衣隊ノ活躍ハ同政
府ノ使職スル所ナルカ如シ）最近張学良ノ政治的地位著
シク動揺シ居ルハ往電合第一、二〇二号ノ（三）ノ通りナリ
尚東北一般人民カ張家ノ虐政ヲ憾ミ学良等ノ帰還ヲ喜ハ

サルハ事実ナルカ如シ

（連盟事務局長宛電報末尾ニハ「在欧各大公使ニ転報アリ度」ト付記ノコト）

（米宛電報末尾ニハ「紐育、桑港、市俄古ニ転報アリ度」ト付記ノコト）

526 昭和6年10月29日 在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

復辟運動の中心人物に関する情報について

北平 10月29日後発
本省 10月30日前着

第五九六号（暗）

往電第五九四号ニ関シ

二十九日吉世安カ原田ニ為セル内話

一、復辟運動ノ中心人物ハ湯玉麟、張作相、榮源、羅振玉、凌印清ノ五人ニテ目下秘密裡ニ閻馮韓等ノ引込運動ニ從事中ナリ

二、凌印清ハ有力ナル満州馬賊ノ大頭目ニテ嘗テ張作霖ニ反対シ張ノ爆死ニ際シ首謀者ハ自分ナリト声明シ引続キ蔣介石及学良ニ反対シ来レル人物ナリ凌ハ今回本庄司令

兵ノ際ノ例ニ倣ヒ外務省側ヨリ政治部長ヲ任命シテ軍ニ属

セシメ軍ト外務省側殊ニ在満公館トノ連絡ヲ円満ナラシムルト共ニ現在ノ如ク軍部統制ノ結果ヨリ生スル幾多ノ矛盾ト無理ヲ匡正スルノ途ヲ講スルコト極メテ必要ト存セラルルニ付右至急御考究アランコトヲ希望ス尚本件政治部長任命案ニ付テハ二十九日軍司令官ト会見ノ際本官ヨリ其必要ヲ説明セル処同司令官ニ於テモ之ニ同感ナル旨述ヘ居タリ

528 昭和6年11月1日 在天津桑島（主計）総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

満州問題善後措置に関し東三省民衆代表、安

福派らの策動について

天津 11月1日後発
本省 11月2日前着

電信第四五七号（暗）

姚震ノ館員ニ対スル内話ニ依レハ満州問題善後措置ニ関シ数日前東三省民衆代表トシテ劉恩格、郇克莊、劉振生、何果忠、趙沈、金鼎勲来津安福派ト密議ノ上別電第四五八号東三省地方自治法案ヲ含ム左記数項ヲ協定シ三十一日発大連經由奉天ニ向ヘリ

官ニ対シ宣統帝擁立ノ承認ト之カ費用ヲ要求セル処同司令官ハ金一万円ヲ投出セル放凌ハ其少額ニ承服セス遂ニ同司令官ヲシテ奉天監獄入監中ノ凌ノ部下頭目四名ヲ釈放セシメ次イテ凌ハ四名ヲシテ数日中ニ五十萬元ヲ調達セシメ之ヲ差当リノ運動費トシテ入関シ来レル次第ナリ

（部外極秘）

支、南京、広東、奉天、哈爾賓、天津ヘ転電セリ

527 昭和6年10月29日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

滿蒙諸機關統一案および関東軍に政治部長

設置について

奉天 10月29日後発
本省 10月29日後着

第一一三七号（部外極秘）

往電第一一〇八号稟申ノ滿蒙諸機關統一制度案乃至「ハイコンミッショナー」設置案ハ現下当方面ノ事態ニ鑑ミ一日モ早ク実現セラレンコト切望ニ堪ヘサル次第ナルカ若シ右両案共ニ手間取ル虞アルニ於テハ差当リ往（年）西比利亞出

（一）先ツ学良ノ討征通電ヲ発スルコト

（二）南京政府ヨリ一時離脱シ法治ヲ勵行スル五種共和政府ノ回復ヲ図ルコト

（三）中央政府元首ハ国家ニ功勞アリ内外ニ対シ信望顯著ナル元老ヲ推挙シ担任セシムルコト（段祺瑞ヲ指ス）

（四）右過渡期間ニ於ケル東北ノ統治ハ別電第四五八号ノ機關ニ依ルコト

尚右代表ハ本庄司令官等日本督弁ノ了解ヲ得テ実行ニ移ル意向ナル由御参考迄（当分発表見合セアリタシ）

本電別電ト共ニ公使、奉天、北平ヘ転電セリ

529 昭和6年11月2日 在局子街田中分館主任より
幣原外務大臣宛（電報）

局子街張籌備処長の事務引継ぎについて

局子街 11月2日後発
本省 11月2日後着

第三三三号（暗）

張籌備処長ハ其後形勢觀望中ナリシカ新政府ノ再三ノ督促ヲ受ケ一方四囲ノ状況自己ニ不利ナラントスルニ鑑ミ二十八日遂ニ事務ヲ啓彬ニ引継ギ本二日吉林ニ赴クト称シ出発

セリ（一説ニハ旧政府支持ノ為哈爾濱へ赴クモノトモ伝ヘラル）右ニテ延辺ニ於ケル新政権ニ依ル更迭実現ヲ見タル訳ナルカ目下ノ処之カ為当地方ニ別段ノ変化ヲ来スカ如キコト無キ模様ナリ尚啓彬ハ後任県長ノ着任ヲ待テ籌備処長専任トナル筈

吉林、奉天、間島、琿春、頭道溝、百草溝へ転電セリ

530 昭和6年11月4日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

関東軍に「政治部長」設置について

奉天 11月4日後発
本省 11月4日後着

第一一八七号（部外極秘）

往電第一一三七号関東軍ニ政治部長任命方ノ件ニ関シテハ目下折角御研究中ノコトト察セラルル処右実現ノ場合ニハ部長ノ権限ニ付予メ中央軍部トノ間ニ明確ナル了解ヲ定メ置クヘキハ勿論関東軍側ニ対シテモ中央軍部ヨリ予メ充分之ヲ徹底セシメ置クニアラスンハ後日種々ノ面倒ヲ生シ政治部長設置ノ趣旨ヲ貫徹シ難キニ至ルヘク又右権限トシテハ外国人関係ノ事項ハ一切政治部長ヲ通スルコトトスルト

532 昭和6年11月4日 在遼陽山崎領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

凌印清東北民衆自衛軍の壊滅状況について

遼陽 11月4日前発
本省 11月4日後着

第四二号（至急）

往電第三七号ニ関シ

東北民衆自衛軍ノ壊滅状況ニ関シ鞍山警察署ヨリ現地方面ニ密派セル邦人窪野ノ報告要領左ノ通り

(一)自衛軍幹部以下約三百名（日本人倉岡予備砲兵大尉、安達隆盛、大村真琴、奥村、松本、内田、尾形兄弟、増田、亀田、実崎、内川与作外三名ヲ含ム）ハ十月二十九日コーダテン出發三十日三道溝子ニ宿営同地ニテ約百名ノ馬賊ヲ招撫シタル上同夜砂嶺盤山間ノ電線ヲ切断シ翌日盤山ヲ經テ溝帮子ニ進出ノ予定ニテ一先ツ三道溝子ニ引揚ケタルカ三十一日未明予テ招撫セル馬賊並ニ同地方ニ蟠踞セル大馬賊団ノ襲撃ヲ受ケ凌印清及倉岡大尉ハ賊団ニ捕縛セラレ他ノ邦人十四名ハ悉ク虐殺セラレ武器全部（長銃二百挺機関銃六挺拳銃三千挺実弾十一万発何レ

共ニ関東軍所屬將校其他ニシテ此種事項ヲ取扱フ者ハ全部政治部ニ属セシムヘキ旨ヲ定ムルコト肝要ナリト存セラル

531 昭和6年11月4日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天治安維持会を省政府に改組について

奉天 11月4日後発
本省 11月4日後着

第一一九一号（暗、極秘）

過般関東軍司令部ニ於テハ袁金鎧ニ対シ治安維持会ヲ省政府ニ改組方命令シタル趣ナルカ袁ハ世間ノ思惑ト自己ノ立場ニ顧ミ決心ヲ鈍リ居リタルモ軍部ヨリ矢ノ催促ヲ受ケ此ノ上躊躇スル能ハサル破目ニ陥リ昨今各委員ト協議ノ結果追テ新政権成立ニ至ル迄ノ応急弁法トシテ地方維持会ノ名ニ於テ省政府ノ職務ヲ代行スルコトトシ其旨両三日中声明書ヲ発スル手筈トナレル趣ナリ

訂正通知

四日奉天來電第一一九一号転電先ヘ左ノ通追加方申越セリ支、北平ヘ転電シ在滿各領事ヘ暗送セリ

モ奉天兵工廠製）ヲ奪取サレ自衛軍ハ壊滅スルニ至レリ
(二)邦人虐殺模様

凌総司令及倉岡大尉捕縛セラルルヤ凌ハ部下ニ対シ無抵抗ニテ武器引渡方ヲ命シタルカ當時内川与作ハ拳銃ヲ以テ抵抗セル為射殺サレ捕縛セラレタル他ノ邦人八名ハ遼河河畔ニ連行サレ其内一名カ河中ニ投セララルルヤ他ノ七名ハ自ラ投身浮ヒ上リタル処ヲ悉ク射殺セラレタリ機関銃隊付タリシ松本、増田、両名ハ機関銃ヲ携帯逃走セントスルヲ騎馬隊ニ追撃射殺セラレ安達ハ頭部ニ銃創ヲ受ケ内田其他二名ハ生死不明ナルモ全部惨殺サレタルモノ如シ

公使ヨリ上海、南京ヘ転報アリタシ
北平ヨリ天津、濟南、青島ニ転電アリタシ
公使、北平、奉天、牛莊ニ転電シ鉄嶺、長春、哈爾濱、吉林、安東、間島ヘ暗送セリ

533 昭和6年11月4日 塚本関東長官より
幣原外務大臣宛（電報）

張宗昌と広東政府陳中孚との提携に関する情

報について

旅順 11月4日後発
本省 11月5日前着

第一二六号(暗)

本官発天津宛電報

第一六号

往電第一五号ニ関シ

当地在住黄錫齡(張宗昌ノ外交係)ノ当庁中島翻訳官ニ語ル処左ノ如シ

張宗昌ノ天津行ニ付外部ニ於テハ張學良ト關係アルカ如キ噂アルモ全然事実ニ非ス即チ從來張宗昌ト懇意ノ間柄ナル廣東政府ノ代表陳中孚カ過般大連滞在中両者ノ間ニ陳ハ廣東ノ政治代表トシテ張ハ同シク軍事代表トシテ両者提携シテ満州ニ活動ノ約束成立セルカ最近中央広東政府ノ講和談判決裂セルヲ機トシ陳中孚ヨリ張宗昌ニ対シ予テノ約束実行ノ為天津ニ落合ヒ打合せタシトノ密電ニ接シ玆ニ赴津シタルモノニシテ陳中孚モ一昨日天津ニ向ヒ上海ヲ出発シタル筈ナリ而シテ張陳会见ノ上ハ予テ懇意ナル広東派ノ巨頭唐紹儀及陳ノ執成シニ依リ張ハ広東政府ヨリ東北陸海空軍

第 号

当地地方維持会ハ五日付布告ヲ以テ目下ノ過渡期ニ当リ一時省政府ノ職權ヲ代行スル旨発表シ同時ニ右軍司令官ニ通知スルコトトセリ

布告内容略々左ノ通

事変以来政權^(つぎ)停斷シタルヲ以テ本会出テ治安ヲ維持セルモ既往並ニ将来ヲ管セサルコト既ニ声明セル通りナリ然ルニ今又此過渡期間ニ当リ全省ノ政令ヲシテ旧ニ照シ施行シ以テ人心ヲ安シシ法規ヲ尊重セシムル為一時政權ヲ代行スルコトトナレリ右布告ス

支、北平ニ転電シ在滿各領事ニ暗送セリ

535 昭和6年11月5日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

謝介石の吉林省政府交渉署長就任について

吉林 11月5日前発
本省 11月5日後着

第一二二号(暗)

数日前ヨリ来吉中ナル謝介石ハ四日本官ヲ来訪シ自分ハ知友ノ見舞旁来吉セル処旧知ノ熙洽ヨリノ懇望黙シ難ク今回

総司令ニ任命セラルル筈ニシテ右辞令受領其他打合ノ為多分天津ヨリ更ニ上海ニ密行スルコトナルヘシ又張カ広東政府ノ辞令ヲ必要トシタルハ若シ単独ニテ拳兵スル時ハ一般支那人ヨリハ日本側ノ走狗ト看做サレ売国奴ノ汚名ヲ蒙ルヘク又列国ヨリハ日本ノ満州独立干渉ナリト疑ハレ日本ニ迷惑ヲ掛クル虞アリ之ヲ避クル為ナリ右広東政府ノ辞令受領後ハ直ニ満州ニ引返シ目下營口付近ニ於テ約五千ノ兵ヲ率イテ独立ヲ宣言セル王殿忠軍ヲ基本部隊トシテ更ニ満州各地ニ散在セル旧部下ヲ糾合シ独立運動ヲ開始スル筈ナリ云々

大臣、支、北平、奉天、青島、濟南へ転電セリ

534 昭和6年11月(5)日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

奉天治安維持会の省政府代行に関する布告について

奉天
本省 11月5日後着

第一一九五号(暗)
(五三二文書)
往電第一一九一号ニ関シ

吉林省政府交渉署署長ニ就任スルコトナレリ今後宜シク願フ旨挨拶シ右交渉署ハ吉林省ノ交渉機關トシテ設置シタルモノニシテ省政府ハ特派員ヲ否認シ之トノ關係ヲ絶チタリト述ヘタリ復辟ノコトニ付テハ深く語ラス熙モ復辟ニハ反対ニ非ス出来レハ結構ナリトノ意見ナル旨語レリ
謝ノ就任ハ軍ヨリ熙ニ懇懇セル結果ナルモノノ如シ尚同人ハ四五日中ニ奉天經由一旦天津ニ歸リ再来スル趣
奉天ヨリ哈爾濱へ転電アリタシ
奉天、長春、間島、鄭家屯、天津、南京、支へ転電セリ

536 昭和6年11月5日 在遼陽山崎領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

海城県付近の馬賊討伐のため独立守備隊の出動について

遼陽 11月5日後発
本省 11月6日後着

第四四号(暗、至急)

往電第四二二号ニ関シ
(五三二文書)

(一)凌印清ヲ撃滅セル馬賊ノ大集団ハ海城縣溝帮子付近ニ於テ益々暴威ヲ振フニ至リ四日之カ討伐ノ為海城縣公安局

長ハ公安隊員七百名ヲ率ヒ同地方ニ出向キタルモ慘敗ノ結果公安隊長ハ負傷シ多数ノ死傷者ヲ出シタル外部下ノ内百二十名ハ武装ヲ解除セラレ辛フシテ退却シタルカ之ニ勢ヲ得タル賊団ハ黄沙坨ヲ占領シ穆家套ヲ得テ遼陽県劉二堡方面ニ進出更ニ満鉄沿線ニ襲来セントスル氣勢ヲ示スニ至リ之カ為昨四日以来海城県方面ヨリ避難シ来ル者続出ノ有様ニテ事態急迫セルヲ

(二) 森守備隊司令官ヨリ大石橋独立守備隊第三大隊ニ対シ其主力ヲ以テ五日夜中ニ出動シ黄沙坨方面賊団ヲ撃滅スヘシトノ命令アリタル趣ヲ以テ同大隊ハ五日夜十時迄ニ湯崗子ニ集結シ十二時同地発目的地ニ向ヒ進発ノ手筈ニテ又現ニ鞍山ニ分遣中ノ同大隊所属東海林中隊モ本隊ニ合スル為五日夜十一時鞍山出發六日早晩黄沙坨付近ニ於テ本隊ト合シ賊団ノ本拠ヲ突ク計画ノ趣ナリ

(三) 尚閑東軍司令部ヨリ湯崗子駅長ニ対シ六日午前四時迄ニ奉天ヨリ兵九百名馬匹百頭ヲ同駅ニ輸送スルニ付手配方内命アリタル趣ナルカ本部隊モ湯崗子着後直ニ先発ノ第三大隊応援ノ為黄沙坨方面ニ出動ノ趣ナル由而シテ(四) 鞍山ハ東海林中隊出動ノ為之カ補充ノ為五日後七時遼

陽ヨリ佐々木中隊兵員百名(往電第三八号参照)ヲ率ヒ鞍山ニ出動同地ノ警備ニ着ク事トナレリ
支ヨリ上海、南京へ転報アリタシ
北平ヨリ天津、濟南、青島へ転電アリタシ
支、北平、奉天、牛莊へ転電セリ
鉄嶺、長春、哈爾濱、吉林、安東、間島へ暗送セリ

537 昭和6年11月6日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

奉天治安維持会の省政府代行布告に關し軍司令部の強硬命令について

奉天 11月6日後発
本省 11月7日前着

第一二二二号(暗、部外極秘)
往電第一一九五号ニ関シ

五日維持会側ヨリ軍司令部ノ同意ヲ求メタルニ対シ軍司令部ニ於テハ右布告中ニ張學良ノ旧政權及國民政府トノ關係ヲ断絶スル旨ヲ追加記入スル様命令シタル為維持会ニ於テハ一時布告ノ發表ヲ見合セ更ニ各委員ニ財政厅长実業厅长官銀号総弁等ヲ加ヘ討論審議中ナルカ學良トノ關係断絶ヲ

明記スルコトハ別段差支ヘナキモ満州事件カ内外ノ大問題トナリ居ル今日地方維持会カ國民政府トノ關係断絶ヲ声明スルカ如キハ關係者一同ニ於テ國民ヨリ売国奴ノ譏リヲ免カレストノ議論多ク袁金鎧及于冲漢等有力者ハ板挟ミノ苦境ニ陥レル趣ナリ
支、北平、在滿各領事へ転電セリ

538 昭和6年11月6日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

奉天地方維持会の省政府代行布告その他日本軍の方針に關する于冲漢の疑義表明について

奉天 11月6日後発
本省 11月6日後着

第一二二二号(暗、部外極秘)
往電第一二二二二号ニ関シ

地方維持会及軍司令部間韓旋調停ノ為遼陽ヨリ来奉セル于冲漢ハ六日往訪ノ館員ニ対シ左ノ通内話シ且右ハ極秘ヲ要スルニ付軍部其他ニ洩レサル様特ニ依頼セル趣ナリ
地方維持会政權代行ノ布告ニ関シ學良トノ關係断絶ヲ記入スルコトハ差支ナキモ國民政府トノ關係断絶聲明ノ件ハ地

方維持会トシテ最苦痛トスル処ナルノミナラス日本側ニ於テモ此際無理押シニ内政ニ干渉シテ満州ヲ中央ヨリ独立セシムルカ如キハ國際連盟等ニ対シテモ不利益ナルヤニ察セラルルヲ以テ何レ自分ハ此点ニ関シ本庄司令官ヲ訪問意見ヲ述フル筈ナルカ最奇怪トスル処ハ目下天津ニ出張中ナル金梁ヨリ最近奉天ノ友人ニ対シ土肥原大佐天津ニ来リ愈宣統帝ヲ満州ニ連出スコトトナリタル旨通信アリタル処日本軍部カ宣統帝ヲ擁立シテ満州独立ヲ断行スルニ決セリトセハ何モ此際別ニ地方維持会ニ強ヒテ國民政府トノ關係断絶ヲ宣言セシムル必要ナカルヘク更ニ不思議ナルハ昨今「低能児」恭親王カ商埠地(張作霖未亡人王松岩公館)ニ於テ東三省独立研究会ナル看板ヲ掲ケ新政權ノ策動ヲ為シ居ルコトニテ右ハ軍部ト無關係ナルヤモ知レサルモ之ヲ取締ラサル為一般民衆ハ軍部ノ後援アリト考ヘ居ルカ兎ニ角斯カル軍部ノ不統一ナル遣口ハ甚タ面白カラス自分等モ心中大イニ失望シ居レリ云々
支へ転電セリ

539 昭和6年11月7日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

奉天地方維持会軍側の要求通り布告発表について

奉天 11月7日前発
本省 11月8日後着

第一二二二号(暗)

往電第一二二二二号ニ関シ
(五三七文書)

六日夜軍司令部ヨリ袁金鎧ニ圧力ヲ加ヘタル結果七日朝地方維持委員会ハ幹部会議ヲ開キ軍側ノ要求通政權代行ノ布告中ニ張学良ノ旧政權及国民政府ト關係ヲ断絶スル旨ノ字句ヲ追加スルニ決シ八日発表ノ手筈トナレリ
支、北平、天津へ転電セリ

540 昭和6年11月7日
在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

熙洽反对派の動向に関する情報について

ハルビン 11月7日後発
本省 11月7日後着

第五〇八号(暗)

本官発吉林宛電報第二二二号

李振声ヲ頭目トスル熙洽反对派ノ吉林省政府カ当地ニ於テ

秘密裡ニ活動シ居タルコトハ果次ノ往電ノ通ナルカ最近同

政府ハ滨江県政府内ニ移リ看板ヲ掲ケテ活動露骨化シタル為四日張景惠ハ李振声等ヲ呼出シ其不都合ヲ面罵シタル結果彼等ハ六日右政府ノ解散ヲ決議シ其旨北平ニ電報シタル趣ナルカ于鏡濤ハ右ニ関シ李ハ其後頻リニ馬賊及敗兵ヲ集メ勢力ヲ蓄ヘツツアルカ同人ノ素振ニ鑑ミ吉林熙洽ト最近何等カ妥協シタル模様アリ果シテ然ラハ齊齊哈爾陷落ノ後彼等カ当地ニ於テ仕事ヲスル上ニ極メテ好都合ナルヘキニ付テハ右確メラレタキ旨願出テタルニ付テハ貴地熙洽ニ就キ御取調ノ上何分ノ儀回電アリタシ
外務大臣、公使、北平、奉天へ転電セリ

541 昭和6年11月8日
在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

謝介石の吉林交渉署長任命について

吉林 11月8日前発
本省 11月8日前着

第一六八号(暗)

往電第一六二二二号ニ関シ
(五三五文書)

七日付公文ヲ以テ熙長官ヨリ鍾特派員ヲ免職シ謝介石ヲ吉

林交渉署長ニ任命セル旨通告シ来レリ吉林新政府成立ノ由来ニ鑑ミ從來本官ハ治安問題ニ付テノミ新政府ト交渉關係ヲ保チ来レルカ地方的問題(例ヘハ万宝山問題、臨城問題、民事事件等)トシテ解決シ得ヘキモノハ新政府成行如何ニ拘ラス此ノ際一応片付クルタメ謝ノ任命ヲ正式ニ了承シ之ト一般交渉關係ニ入ル考ヘナル所若シ御異存アラハ至急御電報ヲ請フ

奉天ヨリ哈爾濱へ転電アリタシ

奉天、間島、長春へ転電セリ

542 昭和6年11月8日
在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

ハルビンにおける張作相派の策動に関する熙洽の談話について

吉林 11月8日後発
本省 11月8日後着

第一七〇号(暗)

本官発哈爾濱宛電報

第一四号

貴電第一二二二二号ニ関シ
(五四〇文書)

熙ニ尋ネタルニ李ハ約十五日以前ニ財政庁長孫其昌ノ許迄人ヲ派シ哈爾濱ニ於ケル自分等ノ活動ハ張作相ノ為ヲ思ヒ為シ居ルモノニシテ熙ニ対シテハ何等惡感ヲ有シ居ルモノニ非スト了解ヲ求メ来リタルニ対シ熙ハ右運動カ却テ作相ノ不為ナルコト及熙モ李ニ対シ別ニ惡感ヲ有セサルコトヲ返事シ遣リタルノミニシテ其後何等通信モ無ク妥協等ノコトハナシト語レリ

大臣、支、北平、奉天へ転電セリ

543 昭和6年11月8日
三宅閣東軍參謀長より
二宮參謀次長宛(電報)

張学良ならびに南京政府と断絶し省政府代行に関する遼寧省地方維持委員会の布告について

11月8日後2時20分発
11月8日後3時55分着

関参第四三三号

遼寧省地方維持委員会ハ十一月七日維持委員会ノ名ヲ以テ張学良ノ政權並南京政府トノ關係ヲ断絶シ遼寧省ノ政權ヲ代行スルコトヲ布告シ十一月八日ヨリ省長公署ニ於テ執務

ヲ開始セリ尚近ク開庁式ヲ挙行スル予定ナリ之ニ依リテ事実上ノ省政府成立シタルモノトス
北平、天津、朝鮮、上海、哈市済

544 昭和6年11月9日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

地方維持会の旧省長公署移転について

奉天 11月9日後発
本省 11月9日後着

第一二二六号（暗）

当地地方維持会ハ七日付布告ヲ以テ遼寧省ノ政權ヲ代行シ同時ニ張学良旧政權及国民政府トノ関係断絶声明ヲ機トシ九日事務所ヲ旧省長公署ニ移転セリ
支、北平、天津へ転電シ在満州各領事へ暗送セリ

545 昭和6年11月9日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

于芷山に対する軍側の工作について

奉天 11月9日後発
本省 11月10日前着

546 昭和6年11月10日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天地方維持委員会政權代行および事務所移転ならびに地方自治指導部成立式典挙行について

奉天 11月10日後発
本省 11月11日前着

第一二四〇号（略）

十日午後二時旧省政府ニ於テ地方維持委員会政權代行及事務所移転並ニ地方自治指導部成立ノ儀式ヲ挙行シ地方維持委員会委員長袁金鎧及地方自治指導部長于冲漢ノ挨拶ニ次キ三宅参謀長及其他祝辞アリタリ
支、北平、吉林、哈爾濱へ転電セリ
哈爾濱ヨリ齊齊哈爾へ転電アリタシ

547 昭和6年11月11日 在吉林石射総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

吉林地方における満州人の復辟運動について

吉林 11月11日後発
本省 11月11日後着

第一二三七号（暗）
本官発海竜宛電報
第二九号

九日関東軍中野参謀森島ヲ来訪于芷山トノ間ニハ先般諒解成立シタルニ拘ラス其後ニ於テモ于ノ態度兎角明瞭ヲ欠キ一度来奉ノ約アルニ拘ラス未タ実行ニ至ラサル等ノ事情アル処右ハ北方ニ於ケル時局国際連盟ノ再開期ノ切迫又ハ錦州政權ニ対スル迷惑等ニ依ルモノト思考セラルルモ他方北山城子方面ヨリノ情報ニ依レハ同地治安委員会長王沢南カ于芷山ニ種々圧迫ヲ加ヘ且于ニ支給スヘキ兵員ノ給与等モ自治委員会ニ於テ受領ノ上于ニ支給スヘキモノナリトテ横取りシ居ル事情アリ依テ軍側ニ於テハ于芷山ノ地歩確立ニ資スル為目下滞在中ノ王ヲ本日一応逮捕スルコトニ決定セルカ右ハ何等于芷山ヲ排除セントノ意図ニ出ツルモノニ非ラサルニ付誤解ナキ様貴官ヨリ于ニ伝達ノ上今後共内鮮人ノ保護ニ尽力方重ネテ申入ラレ度キ旨依頼アリタルニ依リ然ル可ク御取計ノ上結果電報アリタシ尚北山城子自治委員会ノ成立事実ナラハ報告アリタシ
大臣、吉林、安東、通化へ転電セリ

第一七三三号（暗）

当地方ハ歴史的関係上満州人今尚多ク新政府ニ起用セラレタル者亦鮮カラサル処奉天方面ニ於ケル復辟説ニ刺戟セラレ当方面満州人間ニ廃帝擁立ノ運動内密ニ起リ居リ最近当地有力満州人鍾岳（前副都統ノ子）ハ当地及付近七県ノ満州人ヲ代表シ復辟ニ対シ日本ノ後援ヲ請フ旨長文ノ請願書ヲ本官ニ提出シ尚在吉中ナリシ葉山少佐ニモ提出シタル様子ナルカ本官ハ之ハ大問題ニシテ日本側ニテ援助ヲ与フル如キコトヲ輕々ニ決シ得ヘキモノニ非スト伝ヘシメ置キタルカ情報ニ依レハ鍾ハ熙洽トモ既ニ諒解アリ熙ハ長敦局長金碧（肅親王ノ第七子）ト連絡シ復辟（脱）ヘキ人物ノ起用等根本的下拵ヲ為シ居ルモノナリト謂ハル今般謝介石ノ交渉署長任命モ亦之ト関係アルニ非サヤト思ハル
奉天ヨリ哈爾濱へ転電アリ度シ
奉天、支、北平、天津、間島、長春へ転電セリ

548 昭和6年11月13日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

于芷山への奉天行勧告について

奉天 11月13日後発

第一二八二号（暗）

海竜発本官宛電報

第三七号

外務大臣へ転電アリタシ

往電第三六号ニ関シ

十二日于芷山ヲ往訪シ貴電ノ趣ヲ伝ヘ且ツ出奉方促シタル
 処于ハ病氣（十月十七日卒倒シタル際後頭部ヲ打チタル以
 来時々発熱スル由ニテ本官往訪ノ際モ臥床中ナリキ）ナル
 ト且ツ地方治安維持上未タ離任ニ便ナラサルヲ以テ病氣恢
 復次第出奉シテ誤解ヲ解ク旨ヲ告ケタル後于ハ（一）王沢南ノ
 圧迫及兵員給与横取りノ件ハ事実ニ非ス現ニ既ニ税捐ノ借
 入四萬元ニ達セルモ右ハ司令部直接受領シタリ（二）我軍部ニ
 ハ絶対敵対ノ意志ナク万一我軍ノ出動アルモ決して抵抗ヲ
 ナササルコトヲ誓フ（三）王ト同時ニ傳參謀長モ我軍ノ為抑留
 サレタル儀ナル処右ハヒラサラノ策動ナリトモ傳ヘラルル
 ニ付于ノ誠意ヲ諒シ釈放斡旋サレタシト申出アリタリ
 于ノ出奉ヲ躊躇シ居ルハ十一日付機密公領第二一七号拙信
 ノ外我軍部ニ抑留セラルルヲ恐レ居ルカ如キニ付此ノ点軍

本省 11月14日前着

550

昭和6年11月14日 在ハルビン大橋総領事より
 幣原外務大臣宛（電報）

元吉林省政府首腦者の寶泉に於ける動向につ
 いて

第五八八号（暗）

吉林宛往電第二一七号ニ関シ

一味ハ張派反対ニテ市内ノ事務所ヲ一先ツ閉鎖セルモ其後
 秘ニ寶泉ニ通レ同県政府内ニ本月十一日更ニ省政府ヲ組織
 セル確報アリ 主席代理ハ誠允ニシテ他ハ大体既報ノ通り

ハルビン 11月14日後発
 本省 11月14日後着

部ヨリ保証ヲ為シ且ツ參謀長及王ヲ釈放セハ不日出奉スル
 コト疑ナシト認メラル尚王ノ釈放ニ付テハ于ト会見後維持
 会長及商務会員等ヨリ同会ノ目的遂行上是非共斡旋サレタ
 キ旨申出アリタリ

維持会ハ現在尙形式的ニシテ四日付機密公領第二〇九号拙
 信ノ範圍ヲ出テス同会長等ハ実質具備方促進中ナリト語レ
 リ

吉林、安東へ暗送シ通化へ転電セリ

549 昭和6年11月14日 在奉天林総領事より
 幣原外務大臣宛（電報）

于芷山の出奉に対する軍の督促について

第一二八九号（暗）

本官発海竜宛電報

貴電第五号ニ関シ

軍ニ於テハ于申出ノ次第ハアルモ貴地方ノ状況並ニ王沢南
 ノ態度意向等未タ明瞭ナラサルニ付是非直接于ト面談ノ必
 要アリ其上ニテ疑解クレハ王及傳ノ釈放モ取計フヘク又于

奉天 11月14日後発
 本省 11月14日後着

支、北平、奉天、吉林へ転電セリ

551 昭和6年11月14日 在ハルビン大橋総領事より
 幣原外務大臣宛（電報）

反熙洽派の活動抑圧に関する情報について

第五九一号（暗、極秘）

十二日夜吉林軍顧問大迫中佐ノ使者ト称スル福永タカヨシ
 ナル者来哈シ当地買売街中野清助方ニ寄食シ居レルヲ以テ
 当館警察ニ於テ同人来哈ノ目的ニ付内査セル処右ハ元吉林
 省政府首腦者タリシ馬德恩、榮厚、王世選、王之佑、鍾毓
 及、章啓槐、王莘林、劉鈞、王燁善、趙嶠、榮常延、李振
 声、宋日新、張東昇、張鶴椿、馮長庚、馬仲立、王成作等
 カ反熙洽派ノ巨頭ニシテ彼等カ吉林省内ニ存在スルコトハ
 熙洽ノ新政府独立上多大ノ支障アリトナシ何等カノ口実ヲ
 設ケ南滿方面ニ誘出シ逮捕スルカ又ハ当地方ニ於テ殺害セ
 ントノ計画ヲ以テ熙洽ノ派遣セル支那人刺客ト共ニ来哈セ
 ル趣ナルカ前記首腦者ノ大部分ハ往電第五八八号ノ通り既
 ニ寶泉ニ移動セルヲ以テ右中野清助方食客川崎正一ハ数名

ハルビン 11月14日後発
 本省 11月14日後着

ノ支那人ヲ伴ヒ十三日午前十一時四十分当地発東行列車ニ
テ賓県ニ於ケル状況視察ニ赴キタリト云フ
右ハ軍部ニ於テ極秘トセル模様ナルニ付特ニ内報ス
支、北平、奉天、吉林、長春へ転電セリ

552 昭和6年11月16日 在奉天森島総領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

恭親王の政治的策動に関する情報について

奉天 11月16日後発
本省 11月17日前着

第一三一七号（暗）

事変後日本浪人ノ策動ニ依リ關朝璽ヲ會長トスル四民維持
会ナルモノ組織セラレ表面慈善団体ノ名ヲ以テ政治的策動
ヲ企テタルヲ以テ軍ヨリ注意ヲ加ヘタル結果關ハ辭任シタ
ルカ其後テイカイハ再ヒ恭親王ヲ會長トシ復辟運動ヲ試ミ
甚タシキハ多数ノ浮浪人ヲ集メ北陵參拜ヲナス等治安上弊
害ヲ認メタルニ依リ今回軍ヨリ恭親王ニ注意シタル処恭親
王ハ自分ハ日本浪人ノ言ヲ信シ軍部ノ支援アルモノト考ヘ
行動セルニ過キサリシカ軍ノ真意明瞭トナリタル以上早速
遠慮スヘシトテ十七日大連ニ引揚ケタリ

長春 11月17日後発
本省 11月17日後着

第一八一号（暗、部外極秘）

往電第一八〇号ニ関シ

本事件ノ内容ニ付聞込タル所ニ依レハ懷德縣長趙沢民ハ當
初軍部ノ指令ニ服從シ反張學良態度ヲ表示シ從來ノ県政府
ヲ自治委員会ニ改組スル旨ヲ誓ヒ居リシニ錦州仮政府樹立
セララルヤ暗ニ同政府ト氣脈ヲ通スルニ至リ軍当局再三ノ
召喚ニモ応セス態度頗ル曖昧トナリタル為軍部ニ於テハ趙
縣長ヲ排斥シ之カ後任トシテ懷德県下ニ相当勢力アル長春
警察范家屯派出所私服巡捕馬德泉ヲ推ス事ニ決シ自治制ノ
陣容モ整ヒタルヲ以テ本月十三日馬ハ部下警護ノ下ニ邦人
指導委員三名ヲ從ヘ無事懷德ニ乘リ込ミタリ然ルニ前縣長
一派ハ同地方匪賊ヲ操縦シ馬ニ対シ反抗的氣勢ヲ示スニ至
リタル為軍ハ大黒林子付近匪賊討伐ノ名目ノ下ニ往電第一
八〇号ノ出動ヲ見ルニ至レル趣ナリ尚戦死邦人コミチハ警
察上司ノ指示ヲ仰カス独断ニテ前記馬ト共ニ本件計画ニ参
与セル廉ヲ以テ戦死前既ニ依願免職トナリタルモノ又前電
兵二名ノ戦死ハ誤報ニ付訂正ス

支、北平へ転電セリ
長春、鉄嶺、安東、牛莊、遼陽へ暗送セリ

553 昭和6年11月17日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

賓県に成立の吉林新政府要職者名について

ハルビン 11月17日後発
本省 11月17日後着

第六一〇号（暗）

（五五〇文書）
往電第五八八号賓県吉林新政府要職左ノ如シ

主席誠允財政庁長ジョフケン、建設庁長王宝善、民政庁長章
啓槐、警察処長王之佑、教育庁長王莘林、官銀号総弁李樹
滋尚張作相ハ十四日付丁超宛電報ヲ以テ李振声ニ東北边防
軍公署組織方ヲ命令シ李振声ヲ副司令ニ任命セシモ本組織
ハ未タ具体化セサル趣ナリ
公使、北平、奉天、吉林ニ転電セリ

554 昭和6年11月17日 在長春田代領事より
幣原外務大臣宛（電報）

懷德県における趙沢民と馬德泉との衝突事件
について

奉天へ転電セリ

555 昭和6年11月18日 在奉天森島総領事代理より
幣原外務大臣宛

新政権樹立問題に関する趙欣伯の談話につい
て

奉天 11月18日付
本省 11月24日着

公信機密第九五三号

新政権樹立問題等ニ関スル趙欣伯談話報告ノ件
新政権樹立其他ニ関スル趙欣伯ノ談話（当館警察情報）ハ
相当興味有ルモノト認メラルルニ付大要左ノ通報告申進ス
一、本月八日ノ維持委員会ノ布告中「政權ヲ代行」云々ノ
字句有ル処右ハ既ニ滿蒙カ国民政府及張學良政府ト絶縁
シタル以上新タニ政權ノ樹立ヲ見サル限り「代行」ナル
字句ハ適切ナラスト認メタルニ付自分ハ右布告ニ署名ヲ
拒絕シタリ尚維持委員会ノ名称ヲ省政府ト改メル事モ既
ニ滿蒙独立国ノ実現目睫ニ迫レル今日必要無シト思考ス
二、新ニ樹立セラル可キ滿蒙独立国ニハ宣統帝ヲ迎フル事
ニ成リ居ルカ如ク同帝ハ現ニ滿州ノ某地ニ到着シ居レリ

トノ噂有り本月初メ維持委員タル金梁同帝ヲ迎フル為メ天津へ赴キタルカ右ハ決シテ維持委員会ヲ代表スルモノニアラス尚自分トシテハ軍側ヨリ一兩日中ニ同帝ノ来満ニ付何等カノ話アル可キモノト思考ス

三、新独立国ノ政体ニ付キテハ未タ決定シ居ラサルモ宣統帝ハ帝制ヲ希望シ居ラルル由ナリ尚各大臣ノ割当ニ付テモ未タ協議等ヲ為シタル事無キモ自分ノ予想ヲ言へハ總理大臣袁金鎧、宮内大臣金梁、大蔵大臣翁恩祐、交通大臣丁鑑修ト言フ所ナル可ク又自分ハ外務司法大臣ヲ以テ目サレ居ルモ自分トシテハ内務大臣ヲ希望シ居レリ尚有為ノ才ハ何レモ後難ヲ恐レテ逃走シ又ハ就任ヲ拒絶スル為各大臣ノ割当ニハ頗ル困難ヲ感スヘシ

四、日本軍部ニ於テ仮ニ東三省占領ノ底意アルニセヨ支那人ノ反感ヲ誘発セシメス又列国ノ疑惑ヲ買ハスシテ目的ヲ達成シテこそ巧妙ト云フヘク今日ノ如キ遣リ方ハ決シテ策ノ得タルモノニ非ス況ンヤ領土的野心存セサルニ於テオヤ又斯クノ如ク無理矢理ニ樹立シタル新政権ハ果シテ永続ノ可能性アリヤ頗ル疑問トスル所ナリ云々

尚本情報ニ付テハ警察側ヨリ出所等ノ関係上極秘取扱方申

本省 11月20日後着

第二五九号（暗）

貴電第一五二号ニ関シ

情報ノ出所ハ連絡班ニシテ高野少佐ハ軍部ヨリ吉林新政権ニ対スル同地中国官民ノ帰趨ニ関シ報告ス可キ旨訓令ヲ受ケ居ル為屢次御来示ノ如キ報告ヲナシ朝鮮軍司令部ハ之ヲ綜合シテ強ク電報シタルモノナリ当地方中国側ハ今尚時局ノ成行ヲ見居ルノ態度ヲ持シ居ルモ吉林新政権否認ノ声高シト断スルハ誤リナリ啓彬カ延吉県長ノ儘籌備処長ニ就任シタルハ新政権ニ対スル多少ノ不安ト張書翰ニ対スル遠慮ノ結果ト認メラルル処最近ハ漸次腰モ据リ十九日籌備処ニ移転セリ

同人ハ十七日吉興ト共ニ来竜セリ本官及日本側各機関ニ新任ノ挨拶ヲ為シ官民多数ヲ招待スル等日支交驛ニ努メ又田中ニ対シ今後県長公安局長等一部更迭ヲ行ヒ同地方ノ情勢ニ適応スル所信ヲ断行スル旨内話セル趣ナリ尚民声報ノ排日記事ハ順次幾分ツツ改マリ来リ居ルモ十九日更ニ瀋山ヲシテ嚴重警告シタル処籌備処長商埠局長ハ更ニ嚴重取締ノ上必ス期待ニ副フ様取計フヘキ旨言明セル趣ナリ

越有之ニ付右様御取扱ヲ乞フ

本信写送付先 在支公使、北平首席、天津総領事

556 昭和6年11月20日 在奉天森島総領事代理より 幣原外務大臣宛（電報）

袁金鎧に対する軍部の監視について

奉天 11月20日後発
本省 11月20日後着

第一三五七号（暗）

上海発閣下宛電報第八三二号ニ関シ

袁金鎧ハ外国人ニ対シ最近此種ノ不平ヲ洩ラス形跡アルヲ以テ軍部ニ於テハ袁ニ対シ一層監視ヲ厳ニシ悪宣伝ヲ阻止スル意向ナル趣ナリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、北平へ転電セリ

557 昭和6年11月20日 在間島岡田総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

間島地方官民の吉林新政権に対する態度について

間島 11月20日後発

558 昭和6年11月23日 在吉林石射総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

寶泉における吉林省政府の策動に関する熙治の要請について

吉林 11月23日後発
本省 11月23日後着

第一八六号（暗）

本官発哈爾濱宛電報

第一五号

熙治ハ一兩日前本官ニ対シ寶泉ニ於ケル吉林省政府ノ策動ハ新政府ノ全省統一ヲ阻害スル事大ナリ自分ハ敢テ希望スルニ非サルモ日本軍力之ヲ追ヒ弘ヒ呉ルレハ好都合ナリト語レルカ財政庁長ノ内話ニ依レハ三橋民会長及官銀号会弁秦樹藩ノ両名ハ熙ノ命ヲ受ケ誠允、李振声ヲ説得ノ為昨十二日夜吉林発哈爾濱ニ向ヘリト言フ

大臣、奉天、支へ転電セリ

559 昭和6年11月25日 在奉天森島総領事代理より 幣原外務大臣宛（電報）

新府府商務会奉天地方維持会の統制下に加入

について

奉天 11月25日後発
本省 11月26日前着

第一三九五号(暗)

往電第一三九二号ニ関シ

新民府分館ヨリノ電話ニ依レハ二十四日同地商務会頭ノ支那人有力者ハ代表者ヲ袁金鎧ノ許ニ派シ奉天地方維持会ノ統制ノ下ニ新民府ノ治安ヲ維持スルコトシタキ旨申入レシメタル処二十五日同代表ヨリ商務会ニ対シ会谈順調ニ進ミツアル旨通報アリタル由ナリ
連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ
米、連盟、支、北平、天津、南京、新民府、牛莊ヘ転電セリ

560

昭和6年11月25日
在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

各領事館間および本省との意思疎通のため領事会議召集について

ハルビン 11月25日後発
本省 11月26日前着

第六七二号(暗)

時局以来満州ニ於ケル重ナル仕事ハ軍ニ於テ切盛シ領事館ハ多ク拱手傍觀ノ形ナルノミナラス各館間及本省ト各館トノ連絡モ充分ナラサル様思ハルル処今後満州カ平和的建設ノ時代ニ入りテ尚此状態ヲ継続スルコトハ満州事件ヲシテ有終ノ美アラシムル所以ニアラサルヘキニ付テハ成ルヘク早く出先ニ主要領事ノ非公式領事会議(各館ニ於テ案ヲ用意セハ短時日ニテ足ル)ヲ招集セラレ本省ノ意ノアル所ヲ徹底セシメラルト共ニ軍側トモ充分連絡ヲ付ケ各方面協力一致ヲ図ルコト必要ナルヘク軍側ニテモ之ヲ希望シ居ル模様ナリ
奉天ヘ転電セリ

561

昭和6年11月26日
在奉天森島総領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

関東軍の新民県知事に対する要求交渉について

奉天 11月26日後発
本省 11月26日後着

第一四〇三号(暗)

往電第一三九二号ニ関シ

二十六日関東軍参謀来訪本件ハ支那側正規ノ公安隊カ我軍ニ対シ発砲シタル事件ナルヲ以テ関東軍ニ於テ新民県知事ヲ相手方トシテ(一)新民県ハ奉天省政府(地方維持委員会及自治指導部)ノ命ニ服スヘキ事(二)新民県ハ奉天省政府所定ノ納税ヲ為ス事(三)日本軍ノ同地ニアル間ハ公安隊ハ其ノ隷下ニ属スル事(四)損害賠償ノ条件ニテ交渉ニ当リ度キ趣ヲ以テ本官ノ所見ヲ求メ来レル処元来新民県ハ奉天錦州両政權ノ中間ニ在シ其ノ去就明カナラス地理的関係密接ナルニ拘ラス金融財政等全然隔離シ居リ官銀号本支店間ノ取引関係モ断絶シ居ル等諸事不便鮮カラス本官ニ於テ従前ヨリ土屋主任ニ対シ夫レト無ク新民県ヲシテ奉天政權ニ隷属スル様仕向クル方得策ナルヘキ旨指示シ居タル次第モアリ且ツ現時ノ事態並ニ事項ノ性質ニモ鑑ミ軍側ヲシテ直接交渉セシムル事得策ト思考セラレタルヲ以テ右軍側提案ニ同意シタル上馬占山ニ対スル林少佐交渉ノ事例ヲ挙ケ交渉ハ文書ニ依ラス口頭ニ依ルヘキ旨充分注意シ置ケリ
支、北平ヘ転電シ新民府ヘ暗送セリ

562

昭和6年11月30日
在奉天森島総領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

遼河以西部隊引揚げの内情ならびに関東軍の新国家建設方針について

奉天 11月30日後発
本省 11月30日後着

第一四三二号(暗、極秘)
往電第一四二〇号ニ関シ

一、当地ヨリ出動セル部隊急遽引揚ニ至レル内状ニ関シ確實ナル筋ヨリ聞込メル所ニ依レハ当初軍側ニテハ中央ヨリ再度引揚方命令ニ接シタルモ先頭部隊カ既ニ繞陽河付近ニ於テ衝突中ナリシ関係モアリ右命令ヲ無視シ予定行動ノ実行ニ進ムコトトシ居タルモ三度嚴重ナル命令ニ接スルヤ涙ヲ吞ンテ夜半引揚命令ヲ出スニ至レルモノナリ當時幕僚等ハ既ニ連袂辭職ヲ決意シ極力幹部ニ迫レルモ参謀長等ヨリ将来再ヒ機会無キニ非サルヘク事志ニ違ハハ決シテ幕僚ノミヲ見殺ニスルモノニ非ス軍司令官以下一蓮托生ノ決意アル旨ヲ披瀝シ漸ク之ヲ宥メ得タル実状ニシテ実ニ劇的光景ヲ呈セリト言フ

二、惟フニ当地軍部ノ方針ハ事変当初ヨリ我既得權益ノ擁護邦人ノ生命財産ノ保護諸種ノ懸案ノ解決ノ範圍ニ止マラス滿蒙ヲ打ツテ一丸トシテ新政權ヲ樹立シ茲ニ確固不拔ナル帝国ノ地歩ヲ確立セントスルニアルカ如ク曩ニ林総領事ヨリ今次ノ時局ハ既ニ所謂五大項目ヲ以テ收拾シ得ヘキ範圍ヲ超過セル旨累次進言セラレタルモ全ク右ノ觀察ニ出テタルモノト察セラル而シテ最近ニ至ツテハ更ニ一步ヲ進メ支那本部ヨリ隔絶セル往年ノ張作霖政府ニ類スル新政權ノ樹立ノミヲ以テ充分トセス此好機ニ乗シ滿蒙ニ新独立国家ヲ建設シ永遠ニ事実上我國ノ保護下ニ置カントノ議有力トナリツツアル如ク東北旧政權ノ徹底的排除地方自治制度ノ創設北滿政權ノ擁立宣統帝ノ連出シ等ハ一トシテ右方寸ニ出テサルハ無ク從テ既ニ北滿經略ニ大体ノ目鼻着キタリト認メ得ル今日右ノ大理想ヲ實現スルカ為其前途ニ横ハル唯一ノ障礙トシテ錦州政權ノ撲滅ニ進マントスルハ從來ニ於ケル幾多ノ遺口ヨリ判断シ極メテ自然ノ途筋ヲ辿ルモノト謂フヘク現ニ有力ナル軍人中公衆ノ面前ニ於テ公然新国家建設ノ必要錦州政權撲滅ノ遂行ヲ公言シテ憚ラサル者鮮カラス甚ダシキニ至

セラルベキハ推察ニ難カラザルモ所謂新国家建設ノ見地ヨリセバ依然一ノ障礙ヲ為スモノト言フベク從テ之ヲ排除シ撤兵地域ニ於ケル行政ヲ奉天新政權ノ下ニ隸屬セシムルガ為之ガ寢返リ又ハ抱込策トシテ今後有ラユル策謀ノ用ヒラルベキコトハ事変以後幾多ノ事例ニ照シ略疑ヲ容レザルモ斯ノ如キハ元來出先ノ軍限リニテ敢行スベキモノニアラザルハ勿論ニシテ滿蒙ノ將來乃至時局收拾ニ對スル帝国政府ノ根本方針ノ如何ニ応ジテ割リ出サルベキモノナルヲ以テ根本方針ト一括シテ予メ御考慮相成置クノ必要アリト信ズ委細林總領事ヨリ御聴取ノコトト存ズルモ卑見何等御参考迄

563

昭和6年12月2日

※在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

于芷山懷柔のため軍費、武器等供給について

第一四四九号（暗）

海竜発本官宛電報第四八号

往電第四七号ニ関シ

奉天 12月2日後発
本省 12月2日後着

リテハ中央ニ於テ出先ノ方針ヲ遮ルニ於テハ一律軍籍及国籍ヲ脱シ新国家建設ニ向フベシト極言シ現ニ本三十日開催ノ等ナル全滿時局連合会ノ議題中ニモ「新独立国家ニ参加ノ件」アリ風聞スル処ニ依レバ之ガ真意ハ在滿邦人何レモ日本国籍ヲ脱シ新ニ日本ノ勢力下ニ建設サルベキ日、滿、鮮、蒙、露ノ五族共和国ニ参加スベシト言フニアリ

右ハ一見荒唐無稽ノ感アリト雖事変發生以來ノ事例ニ徴スルニ少クトモ此意気込ハ強チ一笑ニ付シ難キモノアリ三、由此觀之今回ノ錦州方面出動ハ政府ノ機宜ナル御措置ニ依リテ阻止セラレタリト雖モ曩ニ哈爾濱進兵不能トナリタル後形ヲ變ヘテ遂ニ齊齊哈爾進出トナリタル事例ト同様今回ノ御措置モ今後ニ於ケル再出動ノ絶無ヲ保証シ難ク支那軍ノ関内撤退実行セラレザル限リ機會アル毎ニ否自ラ求メテ機會ト口実トヲ造リ何処迄モ当初ノ計画実行ヲ計ラントスベキハ極メテ明瞭ナリ而モ仮令錦州地方一帯ニ於ケル東北軍ガ我方ノ希望ノ通愈関内ニ撤退スルニ至ルトスルモ同地方ノ行政ガ依然旧東北政權ノ下ニア

山城子出張所ヨリノ報告ニ依レハ三十日在奉天我憲兵軍曹犬童某外四名及坂田増井付添ノ上于芷山ニ支給スヘキ軍費十萬元機関銃十挺彈丸二十万発（更ニ十万発後送ノ答）ノ外毛皮外套及綿入軍服各一千着ヲ輸送シ來レル趣ノ処前電ノ通于カ部下团长等ニ對シ其命令徹底スルヤ否ヤニ関シテハ頗ル疑問アルノミナラス現下地方民ノ排日空氣ノ潛勢力鮮カラサルト且于ノ日和見主義並ニ地方治安維持ノ不徹底ノ次第ハ累次報告ノ通ニシテ此際彼ニ軍費ヲ供給スルハ異存無キモ兵器ヲ供給スルカ如キハ時機甚タ尚早ニシテ軍部ノ処置ニハ幾多了解ニ苦シム処アリ卑見ヲ以テスレハ于ノ誠意尚疑惑鮮カラス且軍部ノ要求ニ對スル于ノ出奉方ニ関シ誠心誠意ヲ以テ之ヲ誘導シ來レル小官ノ勸誘ニモ顧ミス彼ハ依然不鮮明ナル態度ヲ持スルニ鑑ミ王道ヲ以テ臨マン

564

昭和6年12月4日

在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛

吉林地方における滿蒙独立運動に関する情報について

サレサルニ付此点軍部ニ然ルヘク御申入レ置キヲ請フ

昭和六年十二月四日

在吉林総領事 石射猪太郎(印)

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

当地方ニ於ケル滿蒙獨立運動ニ関スル件

当地方居住ノ滿州人カ曩ニ奉天方面ニ於ケル復辟説ニ刺戟セラレ内密ニ宣統廢帝擁立ノ運動ヲ起シ十一月月上旬前清副都統ノ子鍾岳ヲ当地及付近七県ノ滿州人代表トシ復辟ニ対シ日本ノ後援ヲ乞フヘキ旨別紙甲号写ノ通り請願書ヲ本官ニ提出(曩ニ当地駐屯中ノ天野旅団長及憲兵隊ヘモ同文請願書ヲ提出セリ)シ来リタル次第ハ当時電報ノ通ナル処当地憲兵隊ヨリノ情報ニヨレハ其後右運動ハ漸次進展シ各県ヨリノ代表モ逐次参集本計画ニ賛同シ今ヤ吉林及其他ノ各県代表ヲ合セ同志概ネ三百余名ニ達シ再度日本側ニ請願ノ為密議シ別紙乙号ノ如キ請願書起草中ナル趣ナリ尚右運動ノ起因並ニ同志ノ策動状況等ニ関シ憲兵隊ノ得タル情報左記ノ通り御参考迄報告ス

記

一、滿蒙獨立運動ノ起因

氏名	系統	摘要
吉林北関	前清大官晋將軍ノ長男	現吉林省長官公署顧問
鍾岳	魁前吉林省長ノ次男	現実業庁秘書
唐宝森	前清大官依將軍ノ孫	
張連山	前奉天雲都統ノ長男	
吉林省城内	前清大官貽將軍ノ孫	
吳孝同	前清貴族	
吉林省城内	前奉天烏都統ノ長男	
趙世安	前清貴族	
吉林省城内	前清大官額候一孫	
世昌		

(二)代表ノ来リシ各県名

吉林省

伊通県 双陽県 磐石県 德惠県 長嶺県 榆樹県 扶余
県 舒蘭県 永吉県 額穆県 敦化県 汪清県 延吉県
琿春県 双城堡 阿城県 長春県 和竜県 樺甸県 延寿
県 農安県以上二十一県

中国ノ情勢ハ前清廢帝ノ後群雄各地ニ割拠シ常ニ動乱絶
ユルコトナク人民亦各軍閥ノ為塗炭ノ苦ヲ受ケ苛斂誅求
至ラサルハナク茲ニ於テ所謂前清系ノ旗人ハ昔日ヲ顧ミ
ルノ念深ク機ヲ窺ヒ滿蒙ヲ獨立セシメ宣統系ノ人物ヲ擁
立シ又現下ノ情勢ヨリ日本帝國ノ支配ノ下ニ国民ノ幸福
ヲ希ハントシ特ニ總代表タル鍾岳ノ如キハ宣統廢帝当時
ノ実父ハ二十余年ノ久シキニ亘リ四川省ニ閑居セラレ
(昨年吉林ニ歸リテ病死ス)タル等ノ關係上特ニ其ノ念
ヲ深クシ且ツ前清大官出身ナルヲ以テ之レヲ總代表ニ推
シ本事實ヲ奇貨トシ茲ニ於テ秘密裡ニ該運動ヲ起スニ至
リシモノナリ

二、同志ノ策動状況

吉林省城内及付近ニ居住スル滿蒙旗人關係者約五百名ア
リテ其ノ大半ハ同意ヲ表シ又各県ヨリ代表者逐時鍾岳ヲ
訪問賛意ヲ表シ極力努力方依頼シアリテ目下既ニ三百名
内外ノ同志アリ吉林居住各県代表者等次ノ如シ

(一)吉林居住同志首脳者

所見

以上ハ要スルニ旧前清当時ノ旗人ニシテ且ツ老齡者多
ク個人ノ地位官職ヲ占メントスルノ野心ヨリ本拳ニ出
テタルモノノ如ク所謂宣統系人物ヲ擁シ此ノ機ニ於テ
滿蒙ヲ獨立セシメ国民ノ幸福ヲ図ラントスル信念ナル
カ如シ

然レトモ吉林在住有力官職者中ニハ滿蒙ノ獨立ヲ切望
スルモノアリト雖モ宣統帝ノ勢力微々タルニ対シ同帝
ヲ戴クヤ否ヤニ就テハ反対意見ヲ有スルモノ相当アリ
本信写送付先

在華公使及北平、奉天、哈爾濱、間島各総領事、
長春領事

(別紙)別紙乙号

請願書

時機既ニ達セルモノニシテ滿蒙ニ於ケル特殊計画ヲ実行シ
獨立国ヲ完成シ以テ人民ノ企望ニ添ヒ民心ヲ安シメンコ
トヲ請願セントスルモノナリ我カ東北人民ハ二十年来民国
ノ圧迫ト軍閥暴虐ヲ受ケ尽セリ

日軍入城將ニ掃蕩セラレ人民ヲ水火ヨリ救ハレ人民一同其

ノ恩ニ感激措ク能ハサル処ナリ更ニ懇願セントスルハ此ノ時機ニ及ヒ根本ヨリ東北問題ヲ解決シ我カ三千万ノ人民ヲシテ永久ニ民国關係ヲ脱離セシメ故國ノ思想ヲ復興セシメントス元來東三省ハ滿州ノ故國ニシテ又蒙古ハ滿州トハ親密ナル關係アルコト歴史上ニ於テ均シク中国ノ領土ニアラス前曾ツテ鍾岳ヲ公拳シテ請願總代表トナシ

大日本帝國政府ニ請願ナスヘク謹シテ正副ノ請願書ヲ作り已ニ在吉林憲兵隊經由請願セリ今ヤ軍閥滅亡セリト雖モ残余尚潜伏シ南京政府ハ已ニ張作相ヲ派シ接收委員ニ任命セリ等ノ謠言アリテ民心安定ノ域ニ達セス故ニ商民請願セントスル所以ナリトス今日江省ハ已ニ下リ三省ノ統一モ久シカラス近日各都市及各県ハ何レモ鍾岳力運動シツツアルヲ聞知シ工商兩會及法團ハ直接關係スルコトヲ肯セサルヲ以テ皆拙者ヲ尋ネ来リ吾等弱小民族ハ久シク民国ト軍閥ノ苦痛ヲ受ケシヲ今ヤ大日本帝國權威ヲ仰キ吾等民族ヲシテ既ニ民国惡政府關係ヲ脱離シ又軍閥惡勢ノ圧迫ヲ受ケス重ネテ天日ヲ東三省ニ見ルコトヲ得ルヲ悦フ処ナリ土地広大物資又豊富加フルニ蒙部ヲ以テス大日本帝國ノ勢力保護指導ノ下ニ滿蒙ノ獨立國ヲ完成スルハ我民族ノ大願ナリトス鍾

新民府発本官宛電報

第四五号

往電第四二号末段「国民自衛軍」ハ入城前各地ニ於テ掠奪ヲ為シタル不良分子ナリシヲ以テ支那側商民ハ甚タ不安ヲ感シ公安隊ニ迎ヘルヲ嫌ヒタル為一時ハ之ヲ解散セントシタルモ漸次調査シタル処右ハ関東軍板垣參謀ヲ中心トスル所謂高等政策ヲ基調トスル浪人並ニ馬賊團ノ合作ニ加フルニ巨流河駐屯軍ノ連絡更ニ当地電話局ヲ策源地トシ同局長外在留民二名参加シテ断行セル芝居ナル事判明セリ斯ル裏面策動アルニ鑑ミ右自衛軍ノ即時解散ヲ差控ヘ結局一部ヲ改編シ表面ヲ繕ヒ之ヲ採用スル事トシタルカ将来山海関以東各県ヲ同様手段ヲ以テ乗取リ日本勢力ヲ扶植スル計画ナルカ如シ

右芝居ノ筋書ハ往電第二九号其他ノ拙電ノ通大概察知ハシ居ル処ナルモ從來日本軍ニ多大ノ信頼ヲ寄セ居タル有識支那人モ今回ノ如キ流言其儘ノ実現ニ依リ日本軍ノ陰險ニ勘カラス呆レ居ル次第ニシテ当地ノ実状ニ適セサリシ見エ透キタル斯ル策動ハ大局上成功セリト認メラレサルノミナラス将来当館カ予想シタル如ク市中ノ治安維持困難ニ陥ラサ

岳窃カニ昔日ノ所謂滿蒙特殊計画ヲナサントスルコト久シ人心之レヲ思フコト又深ク今日時機既ニ迫リ民氣正ニ盛ニシテ更ニ一步ヲ進メ大日本帝國政府ニ請願シテ断然有効ノ処置ヲ取り速カニ滿蒙計画ノ実現ヲ計リ民国ノ覬覦ヲ絶チ又列國トノ干涉ヲ避ケントス夫レ滿州ハ元滿州人ノ故國ニシテ兵ヲ借リテ復讐ノ援助ヲ受クルモ列國干涉スルノ必要ナシ全ク此ノ機ヲ失フヘカラサルナク今日即チ鍾岳ハ吉林ノ大多數ノ民意ヲ代表シ民意ニ順ヒ毅然決行シテ兩國民ヲシテ共同的利ニ樂シマシメ強キ國家ヲ作り共存共榮ノ目的ヲ固メントス

565 昭和6年12月6日

※在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

新民府における国民自衛軍の策動について

奉天 12月6日後発
本省 12月6日後着

第一四七七号（暗、極秘）

レハ幸ナリト懸念セラル

尚右策動ノ裏面ハ兎ニ角対外的關係ヲ考慮シ当館モ表面之ヲ秘密ニセントシツツアルニ拘ラス「自衛軍」自身ハ得意ニ日本軍ノ後援アル事ヲ支那人間ニ吹聴シ居ル趣ニテ心得ナキ浪人又ハ馬賊操縦ノ欠陥此処ニ存シ甚タ寒心ニ耐ヘスト思考セラル為念

大臣、支、北平、天津へ転電アリタシ

566 昭和6年12月7日

※在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

関東軍司令官の親書に対する熱河省主席湯玉麟の態度について

北平 12月7日後発
本省 12月7日後着

第七二五号（極秘）

牟田ヨリ、第七号

本月三日辻口（鄭家屯滿鉄公所赤峰駐在員）関東軍司令官ノ親書ヲ携ヘ熱河ニ赴ケルカ昨五日帰平内話スル処左ノ通親書ハ関東軍司令官ノ指揮ニ従ハレタキ旨ノ簡單ナルモノナリシカ玉麟ハ之ヲ承諾シ若シ軍事行動ヲ起ス必要アレハ

改メテ其ノ方法及時期等指示セラレタシ但シ其場合熱河省内部軍隊ニテモ林西ノ崔新五、田場ノ富春ノ二旅ハ或ハ自分ニ反対スヘク赤峰ノ石文華ハ多分大丈夫ト考ヘラルルモ多少疑ハシキ点アリ自分ノ確実ニ動カシ得ル兵ハ一万ニ過キス到底周囲ノ奉軍ニ勝目ナク或ハ熱河ヲ保持シ得サルニ至ルヤモ測ラレヌ（本官発北平宛電報第一八号参照）故其ノ後ノ自分ノ身ノ振方ニ付テハ篤ト日本側ノ御考慮ヲ約シタシ尚學良ニ対シテハ自分ハ從來ヨリ反対ニテ屢々来平方電報アルモ敢テ動カサリシ次第ナルヲ以テ今後絶対ニ彼ヲ奉天ニ入ラシメサル様セラレタシ尚又閣瑞廷ヲ使者トシテ奉天ヘ派セルニ（機密第一四七号拙信参照）聞ケハ日本軍ニテ拘禁中ノ由至急釈放ノ上詳細彼ト御相談アリタシト語レリ何等御参考迄

尚辻口ハ軍部ヨリ途中何人ニモ絶対ニ面会スヘカラストノ敵命ヲ受ケ居ル由ニ付右談話ハ部外極秘ニ願ヒタシ支、奉天ニ転電シ北平ニ転報セリ

（編注） 牟田哲二は赤峰在勤外務書記生である。

567 昭和6年12月7日 在鄭家屯大和久領事より 幣原外務大臣宛（電報）

公第二九九号

昭和六年十二月七日

在鄭家屯領事 大和久 義郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

張海鵬ノ独立宣言文訳報ノ件

蒙辺督弁張海鵬カ客月二十九日洮南ニ於テ易幟掲揚及独立宣言文発表ノ次第ハ最近ノ往電ヲ以テ概要報告シタル処尚右宣言文ヲ訳出シ御参考迄ニ別紙ノ通り報告申進ス

本信写送付先 在中国公使、北平首席、奉天、吉林、哈爾賓、鉄嶺、長春、齊齊哈爾各総領事

（別紙）

独立宣言文訳文

民国肇マツテ茲ニ二十年政府ノ措置日ニ非ニシテ人民ノ疾苦更ニ甚シ其原因数フルニ足アリ夫レ国家立憲ヲ籌備シテ未タ成ラス一旦我ト共ニ驟起ス猶ホ兒童初メニ歩行ヲ學ヒ遽チニ奔馳セシムカ如シ何ソ願願セサラントシテ免ルルヲ得ンヤ若シ上下一心共力治安ヲ図ラハ亡羊補牢尚晩キニ非ス

袁氏陽ニ共和ノ名ヲ仮リ陰ニ篡竊ヲ行フ籌安ハ即チ志僭權

蒙辺督弁張海鵬の独立宣言発表について

四平街 12月7日後発
本省 12月7日後着

第五五号

蒙辺督弁張海鵬ハ客月二十九日洮南ニ於テ国旗掲揚式並独立宣言ヲ発表旗幟ハ横ニ上半面ヲ赤地下半面ヲ黄地トス赤ハ満州黄ハ清朝ヲ表示スルモノナリト

宣言文ハ第一ニ袁世凱ノ帝政ヲ罵リ第二ニ軍閥ノ横暴ヲ挙ケ第三ニ蔣介石ノ專制縁戚私人採用ヲ罵倒シ第四ニ張學良ノ惡政ニ依リ人民カ塗炭ノ苦ヲ嘗メ居ルヲ指摘シ結論ニ於テ依テ特ニ宣言ス国民政府並北平政權ト關係ヲ離脱シ今後本軍所属地方ハ海鵬ヨリ蒙辺督弁ノ名ニ於テ自主ヲ実行シ以テ保境安民ヲ計ル東北大局定マリ政權帰スル所アラハ即チ統轄ニ隸屬スヘシ云々

支、北平、奉天ヘ転電シ哈爾賓、吉林、長春、鉄嶺、齊齊哈爾ヘ暗送セリ

568 昭和6年12月7日 在鄭家屯大和久領事より 幣原外務大臣宛

張海鵬の独立宣言文訳報について

ニアリ民意矯造タリ以テ国家ノ元氣復セス海内ノ分崩直チニ来ル誰カ勵センヤ此レ其一ナリ

其後牛耳ヲ執リ相繼イテ秉政重兵ヲ擁スル者自ラ起リ國計ヲ云フモ已ニ秦越相關セス若シ利權ニ関シテハ干戈ヲ逞フスルモ敢テ惜マス權威已ニ喪尽政令門ヲ出テス奸人跋扈シテ軍閥紛起ス遂ニ内乱私争已マサルニ至ル人民塗炭問フニ堪ヘス此レ其二ナリ

蔣氏國ニ當リ党ニ藉リ權ハ專制ニシテ國事ヲ視ル鴻毛ノ如シ瀆職鬻官シ姻婭悉ク要路ニ抛ル婦女ヲ寵愛嬌嬖人皆男ヲ生ムヲ厭フノ感アリ胡、李ヲ幽拘シ群情為ニ不安ヲ感ス擅リニ外禍ヲ起シ内争ヲ召キ人民ノ性命ヲ自己ノ犠牲トナシテ惜マス此其三ナリ

張學良ハ數省人民ノ寄託ノ重全國ノ副帥タルモ乳臭未タ乾カス童心猶存ス鹿ヲ指シテ馬トナス擅ニ同僚ヲ殺シ木ニ縁ツテ魚ヲ求ム燕晋ヲ吞マントシテ國計民生ヲ顧ミス宴ヲ張り毒ニ耽ルヲ懷トナス東北人民之力為ニ無言ノ苦ヲ受ク此レ其四ナリ

以上四項ヲ以テ詳ナリ総シテ之レヲ云ハハ事変以後彼等當局ハ肇衅ノ由来ノ如何ヲ思ハスシテ弭救ノ策ヲ思フ竟ニ遷

延数ヶ月ニ及ヒ徒ニ空言ニ託シタルハ大ナル誤ナリ張海鵬ハ半生ヲ戎馬ニ暮シ世変ノ経験ニ富ミ功名富貴ヲ度外ニ置ク元来敢テ妄ニ時事ヲ計ラス惟タ蒙辺人民ノ難苦ヲ念ヒ往事ノ蹉跎ヲ嘆シ殊ニ民間ノ疾苦ヲ憤慨シテ悽惶タリ因テ特ニ茲ニ宣言ス国民政府及北平行営ト関係ヲ離脱シ嗣後本軍至ル所ノ地方ハ均シク海鵬カ蒙辺督弁ノ名ニ依リ自主ヲ実行シ以テ保境安民ニ資ス東北大局定マリ政權帰スルヲ待ツテ統轄ニ隸属シ以テ体制ニ符ス惟タ我父老兄弟幸ニ共ニ鑑ヨ

以上

569 昭和6年12月8日 ※在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

関東軍司令官の親書に対する湯玉麟の態度に
ついて

北平 12月8日後発
本省 12月9日前着

第七三〇号（暗、部外極秘）

牟田ヨリ

第八号

（五六六文書）
往電第七号ニ関シ

第九号

（五六九文書）
貴電第八号ニ関シ

現在湯玉麟ノ治警軍ハ熱河ヨリ北票ニ至ル省境地方ニ駐在シ居リ前面ニハ学良軍背面ニハ既報ノ通態度曖昧ナル土着軍三個旅アリ若シ玉麟カ反学良態度ヲ明カニスルトキハ雙方ヨリ挾撃セラルル惧アルノミナラス其軍隊ハ給料不渡ノ為飽迄玉麟ノ為戦フヤ疑アリ更ニ地方民モ玉麟多年ノ虐政ニ深キ怨ミヲ抱キ居リ或ハ往年汲金純カ熱河退却ノ時ノ如ク各所ニ立チテ湯軍ヲ討ツニ至リ熱河ハ大混乱ヲ生スヘシ尚又若シ学良軍カ熱河ニ入ルコトアランカ東三省新政權ニ対スル脅威鮮カラス仮令湯ヲ援助シテ之ヲ駆逐セシメムトスルモ交通不便物資欠乏ノ為実行容易ナラサルヘシ依テ此際ハ寧ロ玉麟ヲシテ出来得ル限り自重セシメ内部ノ統制ニ努メテ奉軍ノ侵入ヲ避ケシメ自然ノ内ニ東三省新政權ニ合流セシムルヲ可ト思考ス玉麟トシテモ蹶起スル以上万全ノ策ヲ採ルヘキモ或ハ熱河省ハ棄テテモ奉天中央ノ地位ヲ得ントスル野心ナキニアラサルヘシ

何等御参考迄
公使、奉天ニ転電シ、北平ニ転報セリ

其後尚辻口ノ内話左ノ通

関東軍司令官ノ親書中ニハ更ニ若シ奉軍カ関外進出ヲ企ツル場合ハ湯玉麟ハ我軍ノ指図ニ依リ一時之ヲ阻止スヘシ其後ノ一切ハ（湯ノ身ノ振方トモ）軍ニテ責任ヲ負フヘシトアリ玉麟ハ自分従来ノ学良ニ対スル態度ニ顧ミ斯ル場合ハ熱河モ奉軍ノ侵略ヲ蒙ムル事当然故日本軍ノ援助サヘアレハ「東北四省民衆ノ苦痛ヲ救フ」旨ノ通電ヲ発シテ立ツヘシ尤其場合モ銃器ノ補充ヲ受クルヲ要スヘシ（機密公第一四六号拙信）ト答ヘタリ尚熱河ハ赤峰居留民引揚ケ當時ヨリ更ニ緊張シ旅行者ノ取締嚴重ヲ加ヘ且途中盛ニ「トラクター」ヲ以テ「ガソリン」ヲ北平ヨリ熱河ヘ運搬シ居タリ支、奉天ヘ転電シ北平ヘ転報セリ

570 昭和6年12月9日 ※在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

湯玉麟への対策について

北平 12月9日後発
本省 12月9日後着

第七三三号（暗）

牟田ヨリ

571 昭和6年12月9日 在奉天森島総領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

満州における諸機関統一に關し軍司令官の下
に統治部設置の軍側意向について

奉天 12月9日後発
本省 12月9日後着

第一五〇三号（部外極秘）

最近新聞所報満州ニ於ケル諸機関統一ノ儀ニ関シ満鉄側ノ確実ナル情報ニ依レハ当地軍ニ於テハ現在ノ過渡期ニ於テハ右設置ニ反対ノ意見ヲ有シ過渡機関ノ制度トシテハ（一）軍司令官ノ下ニ幕僚部ノ外統治部ヲ設置スルコト（二）統治部ハ大体現在ノ司令部第三課（統治課）ヲ拡張ノ上充当スルコト（三）統治部ニハ勅任部長ノ下ニ行政財務産業交通交渉等ノ各課ヲ設ケ統治部職員ハ武官ヲ以テ当テ得ルコトトスルノ意向ヲ有シ居ル趣ナリ

572 昭和6年12月9日 在奉天森島総領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

日本の満蒙政策遂行機関に關する満州日報記事について

第一五二二号

奉天 12月9日後発
本省 12月10日前着

九日米國領事「ビンセント」ハ館員ニ対シ八日満州日報掲載「日本ノ滿蒙政策遂行機關ニ関スル関東軍当局ノ内意ハ滿蒙獨立國家成立前ハ日本軍部ノ独裁政治ヲ又成立後ハ滿州總督制ヲ妥当トシ前者ハ支那軍閥防禦ノ必要ニ依ル過渡的機關ニシテ後者ハ顧問府ト称シ滿蒙國是ヲ完成シ得ル有力ナル機關トシ共ニ政治經濟交通ノ各機關ヲ包含セシムルニアリ」トノ趣旨ノ記事ニ言及シ大要左ノ如ク語レル趣ナリ

右記事カ何ノ程度ニ軍部ノ意向ヲ表明スルモノナリヤ明カナラサルモ從來行ハレタル種々ノ滿州新國家說ニ比シ遙ニ具体的且理論的ニシテ軍部ノ意向ヲ明瞭ニ看取シ得ヘキヤニ思考ス極言スレハ他國カ日本ノ立場ニアラハ今頃ハ同様ノ意見ヲ發表シ居ルナラント考ヘラル位ナルカ右ハ少クトモ当地支那側首腦者トモ協議済ノモノニアラスヤト想像セラル尚現在ニ於テモ支那側行政機關ニ軍ノ諒解ニ依ル顧問入込ミ居リ主要金融機關カ軍ノ指図ノ下ニアルハ軍部独

二団長馮占海ノ部下ハ改メテ同政府衛隊団トナリ兵力約六千余名ニ及ヒ居ル趣ナリ

尚張景惠ハ江省時局安定ヲ俟チ前記政府ヲ一掃スヘシト称シ居ル趣ナリ

支、北平、奉天、吉林、齊齊哈爾ニ転電セリ

574 昭和6年12月11日 在鄭家屯大和久領事より
幣原外務大臣宛（電報）

遼源県における自治執行委員會の組織について

鄭家屯 12月11日後発
本省 12月11日後着

第五八号（暗）

当地遼源県ハ事変後地方維持会ヲ組織シ地方行政ヲ処理シ来リタル処斯クテハ奉天新政權トノ連絡上支障アルニ付新制度ニ基キ省ノ指導部ヨリ指導員ヲ派シ右維持会ヲ解散シ自治執行委員會ヲ組織スルコトナリ去ル八日奉天ヨリ指導員一名（滿鉄社員）来着同時ニ当地滿鉄公所員二名指導員ニ任命セラレ右指導員指導ノ許ニ自治執行委員會組織中ナルモ從來ノ維持会ヲ其儘踏襲シ内容ニハ変化ヲ来ササル

裁政治ノ一步ト見得ヘク日本ノ援助ニ依ル新國家ノ建設ハ九國條約トノ關係モアリ複雑ナル問題ヲ惹起スルナキヤラ真ル云々

支、北平へ転電セリ

573 昭和6年12月11日 在ハルビン大橋総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

實県に設置された反熙洽派省政府の組織等について

ハルビン 12月11日後発
本省 12月11日後着

第七五三号（暗）

過般賓県ニ設立サレタル反熙洽派吉林省政府ハ其ノ後モ引続キ活動シ居ルカ如ク右ニ関シ十一日漢字紙哈爾濱公報ノ報スル処左ノ通
同政府ノ組織一切完備シ誠允主席ニ就任民政庁長ヲ兼テ教育庁長孫象乾実業庁長馬德恩建設庁長王宝善財政庁長徐某夫々就任シ各部職員又等シク多忙裡ニ執務シ居ル処同政府ノ支配ヲ受クルモノ既ニ二十九県ニ達シ穆陵及方正兩県長最近更迭シ穆陵県長ニハ畢興州ヲ承認シ又陸軍第六百八十

模様ナリ委細公信

支、奉天へ転電セリ

北平、哈爾濱、吉林、長春、鉄嶺、齊齊哈爾へ暗送セリ

575 昭和6年12月14日 在奉天林総領事より
犬養外務大臣宛（電報）

滿州における諸機關統一の構想に関する軍司令官の内話について

奉天 12月14日後発
本省 12月14日後着

第一五三一号

滿州ニ於ケル諸機關統一ノ議ニ関シ十三日軍司令官ノ内話ニ依レハ当地軍部トシテハ參謀長ノ下ニ幕僚部ト統治部トヲ設ケ統治部部長ニハ駒井囑託ヲ任命スルコトトシタキ意向ニテ其旨既ニ中央軍部へ進言セル趣ナリ御参考迄

576 昭和6年12月14日 在奉天林総領事より
犬養外務大臣宛（電報）

軍側において臧式毅を釈放の上時局收拾のため起用について

奉天 12月14日後発

第一五三二号（暗、極秘）
本省 12月14日後着

臧式毅ハ十三日夜釈放セラレ自宅へ帰リタルカ信スヘキ筋ヨリノ情報ニ依レハ軍側ニ於テ時局ヲ收拾セシムルコトトシ各省政府主席ヲモ当地ニ召集スル意向ニテ右ニ関シ本十四日板垣参謀ハ臧ニ会見交渉セル趣ナリ
支、北平、哈爾濱、吉林へ転電セリ

577 昭和6年12月15日
在奉天林総領事より
犬養外務大臣宛（電報）

臧式毅の奉天省長就任の経緯および独立新家構想に関する趙欣伯の内話について

奉天 12月15日後着
本省 12月15日後着

第一五三七号（暗、極秘）
往電第一五三二二号ニ関シ

十四日趙欣伯カ森岡ニ内話セル処ニ依レハ臧式毅ハ軍部並ニ自分ノ勧告ニ依リ奉天省長就任方ヲ承諾シタルヲ以テ十四日中ニ総商会ヲ中心トスル有力市民一致推薦ノ形式ヲ以テ正式発表ノ予定ナリ袁金鎧ハ全然行政的手腕ヲ欠キ且暗

於テ省長就任式ヲ挙行シ次テ十六日地方維持委員会会員及各機關ハ何レモ辞表ヲ提出セリ右ニ関スル各界法団ノ宣言文ハ別途郵送
支、北平、南京、哈爾濱、吉林、齊齊哈爾、天津へ転電セリ

579 昭和6年12月16日
在奉天林総領事より
犬養外務大臣宛（電報）

関東軍統治部の組織について

奉天 12月16日後着
本省 12月16日後着

第一五四二号
往電第一五三一号ニ関シ

統治部ハ十八日開設駒井囑託ヲ部長トシ行政、交通、産業各課課長ニハ満鉄社員ヲ交渉課長ニハ河相関東庁外事課長（交渉中）ヲ又財務課長ニハ前満鉄社員ヲ任命スルコトニ内定セル由
在支公使、北平、在満州各領事へ転電セリ

暗裡ニ張学良ト連絡セル疑アリ将来張学良カ奉天ニ復帰スル場合ヲ予想シ正式省政府組織ニ反対スル事情アルヲ以テ新国家樹立ノ為（ニ）ハ是非共臧ヲ起用シ袁ヲ排斥スル必要上右様ノ手段ニ出テタルモノト臧カ省長ニ就任ノ後ハ最近ノ機会ニ於テ熙洽張景惠ヲ奉天ニ召集シ三人協議ノ上東三省連合独立新国家ノ機構ヲ定メ日本其ノ他各国ニ対シ承認ヲ要求スル手筈ナリトノコトナリ

578 昭和6年12月16日
在奉天林総領事より
犬養外務大臣宛（電報）

臧式毅の奉天省長就任について

奉天 12月16日後着
本省 12月16日後着

第一五四〇号
往電第一五三七号ニ関シ

十五日午後一時在奉全市紳商農工各界代表約四百名商工總會ニ会合シ臧式毅ヲ公選シテ省長ト為シ正式省政府ヲ組織セシムルト同時ニ地方維持委員会ニ対スル自発的解散勸告状ヲ決議シ袁金鎧ノ諒解ヲ求メタル後袁金鎧、趙欣伯及各界代表者数名臧式毅ヲ訪問シテ同意ヲ得午後四時省政府ニ

580 昭和6年12月16日
在奉天林総領事より
犬養外務大臣宛（電報）

関東軍の満州新国家建設計画に關し中央において根本方針を決定訓令方意見具申について

奉天 12月16日後着
本省 12月16日後着

第一五四四号（暗、部外極秘）

所謂満州新国家建設計画ハ当方面一般ニ喧伝セラレ外国領事及通信員ヨリモ種々質問アル次第ハ累次往電ニ依リ御承知ノ通ナル処当地軍部ノ一部ニテハ早クモ新国家ノ承認問題迄モ研究シツアル者アル模様ニテ此儘ニ推移スルニ於テハ遂ニハ九国条約トノ抵触問題乃至同条約ニ依ル國際會議開催案等ノ厄介ナル事態ヲ惹起スルノ惧アリ卑見ニ依レハ満州ニ樹立セラルヘキ新政權ニハ往年ノ張作霖政權ノ如ク實質上中央政權ト離レタル一種ノ自治的形態ヲ備ヘシメ我方ハ之ヲ相手トシテ必要ノ経綸ヲ行フ事最機宜ニ適スト存セラル当地軍部ニ対シテモ機会アル毎ニ此点ニ付注意喚起方ニ努メツアルモ此際政府ニ於テ本件ニ関スル根本方針ヲ決定シ中央軍部ヨリ出先軍部ニ対シ明確ナル訓令ヲ發

セシメラルル様至急御配慮方切望ニ堪ヘス
支へ転電セリ

581 昭和6年12月16日 三宅関東軍参謀長より
二宮参謀次長宛(電報)

関東軍司令部の滿蒙經營方針に関する新聞公表について

12月16日後発
12月16日後着

関参第六三二号(其一、二)

軍ハ本十六日新聞ニ対シ左記ノ通り公表セリ

左記

関東軍司令部公表

黒竜江軍憲ニ対シ軍ハ帝國政府ノ意ヲ体シテ隱忍自重一ニ
和平ノ解決ニ努力セルカ自衛上止ムナク起ツテ嫩江河畔ニ
之ヲ迎撃シ幸ニモ一挙之レヲ撃退シ中外ニ対シ皇軍ノ威武
ヲ宣揚スルヲ得タリ、是レ一ニ上皇威ノ然ラシムル所ナル
ト共ニ下將兵ノ忠烈勇武ニシテ衆庶ノ熱烈ナル後援アリシ
ニ依ラスンハアラス、今ヤ奉天、吉林ノ兩省各々自立ノ形
態ヲ整ヘ旧政權ト断チ黒竜江省其陣容ヲ更変シ熱河省並ニ

上海 12月18日後発
本省 12月18日後着

第九二七号(略)

十八日ノ「イヴニング・ポスト」ハ十七日奉天発特電トシ
テ同社奉天通信員ノ臧式毅往訪記ヲ掲載セルカ右中ニテ同
通信員ハ臧ニ面会セントセルカ日本人秘書ニ干涉セラレテ
果サス漸ク其支那人秘書李某ニ面会スルヲ許サレタルカ該
秘書ハ同人ニ対シ臧自身ハ外国新聞記者トノ会見ヲ切望シ
居ルモ日本側ヨリ禁セラレ居ル旨ヲ述ヘ且ツ臧カ日本軍人
奉天占領後三ヶ月間軍ノ為ニ監禁セラレ来ル為全然現下時
局ノ状勢ヲ知ラス又日本新聞ニ現ハレタル臧力張學良及蔣
介石ノ攻撃ヲ声明シ錦州政府攻撃ヲ日本軍ニ要求セリトノ
報道ハ事実ニアラス但シ多分日本軍部ニ於テ錦州侵略ノ非
難ヲ免レンカ為臧ニ於テ斯ル要求ヲナセリト云ヒ触ラスヘ
シ臧ハ今尚日本側ノ嚴重ナル監視ノ下ニ在リ何等行動ノ自
由ヲ有セス其省政府主席就任ハ現下ノ無政府状態ノ継続ニ
依リ所有財産ヲ失フヲ恐レタル地方省民ノ切望ニ依ルモノ
ナリト内話セル旨述ヘ居レリ
公使へ転報シ北平、南京へ転電セリ

内蒙亦恰モ是レ等ニ響応スルニ似タリ、在滿蒙三千万民衆
皆等シク善政ヲ渴仰シ帰結スル何者カヲ庶幾シツツアリ、
恨ムラクハ未タ遼西ノ一角ニ蟠居シテ或ハ匪賊ヲ使嚇シ劫
掠ヲ恣ニシ治安ヲ紊リ或ハ宣伝等巧ニシテ曲ヲ蔽ヒ安寧ヲ
妨クルモノアリ庶民其患ヲ憂フルコト切ナリ

然レ共大局ヨリ之ヲ見レハ在滿蒙諸民族ノ協力宜キヲ得テ
前後ノ諸經營日ニ月ニ面目ヲ一新シ来ルハ喜フヘキ現象ニ
シテ建設ノ機運到ル処潑刺トシテ躍動セルヲ看取シ得ルモ
ノアリ

軍ハ以上ノ情勢ニ鑑ミ特ニ其進止ヲ公明ナラシメ諸般ノ協
調ヲ緊密ニシ孜々トシテ治安維持ヲ完ウシ民心安定ヲ計リ
以テ向後ノ開展ヲ容易ナラシメ徐ロニ大勢ノ帰趨ヲ静觀セ
ントス

若シ夫レ軍ノ行動ヲ妨ケ安寧秩序ヲ破壊スルモノアランカ
断乎トシテ之レヲ排撃スルノ用意ニ遺憾ナカラシメアリ

582 昭和6年12月18日 在上海村井総領事より
犬養外務大臣宛(電報)

イヴニング・ポスト紙奉天通信員による臧式毅往訪記について

583 昭和6年12月19日 在奉天林総領事より
犬養外務大臣宛(電報)

臧式毅奉天省長就任に伴なう人事について

奉天 12月19日後発
本省 12月19日後着

第一五五七号(平)

臧式毅奉天省長就任ニ伴ヒ財政庁長及実業庁長更迭シ十八
日付ヲ以テ趙鵬第省政府秘書長兼財政庁長ニ梁玉書ヲ実業
庁長ニ任命セリ尚奉天市長兼最高法院院長趙欣伯東三省交通
委員会長兼瀋海鐵路局長丁鑑修及東三省官銀号総弁吳恩培
ハ何レモ留任トナレリ

転電先 在支公使、北平、吉林、哈爾濱

584 昭和6年12月19日 在奉天林総領事より
犬養外務大臣宛(電報)

袁金鎧の奉天省政府最高顧問任命について

奉天 12月19日後発
本省 12月19日後着

第一五五八号(平)

往電第一五四〇号末段ニ関シ

地方維持会自然消滅ノ結果袁金鎧ハ改メテ奉天省政府最高顧問ニ任命セラルル事トナリ一兩日中ニ正式発表ノ筈尚新省政府開庁式ハ二十一日挙行ノ予定
公使、北平、吉林、哈爾濱へ転電セリ

585 昭和6年12月21日 在奉天林総領事より
大義外務大臣宛（電報）

奉天省政府成立式挙行について

奉天 12月21日後発
本省 12月21日後着

第一五六六号（平）

二十一日午前十一時奉天省政府成立式挙行セラレタリ
公使、北平へ転電セリ

586 昭和6年12月21日 在奉天林総領事より
大義外務大臣宛（電報）

満州新国家の機構ならびに滿蒙都督設置に關する軍部立案の大意について

奉天 12月21日後発
本省 12月21日後着

第一五六七号（暗、部外極秘）

度を滿鉄沿線の他東辺道区域に実施について

奉天 12月23日後着
本省 12月23日後着

第一五七五号（暗）

往電第一一二六号ニ関シ

県自治執行委員会並県自治指導委員会ノ新制度ハ既ニ滿鉄沿線二十二県ニ亘リ実施セラレ従来ノ県長ノ名ヲ廃シ県自治執行委員長ナルモノカ奉天省長ノ指揮監督ノ下ニ地方行政ノ責任ニ任シ県自治指導委員長（全部日本人）ハ奉天自治指導部長監督ノ下ニ県自治指導ノ任ニ当リ居ル処今回軍側ニ於テハ更ニ右制度ヲ東辺道一帯于芷山管轄区域ニモ拡張実施スル方針ニ決シ同地方各県自治指導委員長着々任命セラレ赴任シツツアリ

公使、北平、在満州各領事ニ転電セリ

3 北平における反応

588 昭和6年9月19日 在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

事件勃発と日本政府との関係等に関する張学

信スヘキ筋ヨリノ情報ニ依レハ満州新国家ノ機構並滿蒙都督設置ニ関シ当地軍部内ニ於テ立案セルモノ大要左ノ通ナリト言フ

(一)、新国家ニハ主権者ノ下ニ民族委員会（日、鮮、滿、蒙、回ノ六民族）参議院、顧問府及内閣ヲ置キ内閣ノ下ニ奉天、吉林、黑竜江、熱河ノ四省、東蒙自治区、自治指導部及新軍隊ヲ置ク新軍隊ハ地方治安維持ノミニ其ノ任務ヲ限定ス（尚新国家ノ海軍ニ関シテハ日本ヨリ旅順港ヲ再租借シテ根拠地ト為シ潜水艦ヲ備ヘ以テ倫敦条約ニ依ル日米海軍比率ノ欠点ヲ調整スル案ニ付研究中ナル由）

(二)、滿蒙都督ノ下ニ滿州軍司令官、民政庁、鉄道庁及関東州庁ヲ置キ滿州軍ハ駐劄師団（三箇師団）ト鉄道守備隊（二十四箇大隊、軍事上必要ノ鉄道ニ配置）ヲ以テ組織ス民政庁ニハ滿鉄ノ行政事務ヲ移管シ関東州庁ノ權限ハ関東州内ノ行政ノミニ限定ス

587 昭和6年12月23日 在奉天林総領事より
大義外務大臣宛（電報）

県自治執行委員会ならびに自治指導委員会制

良側の意向について

北平 9月19日後発
本省 9月19日後着

第四一二号

⁽¹⁾十九日朝湯爾和張学良ノ命ヲ含ミテ來訪奉天事件ニ関シ只今迄学良ト相談ノ上來訪セリトテ左ノ通話レリ

一、実ハ昨夜十時日本兵數十人奉天北大営背面ノ壁ヲ破壊シ進入射撃ヲ開始シタルニ付隊長ヨリ賊式殺ニ指揮ヲ仰キタルニ賊ハ日本軍ニ応射スルコトナク武器等ハ倉庫ニ藏メタル上退去スヘシト命シタル趣ニテ同兵營ハ間モナク占領セラレ同時ニ兵工廠モ占領セラレタリ引続キ商埠地内ノ電信電話警察等全部占領セラレ更ニ今朝四時ニ至リ城内ニ進入各官署及元帥府モ占領シ爾後奉天ヨリノ通信ハ完全ニ杜絶セリ尚今朝ニ至リ皇姑屯モ占領セラレタリ

二、本件發生スルヤ賊主席ハ直ニ林総領事ニ電話シ五分間以内ニ軍隊ノ行動制止方申入レタルニ同総領事ハ十分ノ猶予ヲ求メタルカ其後軍事行動ハ引続キ進行セルヲ以テ再ヒ賊ヨリ同総領事ニ電話セルニ総領事ハ軍事行動ハ制